



Cisco Identity Services Engine Release 1.1.x CLI リファレンス ガイド

2012 年 7 月

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。**

**本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。**

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知られていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Identity Services Engine Release 1.1.x CLI リファレンス ガイド
© 2012 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2012, シスコシステムズ合同会社.

All rights reserved.



CONTENTS

はじめに	vii
対象読者	vii
マニュアルの使用方法	vii
マニュアルの構成	viii
表記法	viii
マニュアルの更新	ix
関連資料	ix
通告	x
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	xii

CHAPTER 1

Cisco ISE コマンドライン インターフェイスの概要	1-1
Cisco ISE コマンド環境へのアクセス	1-1
Cisco ISE CLI のユーザ アカウントおよびモード	1-1
Cisco ISE CLI でのコマンド モード	1-4
EXEC コマンド	1-5
EXEC コマンドまたはシステムレベル コマンド	1-5
show コマンド	1-6
コンフィギュレーション コマンド	1-8
CLI 監査	1-9

CHAPTER 2

Cisco ISE コマンドライン インターフェイスの使用	2-1
Cisco ISE CLI にアクセスする前に	2-1
Cisco ISE を設定するためのセットアップの実行	2-1
Cisco ISE CLI へのアクセス	2-3
サポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム	2-3
セキュア シェルを使用して CLI を開く	2-4
ローカル PC を使用した CLI の開始	2-4
コマンド モードについて	2-5
EXEC モード	2-5
コンフィギュレーション モード	2-7
コンフィギュレーション サブモード	2-8
CLI コマンドの使用方法	2-10
ヘルプの利用方法	2-10

[コマンドの no 形式と default 形式の使用](#) 2-10
[コマンド ラインの表記法](#) 2-11
 [コマンドライン編集キーの表記法](#) 2-11
 [コマンド ラインのコンプリート機能](#) 2-11
 [--More-- プロンプトでの出力続行](#) 2-12
[次の作業](#) 2-12

APPENDIX A

Cisco ISE コマンド リファレンス A-1

[EXEC コマンド](#) A-2
 [application configure](#) A-2
 [application install](#) A-4
 [application remove](#) A-6
 [application reset-config](#) A-7
 [application reset-passwd](#) A-9
 [application start](#) A-10
 [application stop](#) A-12
 [application upgrade](#) A-13
 [backup](#) A-14
 [backup-logs](#) A-16
 [clock](#) A-17
 [configure](#) A-19
 [copy](#) A-20
 [debug](#) A-23
 [delete](#) A-27
 [dir](#) A-27
 [exit](#) A-30
 [forceout](#) A-31
 [halt](#) A-31
 [help](#) A-32
 [mkdir](#) A-33
 [nslookup](#) A-34
 [patch install](#) A-35
 [patch remove](#) A-37
 [pep](#) A-38
 [ping](#) A-41
 [ping6](#) A-42
 [reload](#) A-43
 [restore](#) A-45
 [rmdir](#) A-46
 [show](#) A-47

ssh	A-49
tech	A-50
telnet	A-51
terminal length	A-52
terminal session-timeout	A-53
terminal session-welcome	A-53
terminal terminal-type	A-54
traceroute	A-54
undebug	A-55
write	A-57
show コマンド	A-59
show application	A-60
show backup history	A-62
show cdp	A-62
show clock	A-65
show cpu	A-65
show disks	A-67
show icmp-status	A-69
show interface	A-70
show inventory	A-72
show logging	A-73
show logins	A-75
show memory	A-76
show ntp	A-76
show pep	A-77
show ports	A-83
show process	A-85
show repository	A-86
show restore	A-87
show running-config	A-88
show startup-config	A-89
show tech-support	A-90
show terminal	A-92
show timezone	A-93
show timezones	A-93
show udi	A-95
show uptime	A-95
show users	A-96
show version	A-97
コンフィギュレーション コマンド	A-97

[backup-staging-url](#) A-99
[cdp holdtime](#) A-99
[cdp run](#) A-100
[cdp timer](#) A-101
[clock timezone](#) A-102
[do](#) A-104
[end](#) A-107
[exit](#) A-107
[hostname](#) A-108
[icmp echo](#) A-109
[interface](#) A-110
[ipv6 address autoconfig](#) A-111
[ipv6 address dhcp](#) A-113
[ip address](#) A-114
[ip default-gateway](#) A-115
[ip domain-name](#) A-116
[ip name-server](#) A-116
[ip route](#) A-117
[kron occurrence](#) A-118
[kron policy-list](#) A-120
[logging](#) A-121
[ntp](#) A-122
[ntp authenticate](#) A-123
[ntp authentication-key](#) A-124
[ntp server](#) A-126
[ntp trusted-key](#) A-128
[password-policy](#) A-129
[repository](#) A-130
[service](#) A-132
[shutdown](#) A-133
[snmp-server community](#) A-134
[snmp-server contact](#) A-135
[snmp-server host](#) A-136
[snmp-server location](#) A-137
[username](#) A-137

GLOSSARY

INDEX



はじめに

このマニュアルでは、マンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、Cisco Identity Services Engine (ISE) リリース 1.1 および 1.1.1 をどのように設定および保守できるかを説明します。各トピックでは、小規模、中規模、および大規模な Cisco ISE の配置用のサポートされているアプライアンスで実行している Cisco Application Deployment Engine (ADE) OS リリース 2.0 で Cisco ISE 用の CLI を使用するために必要なタスクの概要を大まかに示します。

ここでは説明する内容は次のとおりです。

- 「対象読者」 (P.vii)
- 「マニュアルの使用方法」 (P.vii)
- 「マニュアルの構成」 (P.viii)
- 「表記法」 (P.viii)
- 「マニュアルの更新」 (P.ix)
- 「関連資料」 (P.ix)
- 「通告」 (P.x)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.xii)



(注)

このガイドは、「[関連資料](#)」 (P.ix) に示す各ドキュメントとあわせて使用してください。

対象読者

このガイドの説明は、ほとんどがわかりやすい内容ですが、中には複雑な事項も含まれています。このような説明は、上級ユーザのみを対象としています。



(注)

このガイドは、「[関連資料](#)」 (P.ix) に示す各ドキュメントとあわせて使用してください。

マニュアルの使用方法

このガイドは、次のように使用することをお勧めします。

- 全体を通して読んでください。各章の説明は、それ以前の章の情報や推奨事項を前提としていません。

- このガイドは、Cisco ISE アプライアンスに関する包括的な情報を含むドキュメントとして使用してください。
- コマンドラインの表記法を変更しないでください（「表記法」(P.viii) を参照）。

マニュアルの構成

このガイドは、次の項で構成されています。

章	タイトル	説明
第 1 章	「Cisco ISE コマンドライン インターフェイスの概要」	Cisco ISE CLI 環境とコマンド モードの概要について説明します。
第 2 章	「Cisco ISE コマンドライン インターフェイスの使用」	CLI から Cisco ISE にアクセスし、管理する方法について説明します。
付録 A	「Cisco ISE コマンド リファレンス」	すべての CLI コマンドについて詳細に説明します。

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用して手順および情報を表示しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワード。
イタリック体	ユーザが値を指定する変数。
[]	角カッコ内の要素は、省略可能です。
{x y z}	必須キーワードの選択肢は波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。いずれか 1 つを必ず選択します。
courier フォント	画面に表示される情報の例を表します。
太字の courier フォント	ユーザが入力しなければならない情報を表します。
< >	非表示の文字（パスワードなど）は、山カッコで囲んで示します。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。



(注)

「注釈」です。次に進む前に検討する必要がある重要情報、役に立つ情報、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント

「問題解決に役立つ情報」です。役立つ情報には、手順やトラブルシューティングのヘルプは含まれていないが、有用な情報が記載されている場合もあります。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

マニュアルの更新

表 1 『Cisco Identity Services Engine Release 1.1.x CLI リファレンス ガイド』への更新

日付	説明
2012年 7 月 10 日	Cisco Identity Services Engine, Release 1.1.1
2012年 3 月 19 日	Cisco Identity Services Engine, Release 1.1

関連資料

Release-Specific のマニュアル

表 2 には、Cisco ISE リリースで入手可能な製品資料がリストされています。Cisco ISE の一般的な製品情報は、<http://www.cisco.com/go/ise> で取得できます。エンドユーザ向けのマニュアルは、Cisco.com (http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/tsd_products_support_series_home.html) で入手できます。

表 2 Cisco Identity Services Engine の製品マニュアル

マニュアル名	参照先
<ul style="list-style-type: none"> 『Release Notes for the Cisco Identity Services Engine, Release 1.1』 『Release Notes for the Cisco Identity Services Engine, Release 1.1.1』 	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_release_notes_list.html
<ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Identity Services Engine Network Component Compatibility, Release 1.1』 『Cisco Identity Services Engine Network Component Compatibility, Release 1.1.1』 	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_device_support_tables_list.html
<ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.1』 『Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.1.1』 	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_user_guide_list.html
<ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide, Release 1.1』 『Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide, Release 1.1.1』 	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_installation_guides_list.html
『Cisco Identity Services Engine Upgrade Guide, Release 1.1.1』	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_installation_guides_list.html

表 2 Cisco Identity Services Engine の製品マニュアル (続き)

マニュアル名	参照先
『Cisco Identity Services Engine Migration Guide for Cisco Secure ACS 5.1 and 5.2, Release 1.1.x』	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_installation_guides_list.html
『Cisco Identity Services Engine Sponsor Portal User Guide, Release 1.1.x』	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_user_guide_list.html
『Cisco Identity Services Engine CLI Reference Guide, Release 1.1.x』	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_command_reference_list.html
『Cisco Identity Services Engine API Reference Guide, Release 1.1.x』	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_command_reference_list.html
『Cisco Identity Services Engine Troubleshooting Guide, Release 1.1.x』	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_troubleshooting_guides_list.html
『Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Identity Services Engine, Cisco 1121 Secure Access Control System, Cisco NAC Appliance, Cisco NAC Guest Server, and Cisco NAC Profiler』	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_installation_guides_list.html
『Cisco Identity Services Engine In-Box Documentation and China RoHS Pointer Card』	http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_documentation_roadmaps_list.html

Platform-Specific のマニュアル

Policy Management Business Unit のマニュアルは、www.cisco.com の以下の場所から入手できます。

- Cisco ISE
http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_installation_guides_list.html
- Cisco Secure ACS
http://www.cisco.com/en/US/products/ps9911/tsd_products_support_series_home.html
- Cisco NAC アプライアンス
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6128/tsd_products_support_series_home.html
- Cisco NAC Profiler
http://www.cisco.com/en/US/products/ps8464/tsd_products_support_series_home.html
- Cisco NAC ゲスト サーバ
http://www.cisco.com/en/US/products/ps10160/tsd_products_support_series_home.html

通告

本ソフトウェア ライセンスに関連する通知内容を以下に示します。

OpenSSL/Open SSL Project

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

License Issues

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License:

Copyright © 1998-2007 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)".
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)".

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License:

Copyright © 1995-1998 Eric Young (ey@cryptsoft.com). All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscape's SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)".

The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptography-related.

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)".

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The license and distribution terms for any publicly available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution license [including the GNU Public License].

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



CHAPTER 1

Cisco ISE コマンドライン インターフェイスの概要

この章では、Cisco ISE コマンドライン インターフェイス (CLI) へのアクセス方法、さまざまなコマンドモード、および各モードで利用できるコマンドの概要を説明します。

Web インターフェイスを通じて Cisco ISE を設定し、監視できます。また、CLI を使用して、このガイドで説明するコンフィギュレーションと監視のタスクを実行することもできます。

これ以降の各項では、Cisco ISE CLI について説明します。

- 「[Cisco ISE コマンド環境へのアクセス](#)」 (P.1-1)
- 「[Cisco ISE CLI のユーザ アカウントおよびモード](#)」 (P.1-1)
- 「[Cisco ISE CLI でのコマンドモード](#)」 (P.1-4)
- 「[CLI 監査](#)」 (P.1-9)

Cisco ISE コマンド環境へのアクセス

Cisco ISE CLI へは、次のいずれかのマシンを使用して、セキュア シェル (SSH) クライアントまたはコンソール ポート経由でアクセスできます。

- Windows XP または Vista の Windows PC
- Mac OS X 10.4 以降のアップル コンピュータ
- Linux の PC

CLI へのアクセス方法の詳細については、[第 2 章「Cisco ISE コマンドライン インターフェイスの使用」](#)を参照してください。

Cisco ISE CLI のユーザ アカウントおよびモード

Cisco ISE CLI では、次の 2 種類のアカウントが使用できます。

- Admin (管理者)
- Operator (ユーザ)

Cisco ISE アプライアンスに初めて電源を入れたときに、**セットアップ** ユーティリティを実行してアプライアンスを設定するように求められます。このセットアッププロセスで、管理者用の **Admin** アカウントが作成されます。初期コンフィギュレーション情報を入力すると、アプライアンスは自動的に再起動し、**Admin** アカウントで指定したユーザ名とパスワードの入力が求められます。また Cisco ISE CLI に最初にログインするときにも、この **Admin** アカウントを使用する必要があります。

管理者は、(Cisco ISE サーバへの権限とアクセスが制限された) **Operator** (ユーザ) アカウントを作成して管理できます。**Admin** アカウントは、Cisco ISE CLI を使用するために必要な機能を提供します。

Cisco ISE CLI に SSH アクセスが可能なユーザ (**Admin** 権限または **Operator** 権限を持つ) を追加するには、コンフィギュレーション モードで **username** コマンドを実行する必要があります (「[Cisco ISE CLI でのコマンド モード](#)」(P.1-4) を参照)。

表 1-1 では、**Admin** と **Operator** (ユーザ) という 2 種類のユーザ アカウントのタイプごとのコマンド権限を示します。

表 1-1 コマンド特権

コマンド	ユーザ アカウント	
	Admin	Operator (ユーザ)
application コマンド	*	
backup	*	
backup-logs	*	
cdp run	*	
clock	*	
configure terminal	*	
copy コマンド	*	
debug	*	
delete	*	
dir	*	
end	*	
exit	*	*
forceout	*	
halt	*	
hostname	*	
icmp	*	
interface	*	
ip default-gateway	*	
ip domain-name	*	
ip name-server	*	
ip route	*	
kron	*	
logging コマンド	*	
mkdir	*	
nslookup	*	*

表 1-1 コマンド特権 (続き)

コマンド	ユーザ アカウント	
	Admin	Operator (ユーザ)
ntp	*	
ntp server	*	
password policy	*	
patch	*	
patch install	*	
patch remove	*	
pep	*	
ping	*	*
ping6	*	*
reload	*	
repository	*	
restore コマンド	*	
rmdir	*	
service	*	
show application	*	
show backup	*	
show cdp	*	*
show clock	*	*
show cpu	*	*
show disks	*	*
show icmp_status	*	*
show interface	*	*
show inventory	*	*
show ip route	*	
show logging	*	*
show logins	*	*
show memory	*	*
show ntp	*	*
show pep	*	*
show ports	*	*
show process	*	*
show repository	*	
show restore	*	
show running-config	*	
show startup-config	*	
show tech-support	*	

表 1-1 コマンド特権 (続き)

コマンド	ユーザ アカウント	
	Admin	Operator (ユーザ)
show terminal	*	*
show timezone	*	*
show timezones	*	
show udi	*	*
show uptime	*	*
show users	*	
show version	*	*
snmp-server commands	*	
ssh	*	*
tech	*	
telnet	*	*
terminal	*	*
traceroute	*	*
undebg	*	
username	*	
write	*	

Cisco ISE ノードにログインすると、認証に常にユーザ名とパスワードを必要とする Operator (ユーザ) モードまたは admin (EXEC) モードになります。

どのモードであるかは、プロンプトを確認して判断できます。サブモードに関係なく、Operator (ユーザ) モードのプロンプトの末尾には、右山カッコ (>) が表示され、Admin モードのプロンプトの末尾には、シャープ記号 (#) が表示されます。

Cisco ISE CLI でのコマンド モード

Cisco ISE では、次のコマンド モードがサポートされています。

- EXEC: このモードのコマンドを使用すると、システムレベルのコンフィギュレーションを実行できます。「EXEC コマンド」(P.1-5) を参照してください。また、表 1-6 にリストされている、操作ログを生成する EXEC モードのコマンドを参照してください。
- コンフィギュレーション: このモードのコマンドは、Cisco ISE のコンフィギュレーション タスクを実行するために使用します。「コンフィギュレーション コマンド」(P.1-8) を参照してください。また、表 1-5 にリストされている、操作ログを生成するコンフィギュレーション モードのコマンドを参照してください。

EXEC コマンド

EXEC コマンドにはまず、**show** や **reload** などのシステムレベル コマンド（たとえば、アプリケーションのインストール、アプリケーションの起動と停止、ファイルとインストール環境のコピー、バックアップの復元、および情報の表示など）が含まれています。

- 表 1-2 では、EXEC コマンドについて説明します。
- 表 1-3 では、EXEC モードの **show** コマンドについて説明します。

EXEC コマンドの詳細については、「[コマンドモードについて](#)」(P.2-5) を参照してください。

EXEC コマンドまたはシステムレベル コマンド

表 1-2 では、EXEC モード コマンドについて説明します。

表 1-2 EXEC コマンドの要約

コマンド	説明
application configure	特定のアプリケーションを設定します。
application install	特定のアプリケーションバンドルをインストールします。
application remove	特定のアプリケーションを削除します。
application reset-config	Cisco ISE コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
application reset-passwd	アプリケーション内の特定のユーザ (admin) のアプリケーションパスワードをリセットします。
application start	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	特定のアプリケーションバンドルをアップグレードします。
backup	バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
backup-logs	Cisco ISE に記録されているすべてのログをリモートの場所にバックアップします。
clock	Cisco ISE サーバのシステムクロックを設定します。
configure	コンフィギュレーションモードに入ります。
copy	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
debug	さまざまなコマンド状況（たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など）で、エラーまたはイベントを表示します。
delete	Cisco ISE サーバ上のファイルを削除します。
dir	Cisco ISE サーバ上のファイルを一覧表示します。
exit	リモートシステムとの暗号化されたセッションを切断します。現在のコマンドモードから以前のコマンドモードに戻ります。
forceout	特定の Cisco ISE サーバシステムユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
halt	Cisco ISE サーバをディセーブルにするか、シャットダウンします。
help	ヘルプユーティリティの説明と Cisco ISE サーバでの使用方法を表示します。

表 1-2 EXEC コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明
mkdir	新しいディレクトリを作成します。
nslookup	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名を照会します。
patch	システムやアプリケーションのパッチをインストールします。
pep	Inline Posture ノードを設定します。
ping	リモート システムへの IPv4 ネットワーク接続を判別します。
ping6	リモート システムへの IPv6 ネットワーク接続を判別します。
reload	Cisco ISE サーバを再起動します。
restore	前回のバックアップを復元します。
rmdir	既存のディレクトリを削除します。
show	Cisco ISE サーバに関する情報を提供します。
ssh	リモート システムとの暗号化されたセッションを開始します。
tech	Cisco Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
telnet	リモート システムへの Telnet 接続を確立します。
terminal length	端末回線のパラメータを設定します。
terminal session-timeout	すべてのターミナル セッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。
terminal session-welcome	すべてのターミナル セッションで表示される初期メッセージをシステムに設定します。
terminal terminal-type	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
traceroute	リモート IP アドレスのルートをトレースします。
undebg	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、 debug コマンドの出力 (エラーまたはイベントの表示) をディセーブルにします。
write	強制的にセットアップユーティリティを実行してネットワーク コンフィギュレーションをプロンプトするスタートアップ コンフィギュレーションを消去し、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーし、コンソールに実行コンフィギュレーションを表示します。

show コマンド

show コマンドは、Cisco ISE 設定の表示に使用する、最も便利なコマンドの 1 つです。表 1-3 では、**show** コマンドの要約を示します。

表 1-3 のコマンドを使用する場合は、たとえば **show application status** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。

表 1-3 show コマンドの要約

コマンド	説明
application (キーワードが必要)	インストールされているアプリケーションに関する情報 (ステータス情報やバージョン情報など) を表示します。
backup (キーワードが必要)	バックアップに関する情報を表示します。
cdp (キーワードが必要)	イネーブルな Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示します。
clock	システム時計の曜日、日付、時刻、時間帯、および年を表示します。
cpu	CPU 情報を表示します。
disks	ディスクのファイルシステム情報を表示します。
icmp-status	インターネット制御メッセージ プロトコル (ICMP) のエコー応答コンフィギュレーション情報を表示します。
interface	Cisco ISE で設定されたすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。
inventory	ハードウェア インベントリについての情報 (Cisco ISE アプライアンス モデルやシリアル番号など) を表示します。
ip route	Cisco ISE サーバの IP ルーティング テーブル情報を表示します。
logging (キーワードが必要)	Cisco ISE サーバ ログギング情報を表示します。
logins (キーワードが必要)	Cisco ISE サーバのログイン履歴を表示します。
memory	実行中のすべてのプロセスによるメモリ使用量を表示します。
ntp	ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのステータスを表示します。
pep	Inline Posture ノードの情報を表示します。
ports	アクティブなポートを受信するすべてのプロセスを表示します。
process	Cisco ISE サーバのアクティブなプロセスに関する情報を表示します。
repository (キーワードが必要)	特定のリポジトリのファイルの内容を表示します。
restore (キーワードが必要)	Cisco ISE の復元履歴を表示します。
running-config	Cisco ISE の現在の実行コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。
startup-config	Cisco ISE のスタートアップ コンフィギュレーションの内容を表示します。
tech-support	問題を報告するときに、TAC に提供可能なシステム情報およびコンフィギュレーション情報を表示します。
terminal	現在の端末回線の端末コンフィギュレーション パラメータの設定に関する情報を表示します。
timezone	Cisco ISE の現在の時間帯を表示します。
timezones	Cisco ISE で使用可能なすべての時間帯を表示します。
udi	Cisco ISE の Unique Device Identifier (UDI) に関する情報を表示します。
uptime	ログインしているシステムが起動してからの稼働時間を表示します。

表 1-3 show コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明
users	システム ユーザの情報を表示します。
version	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェア、およびデバイス情報を表示します。

コンフィギュレーション コマンド

コンフィギュレーション コマンドには、**interface** や **repository** などのコマンドがあります。コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードで **configure** コマンドを実行します。

一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コンフィギュレーションを完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

表 1-4 では、コンフィギュレーション コマンドについて説明します。

表 1-4 コンフィギュレーション コマンドの要約

コマンド	説明
backup-staging-url	バックアップおよび復元操作用に、Network File System (NFS; ネットワーク ファイル システム) の一時スペースまたはリモート ディレクトリのステージング領域を指定します。
cdp holdtime	受信デバイスがパケットを廃棄する前に Cisco ISE サーバから Cisco Discovery Protocol (CDP) パケットを保持する時間を指定します。
cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
cdp timer	Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。
clock timezone	表示のためのタイムゾーンを設定します。
do	コンフィギュレーション モードまたはいずれかのコンフィギュレーション サブモードで EXEC レベル コマンドを実行します。 (注) 開始時に、do コマンドは EXEC コマンドより優先されます。
end	EXEC モードに戻ります。
exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
hostname	システムのホスト名を設定します。
icmp echo	ICMP エコー要求を設定します。
interface	インターフェイス タイプを設定して、インターフェイス コンフィギュレーション モードに入ります。
ipv6 address autoconfig	インターフェイス コンフィギュレーション モードの IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにします。
ipv6 address dhcp	インターフェイス コンフィギュレーション モードの IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。
ip address	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。 (注) これは、インターフェイス コンフィギュレーション コマンドです。
ip default-gateway	IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義または設定します。
ip domain-name	Cisco ISE サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義します。

表 1-4 コンフィギュレーション コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明
ip name-server	DNS クエリー時に使用するドメイン ネーム システム (DNS) サーバを設定します。
ip route	IP アドレスの IProute を設定します。
kron occurrence	1 つまたは複数のコマンド スケジューラ コマンドが、特定の日時に、または繰り返して実行されるようにスケジューリングします。
kron policy-list	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。
logging	システムによるリモート システムへのログ転送をイネーブルにします。
logging loglevel	logging コマンドのログ レベルを設定します。
no	コマンドに関連付けられた機能をディセーブルにするか削除します。
ntp	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアの時計を同期化します。
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp authentication-key	信頼できる時刻源に Message Digest 5 (MD5) タイプの認証キーを追加します。
ntp server	使用する NTP サーバを指定します。
ntp trusted-key	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。
password-policy	パスワード ポリシーをイネーブルにして設定します。
repository	リポジトリ サブモードに入ります。
service	管理するサービスのタイプを指定します。
snmp-server community	コミュニティ アクセス スtring を設定して、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) にアクセスできるようにします。
snmp-server contact	システムで SNMP 接続のシステム管理情報ベース (MIB) 値を設定します。
snmp-server host	SNMP トラップをリモート システムに送信します。
snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
username	システムにユーザを追加し、パスワードと権限レベルを指定します。

コンフィギュレーション モードとサブモードのコマンドの詳細については、「[コマンドモードについて](#)」(P.2-5) を参照してください。

CLI 監査

Cisco ISE コンフィギュレーション コマンドを実行するには、管理者アクセス権が必要です。管理者がコンフィギュレーション モードにログインし、Cisco ISE サーバのコンフィギュレーションを変更するコマンドを実行すると、それらの変更に関連する情報が、Cisco ISE 操作ログに記録されます。

表 1-5 では、操作ログを生成するコンフィギュレーション モード コマンドについて説明します。

表 1-5 操作ログを生成するコンフィギュレーション モード コマンド

コマンド	説明
clock	Cisco ISE サーバのシステム クロックを設定します。
ip name-server	DNS クエリー時に使用する DNS サーバを設定します。
hostname	システムのホスト名を設定します。
ip address	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアの時計を同期化します。

コンフィギュレーション モード コマンドに加え、EXEC の一部のコマンドは、操作ログを生成します。

表 1-6 では、操作ログを生成する EXEC モード コマンドについて説明します。

表 1-6 操作ログを生成する EXEC モード コマンド

コマンド	説明
backup	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
backup-logs	システム ログをバックアップします。



CHAPTER 2

Cisco ISE コマンドライン インターフェイス の使用

この章では、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して Cisco Identity Services Engine (Cisco ISE) を理解および設定するのに役立つヒントを紹介します。Cisco ISE は、小規模、中規模、および大規模な導入で展開でき、さまざまなプラットフォームで使用したり、VMware で実行できるソフトウェアとして使用したりすることができます。この章は、次の内容で構成されています。

- 「Cisco ISE CLI にアクセスする前に」 (P.2-1)
- 「Cisco ISE CLI へのアクセス」 (P.2-3)
- 「コマンド モードについて」 (P.2-5)
- 「CLI コマンドの使用方法」 (P.2-10)
- 「次の作業」 (P.2-12)

Cisco ISE CLI にアクセスする前に

Cisco ISE CLI にログインする前に、『[Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide, Release 1.1.1](#)』に指定されているインストール タスクを完了したことを確認してください。

Cisco ISE を設定するためのセットアップの実行

Cisco ISE アプライアンスに初めて電源を投入すると、Cisco ISE アプライアンスのセットアップ ユーティリティを実行するように求められます。**setup** コマンドを使用してユーティリティを実行する前に、次のネットワーク コンフィギュレーション プロンプトに対して値が設定されていることを確認します。

- ホスト名
- IP アドレス : イーサネット インターフェイスのアドレス
- ネットマスク
- デフォルト ゲートウェイ
- DNS ドメイン名
- プライマリ ネーム サーバ
- プライマリ NTP サーバ (任意)
- システム時間帯

- ユーザ名
- パスワード

次の例は、**setup** コマンドのサンプル出力を示します。

```
*****
Please type 'setup' to configure the appliance
*****
localhost login:  setup
Press 'Ctrl-C' to abort setup
Enter hostname[]: ise
Enter IP address[]: 172.16.90.183
Enter IP default netmask[]: 255.255.255.0
Enter IP default gateway[]: 172.16.90.1
Enter default DNS domain[]: mydomain.com
Enter primary nameserver[]: 172.16.168.183
Add/Edit another nameserver? Y/N : n
Enter primary NTP server[time.nist.gov]:
Add/Edit secondary NTP server? Y/N : n
Enter system timezone[UTC]:
Enter username[admin]:
Enter password:
Enter password again:
Bringing up network interface...
Pinging the gateway...
Pinging the primary nameserver...
Do not use 'Ctrl-C' from this point on...
Appliance is configured
```

必要な情報を入力すると、自動的に Cisco ISE アプライアンスがリブートされ、次のログイン プロンプトが表示されます。

```
machine_name login:
```

machine_name が **setup** コマンドを実行したときに指定したホスト名を特定します。

この例では、次のプロンプトが表示されます。

```
ise login:
```

ログインには、セットアップ プロセスで作成した管理者ユーザ アカウント（および対応するパスワード）を使用します。また ISE CLI に最初にログインするときにも、この **Admin** アカウントを使用する必要があります。CLI に管理者としてアクセスした後は、コンフィギュレーション モードで **username** コマンドを実行して、CLI への SSH アクセスが可能なユーザ（**Admin** 権限または **Operator** 権限を持つ）を追加できます。



(注)

初期セットアップ ウィザード中に作成されたその管理者ユーザ アカウントと対応するパスワード（CLI ユーザ アカウント）は、CLI を使用して Cisco ISE アプリケーションを管理するために使用できます。CLI ユーザは、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアの開始と停止、Cisco ISE アプリケーション データのバックアップと復元、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアへのソフトウェア パッチとアップグレードの適用、すべてのシステムとアプリケーション ログの参照、Cisco ISE アプライアンスのリロードまたはシャットダウンを行う特権を持っています。CLI のユーザ クレデンシャルを保護するには、CLI へのアクセス権を持つユーザを明示的に作成します。

「Cisco ISE CLI へのアクセス」(P.2-3) を参照してください。



(注) Cisco ISE Web インターフェイスから作成するユーザは Cisco ISE CLI に自動的にログインできません。CLI へのアクセス権を明示的に付与してユーザを作成する必要があります。このようなユーザを作成するには、セットアップ時に作成した Admin アカウントを使用して CLI にログインした後、コンフィギュレーション モードを開始し、**username** コマンドを実行する必要があります。

Cisco ISE CLI へのアクセス

Cisco ISE CLI にログインする前に、「[Cisco ISE CLI にアクセスする前に](#)」(P.2-1) のハードウェアのインストールとコンフィギュレーションのプロセスを完了していることを確認します。

Cisco ISE サーバにログインし、CLI にアクセスするには、SSH セキュア シェル クライアントまたはコンソール ポートを使用します。



(注) Cisco ISE CLI 環境にアクセスするには、SSH v2 をサポートする SSH クライアントを使用します。

ログインは、次のマシンから実行できます。

- Windows XP または Vista の PC。
- Linux OS の PC。
- Mac OS X 10.4 以降のアップル コンピュータ。
- VT100 または ANSI 互換の端末デバイス。VT100 タイプのデバイスおよび ANSI デバイスでは、左矢印、上矢印、下矢印、右矢印、Delete および Backspace などのカーソル制御キーとカーソル移動キーを使用できます。CLI は、カーソル制御キーの使用を検出し、自動的に最適なデバイス特長を使用します（「[サポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム](#)」(P.2-3) を参照）。

CLI を終了するには、EXEC モードで **exit** コマンドを実行します。現在、いずれかのコンフィギュレーション モードになっている場合に、CLI を終了するには、**end** または **exit** コマンドを入力するか **Ctrl+z** キーを押して EXEC モードに戻ってから、**exit** コマンドを入力します（「[EXEC モード](#)」(P.2-5) を参照）。

サポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム

Cisco ISE には、次の有効な端末タイプからアクセスできます。

- 1178
- 2621
- 5051
- 6053
- 8510
- altos5
- amiga
- ansi
- apollo
- Apple_Terminal

- att5425
- ibm327x
- kaypro
- vt100

有効な全タイプの一覧については、`terminfo` データベースを参照してください。

セキュア シェルを使用して CLI を開く

Cisco ISE には、SSH クライアントまたはコンソール ポートからアクセスすることもできます。



(注) Cisco ISE CLI 環境にアクセスするには、SSH v2 をサポートする SSH クライアントを使用します。

次の例では、Windows XP を使用して、PC からセキュア シェル (SSH) クライアント (有線 WAN に接続) でログインする方法を示します。この例では、あらかじめ**セットアップ**ユーティリティを使用して、Admin (管理者) ユーザを受け入れるように ISE を設定し、Admin としてログインしていることを前提とします。

-
- ステップ 1** 任意の SSH クライアントを使用して SSH セッションを開始します。
SSH ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Enter** キーまたは**スペース**を押して接続します。
[リモートホストに接続 (Connect to Remote Host)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** ホスト名、ユーザ名、ポート番号、および認証方式を入力します。
この例では、ホスト名に **ise**、ユーザ名に **admin**、ポート番号に **22** を入力し、認証方式として、ドロップダウン リストから [パスワード (Password)] を選択します。
- ステップ 4** [接続 (Connect)] をクリックするか、**Enter** キーを押します。
[パスワードの入力 (Enter Password)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 割り当てられた管理者パスワードを入力します。
[SSH : プロファイルの追加 (SSH with the Add Profile)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** (任意) テキスト ボックスにプロファイル名を入力し、[プロファイルへの追加 (Add to Profile)] をクリックします。
- ステップ 7** [プロファイルの追加 (Add Profile)] ウィンドウで [閉じる (Close)] をクリックします。
Cisco ISE プロンプト `ise/admin#` が表示されます。これで、Cisco ISE CLI コマンドを入力できます。
-

ローカル PC を使用した CLI の開始

(有線 LAN に接続せずに) Cisco ISE をローカルに設定する必要がある場合は、ヌルモデム ケーブルを使用して、PC を Cisco ISE アプライアンスのコンソール ポートに接続できます。

シリアル コンソール コネクタ (ポート) は、コンソール ポートに端末を接続することで、CLI にローカル アクセス可能にします。端末は、ターミナル エミュレーション ソフトウェアまたは ASCII 端末を実行する PC です。コンソール ポート (EIA/TIA-232 非同期) で必要なのは、ヌルモデム ケーブルのみです。

ターミナルエミュレーション ソフトウェアを実行する PC をコンソール ポートに接続するには、DB-9 メス型 - DB-9 メス型のヌルモデム ケーブルを使用します。

ASCII 端末をコンソール ポートに接続するには、片方が DB-9 メスでもう一方が DB-25 オスのストレート ケーブルと、DB-25 メスから DB-25 メスへの変換アダプタを使用します。

コンソール ポートのデフォルト パラメータは、9600 ボー、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビット、およびハードウェア フロー制御なしです。



(注)

接続の相手側が Cisco Switch の場合、スイッチ ポートを duplex auto、speed auto (デフォルト) に設定します。

コンソール ポートに接続し、CLI を開くには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** Cisco ISE アプライアンスのコンソール ポートと PC の COM ポートをヌルモデム ケーブルで接続します。
- ステップ 2** Cisco ISE と通信するようにターミナル エミュレータを設定します。ターミナル エミュレータの接続では、9600 ボー、データ ビット 8、パリティなし、ストップ ビット 1 の設定を使用します。ハードウェアのフロー制御はなしです。
- ステップ 3** ターミナル エミュレータが起動したら、**Enter** キーを押します。
- ステップ 4** ウィンドウでユーザ名を入力して、**Enter** キーを押します。
- ステップ 5** パスワードを入力して **Enter** キーを押します。
CLI が起動したら、Cisco ISE を設定する CLI コマンドを入力できます。

コマンドモードについて

ここでは、Cisco ISE のコマンドモードについて詳しく説明します。主な動作モードには、次の 4 つがあります。

- 「EXEC モード」 (P.2-5)
- 「コンフィギュレーション モード」 (P.2-7)
- 「コンフィギュレーション サブモード」 (P.2-8)

EXEC モード

Cisco ISE でセッションを開始する場合、admin または EXEC モードで開始します。EXEC モードからは、コンフィギュレーション モードに入ることができます。show コマンドなどの EXEC コマンド (ワンタイム コマンド) のほとんどは、現在のコンフィギュレーション ステータスを表示します。Admin または EXEC モードのプロンプトは、デバイス名またはホスト名で構成され、その後にはシャープ記号 (#) が付きます。たとえば、次のとおりです。

```
ise/admin# (Admin or EXEC mode)
```

**(注)**

このマニュアルでは、Cisco ISE サーバは、ユーザ アカウントに Cisco ISE サーバのホスト名と *admin* の代わりに名前の *ncs* を使用します。

プロンプトを調べて、EXEC モードまたはコンフィギュレーション モードになっていることを常に確認できます。次に各モードでのプロンプトについて説明します。

- EXEC モードでは、Cisco ISE サーバのホスト名とユーザ名の後に、シャープ記号 (#) が付きます。

次に例を示します。

```
ise/admin#
```

- コンフィギュレーション モードでは、「**config**」というキーワードとシャープ記号 (#) は Cisco ISE サーバのホスト名とユーザ名の後に表示されます。

次に例を示します。

```
ise/admin# configure
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# (configuration mode)
```

UNIX を使い慣れている場合は、EXEC モードを *root* アクセスのように考えることができます。また、Windows NT の管理者レベルや、NetWare のスーパーバイザと同等と考えることもできます。このモードでは、コンフィギュレーション コマンドの実行を含め、Cisco ISE サーバ内のすべてに対するアクセスが許可されます。ただし、コンフィギュレーション コマンドは直接入力できません。Cisco ISE サーバの実際のコンフィギュレーションを変更する前に、**configure** または **configure terminal (conf t)** コマンドを入力して、コンフィギュレーション モードに入る必要があります。このコマンドは、EXEC モードでのみ入力してください。

次に例を示します。

```
ise/admin# conf t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL-Z.
ise(config)# (configuration mode)
```

コンフィギュレーション モードには数種類のサブモードがあり、それぞれに固有のプロンプトがあります。これらのサブモードに入るには、まず **configure terminal** コマンドを使用して、コンフィギュレーション モードに入ります。

コンフィギュレーション モードを終了するには、**end** コマンド、**exit** コマンド、または **Ctrl+z** コマンドを入力します。EXEC モードを終了するには、**exit** コマンドを入力します。コンフィギュレーション モードと EXEC モードの両方を終了するには、次の一連のコマンドを入力します。

```
ise/admin(config)# exit
ise/admin# exit
```

EXEC モードのコマンドの一覧を表示するには、疑問符 (?) を入力します。

```
ise/admin# ?
```

コンフィギュレーション モード

既存のコンフィギュレーションに変更を加えるには、コンフィギュレーション モードを使用します。コンフィギュレーションを保存すると、これらのコマンドは、次のいずれかのコマンドを実行した場合に限り、Cisco ISE サーバのリブート後もそのまま有効です。

- copy running-config startup-config**
- write memory**

コンフィギュレーション モードに入るには、EXEC モードで **configure** コマンドまたは **configure terminal (conf t)** コマンドを実行します。コンフィギュレーション モードの状態にある場合、Cisco ISE は、コマンドをコンフィギュレーション コマンドとして処理します。

次に例を示します。

```
ise/admin# configure
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL-Z.
ise/admin(config)# (configuration mode)
```

このレベルから、Cisco ISE コンフィギュレーションに直接コマンドを入力できます。このモードのコマンドの一覧を表示するには、疑問符 (?) を入力します。

```
ise/admin(config)# ?
```

コンフィギュレーションモードには数種類のコンフィギュレーションサブモードがあります。各サブモードに入ると、プロンプト階層のさらに深いレベルで操作できます。**exit** と入力すると、Cisco ISE はユーザのレベルを 1 段階戻し、前のレベルに戻します。もう一度 **exit** と入力すると、Cisco ISE はユーザを EXEC レベルに戻します。



(注) コンフィギュレーションモードでは、**end** または **exit** コマンドの代わりに、**Ctrl+Z** キーを使用できます。

コンフィギュレーションサブモード

コンフィギュレーションサブモードでは、特定のコンフィギュレーションについてのコマンドを入力できます。次に例を示します。

```
ise/admin# config t
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

このモードのコマンドの一覧を表示するには、疑問符 (?) を入力します。

```
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ?
```

このプロンプトを終了してコンフィギュレーションプロンプトに戻るには、**exit** コマンドまたは **end** コマンドを使用します。

表 2-1 に、インターフェイス GigabitEthernet 0 コンフィギュレーションサブモードのコマンドをリストします。この他に、**kron**、**repository**、および **password policy** の各コマンドに固有のサブモードなどのコンフィギュレーションサブモードがあります。

表 2-1 インターフェイス GigabitEthernet 0 コンフィギュレーション サブモードのコマンド オプション

コマンド	備考
<pre>ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0 ise/admin(config-GigabitEthernet)# ? Configure ethernet interface: do EXEC command end Exit from configure mode exit Exit from this submode ip Configure IP features ipv6 Configure IPv6 features no Negate a command or set its defaults shutdown Shutdown the interface ise/admin(config-GigabitEthernet)#</pre>	<p>インターフェイスの設定のためのコマンドを入力します。この例では、interface GigabitEthernet コマンドを使用します。</p> <p>次にコマンドラインに入力する必要があるコマンドを表示するには、? と入力します。この例では、使用可能な interface GigabitEthernet コンフィギュレーション サブモード コマンドを示しています。</p>
<pre>ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip ? address Configure IP address ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip</pre>	<p>インターフェイスの設定のためのコマンドを入力します。この例では、ip コマンドを使用します。</p> <p>次にコマンドラインに入力する必要があるコマンドを表示するには、? と入力します。この例では、使用可能な ip コンフィギュレーション サブモード コマンドを示しています。</p>
<pre>ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address ? <A.B.C.D> IPv4 address ise/admin(config-GigabitEthernet) ip address</pre>	<p>インターフェイスの設定のためのコマンドを入力します。この例では、ip address コマンドを使用します。</p> <p>次にコマンドラインに入力する必要があるコマンドを表示するには、? と入力します。この例では、IPv4 アドレスを入力する必要があります。</p> <p>復帰 <cr> は表示されないため、追加の引数を入力してコマンドを完成させる必要があります。</p>
<pre>ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 172.16.0.1 ? <A.B.C.D> Network mask ise/admin(config-GigabitEthernet) ip address 172.16.0.1</pre>	<p>使用するキーワードまたは引数を入力します。この例では、IP アドレスとして 172.16.0.1 を使用しています。</p> <p>次にコマンドラインに入力する必要があるコマンドを表示するには、? と入力します。この例では、ネットワーク マスクを入力する必要があります。</p> <p>復帰 <cr> は表示されないため、追加の引数を入力してコマンドを完成させる必要があります。</p>
<pre>ise/admin(config-GigabitEthernet) ip address 172.16.0.1 255.255.255.224 ? <cr> Carriage Return ise/admin(config-GigabitEthernet) ip address 172.16.0.1 255.255.255.224</pre>	<p>ネットワーク マスクを入力します。この例では、IP アドレスとして 255.255.255.224 を使用しています。</p> <p>次にコマンドラインに入力する必要があるコマンドを表示するには、? と入力します。この例では、Enter キーを押します。</p> <p>復帰 <cr> が表示されるので、Enter キーを押してコマンドを完成させます。</p>

CLI コマンドの使用法

ここでは、Cisco ISE のコマンドとモードの使用法について説明します。

- 「ヘルプの利用方法」(P.2-10)
- 「コマンドの **no** 形式と **default** 形式の使用」(P.2-10)
- 「コマンドラインの表記法」(P.2-11)

ヘルプの利用方法

疑問符 (?) と矢印キーを使用して、コマンド入力へのヘルプを利用します。

- 使用可能なコマンドの一覧を表示するには、次のように疑問符 (?) を入力します。

```
ise/admin# ?
```

- コマンドを完成させるには、既知の文字をいくつか入力し、続けて疑問符 (?) を入力します (スペース無し)。

```
ise/admin# s?
```

- コマンドのキーワードおよび引数を表示するには、プロンプトが表示されたときに、またはコマンドの一部とそれに続けてスペースを入力した後に、疑問符 (?) を入力します。

```
ise/admin# show ?
```

Cisco ISE には、使用可能なキーワードおよび引数のリストと簡単な説明が表示されます。



(注) コマンドのヘルプの <cr> 記号は「復帰」を表しています。これは、**Return** または **Enter** キーを押すことを意味します。コマンドヘルプの最後の <cr> は、**Enter** キーを押してコマンドを完成させるオプションがあること、および <cr> 記号に先行するリスト内の引数およびキーワードはオプションであることを示します。<cr> 記号だけの場合は、使用可能な引数またはキーワードが他に存在せず、**Enter** キーを押してコマンドを完成させる必要があることを示します。

- 以前に入力したコマンドを再表示するには、**上矢印**キーを押します。さらに多くのコマンドを表示するには、続けて**上矢印**キーを押します。

コマンドの no 形式と default 形式の使用

一部の EXEC コマンドまたはコンフィギュレーション コマンドには **no** 形式があります。一般には、**no** 形式を使用して機能をディセーブルにします。ディセーブルにされた機能を再度イネーブルにしたり、デフォルトでディセーブルになっている機能をイネーブルにしたりするには、**no** キーワードを付けずにコマンドを使用します。IP アドレスをディセーブルにするには **no ip address** コマンドを使用し、その IP アドレスを再びイネーブルにするには **ip address** コマンドを使用します。

コンフィギュレーション コマンドには、コマンド設定をデフォルト値に戻すための **default** 形式もあります。ほとんどのコマンドはデフォルトがディセーブルであるため、そのような場合に **default** 形式を使用すると、コマンドの **no** 形式を使用した場合と同じ結果になります。ただし、デフォルトでイネーブルに設定されていて、なおかつ変数が特定のデフォルト値に設定されているコマンドもあります。そのような場合に **default** 形式のコマンドを使用すると、コマンドがイネーブルになり、変数がデフォルト値に設定されます。

コンフィギュレーション コマンドの完全な構文と、**no** および **default** 形式のコマンドについては、付録 A 「Cisco ISE コマンド リファレンス」を参照してください。

コマンドラインの表記法

このマニュアルを読む際に、CLI の使用方法について特定の基本的な表記法を把握していなければ、ここで示す情報が十分に理解できない可能性があります。

- 「コマンドライン編集キーの表記法」(P.2-11)
- 「コマンドラインのコンプリート機能」(P.2-11)
- 「--More-- プロンプトでの出力続行」(P.2-12)

コマンドライン編集キーの表記法

Cisco ISE には、入力した行を編集するためのキーボード ショートカットが数多く用意されています。

Tab

現在のコマンドを終了するには、**Tab** キーを押します。

Tab キーを押した場合：

- 行の先頭に、オプションの短縮形すべてが一覧表示されます。
- コマンドの一部を入力すると、それらの文字で始まるオプションの短縮形すべてが一覧表示されます。
- 使用可能なオプションの候補が 1 つだけの場合は、そのオプションが自動的に取り込まれます。

Ctrl+c

シーケンスを中断するには、**Ctrl+c** を押します。実行中のコマンドすべてを中止し、前のモードに戻ります。

Ctrl+z

コンフィギュレーション モードを終了し、前のコンフィギュレーション モードに戻るには、**Ctrl+z** を押します。

?

使用できるコマンドをリストするには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します（「ヘルプの利用方法」(P.2-10) を参照）。

コマンドラインのコンプリート機能

コマンドライン コンプリート機能を使用すると、Cisco ISE CLI の操作性が向上します。余分なキー入力を行う必要がなくなり、コマンドの構文を思い出せなくてもコマンドが入力できます。

たとえば、次のように **show running-configuration** コマンドを入力するとします。

```
ise/admin# show running-config
```

このとき、次のように入力します。

```
ise/admin# sh run
```

Cisco ISE は、コマンド **sh run** を **show running-config** に拡張します。

もう 1 つのショートカットは **sh** の入力後に **Tab** キーを押します。Cisco ISE CLI が、残りのコマンド (この場合は **show**) を入力します。

Cisco ISE CLI は、コマンドを認識できない場合、コマンドライン全体を繰り返して表示し、コマンドを解析できなかった位置にカレット記号 (^) を挿入します。

次に例を示します。

```
ise/admin# show unning-configuration
                ^
% Invalid input detected at '^' marker.
```

カレット記号 (^) は、Cisco ISE が認識できなかったコマンドラインの最初の文字を指します。通常、これはコマンドを完成させるために引数を追加する必要があるか、またはコマンドのスペルに誤りがあることを意味します。この場合、「running」コマンドから「r」が欠落しています。エラーを修正するには、コマンドを再入力します。

別の形式のコマンドライン コンプリート機能では、コマンドの先頭の数文字を入力し、それから **Tab** キーを押します。1 つのコマンドと合致すると、Cisco ISE CLI はそのコマンドを完成させます。たとえば、**sh** と入力して **Tab** キーを押すと、Cisco ISE は、**sh** に続けて **show** を完成させます。Cisco ISE がコマンドを完成できない場合は、さらに数文字を追加して **Tab** キーを押します。詳細については、「**Tab**」(P.2-11) を参照してください。

--More-- プロンプトでの出力続行

Cisco ISE CLI を使用する場合に、出力が画面の表示可能域を超えることがよくあります。多くの **?** や **show** コマンドの出力などで画面の下端を超えて出力が続く場合は、出力が中断し、画面の最後の行に **--More--** プロンプトが表示されます。出力を再開するには、**Return** キーを押して 1 行スクロールダウンするか、**スペースバー**を押して次の 1 画面分の出力を表示します。



ヒント

画面上の出力が中断されても **--More--** プロンプトが表示されない場合は、EXEC コマンド **terminal length** を使用して画面長の値を小さくしてみてください。長さの値をゼロ (0) に設定すると、コマンドの出力は中断しません。

次の作業

これで Cisco ISE CLI の基本的な使用方法についての説明は終わりです。CLI を使用して Cisco ISE を実際に設定してください。

次の事項を確認してください。

- コマンドの入力支援として、疑問符 (?) と矢印キーを使用できます。
- 各コマンドモードは、一定のコマンドセットに制限されています。コマンドの入力に問題がある場合は、プロンプトを確認し、疑問符 (?) を入力して使用可能なコマンドのリストを表示します。
- 機能をディisableにするには、コマンドの前に **no** キーワードを挿入します。たとえば **no ip address** のように入力します。
- コンフィギュレーションの変更内容を保存して、システムのリロードや停電時に変更内容が失われないようにする必要があります。

コマンドの一覧、説明、構文、使用上のガイドライン、および出力例については、[付録 A 「Cisco ISE コマンドリファレンス」](#) を参照してください。



APPENDIX A

Cisco ISE コマンド リファレンス

この付録には、Cisco Identity Services Engine (Cisco ISE) に固有のコマンドがアルファベット順にリストされています。

コマンドには、次のモードがあります。

- EXEC
 - システムレベル
 - 表示
- コンフィギュレーション
 - コンフィギュレーション サブモード



(注) EXEC モードのシステム レベル **config** または **configure** コマンドを使用して、コンフィギュレーション モードにアクセスします。

この付録では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。この付録全体で、Cisco ISE サーバは、Cisco ISE サーバのホスト名の代わりに *ise* という名前を使用します。



(注) コマンドを使用してエラーが発生した場合は、**debug** コマンドを使用して、エラーの原因を判断してください。

この付録では、次の各項目について説明します。

- 「EXEC コマンド」 (P.A-2)
- 「show コマンド」 (P.A-59)
- 「コンフィギュレーション コマンド」 (P.A-97)

EXEC コマンド

ここでは、各 EXEC コマンドが記載され、使用、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および出力例の簡単な説明が含まれています。

表 A-1 に、この付録で説明する EXEC コマンドの一覧を示します。

表 A-1 EXEC コマンドのリスト

<ul style="list-style-type: none"> • application configure • application install • application remove • application reset-config • application reset-passwd • application start • application stop • application upgrade • backup • backup-logs • clock • configure • copy • debug 	<ul style="list-style-type: none"> • delete • dir • exit • forceout • halt • help • mkdir • nslookup • patch install • patch remove • pep • ping • ping6 • reload 	<ul style="list-style-type: none"> • restore • rmdir • show (show コマンドを参照) • ssh • tech • telnet • terminal length • terminal session-timeout • terminal session-welcome • terminal terminal-type • traceroute • undebug • write
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

application configure

Cisco ISE で Microsoft Windows Active Directory の設定を行うには、EXEC モードで **application configure** コマンドを使用します。

application configure *application-name*

構文の説明

application	アプリケーションのインストールおよび管理のためのアプリケーション コマンド。
configure	特定のアプリケーションを設定します。
<i>application-name</i>	アプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>Parameter Name</i>	<code>dns.servers</code> を使用します。
<i>Parameter Value</i>	特定のネーム サーバの IPv4 アドレスを指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

Cisco ISE ノードで設定された複数の IP ネーム サーバが存在する場合に必要な Active Directory 設定を持つ特定のネーム サーバのみを使用するように設定できます。

Cisco ISE では、**application configure** コマンドを使用して Active Directory の設定を行えます。これにより、次の警告メッセージが確認用に表示されます。

```
Active Directory internal setting modification should only be performed if approved by ISE support. Please confirm this change has been approved y/n [n]:
```

例

```
ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset Active Directory settings to defaults
[2]Display Active Directory settings
[3]Configure Active Directory settings
[4]Restart/Apply Active Directory settings
[5]Clear Active Directory Trusts Cache and restart/apply Active Directory settings
[6]Exit

3 (option 3 from the menu)
You are about to configure Active Directory settings.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Parameter Name: dns.servers
Parameter Value: 10.77.122.135
Active Directory internal setting modification should only be performed if approved by ISE support. Please confirm this change has been approved y/n [n]: y
Active Directory settings were modified.
Settings will take effect after choosing apply option from menu.

Selection ISE configuration option
[1]Reset Active Directory settings to defaults
[2]Display Active Directory settings
[3]Configure Active Directory settings
[4]Restart/Apply Active Directory settings
[5]Clear Active Directory Trusts Cache and restart/apply Active Directory settings
[6]Exit

4 (option 4 from the menu)
You are about to Reset/Apply Active Directory settings.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
You are about to apply recent settings changes. This will require AD client to be restarted which may take several minutes. Continue y/n [n]: y
Active Directory settings were applied

Selection ISE configuration option
[1]Reset Active Directory settings to defaults
[2]Display Active Directory settings
[3]Configure Active Directory settings
[4]Restart/Apply Active Directory settings
[5]Clear Active Directory Trusts Cache and restart/apply Active Directory settings
[6]Exit

2 (option 2 from the menu)
Parameter Name: dns.servers
dns.servers: 10.77.122.135

Selection ISE configuration option
[1]Reset Active Directory settings to defaults
[2]Display Active Directory settings
[3]Configure Active Directory settings
[4]Restart/Apply Active Directory settings
[5]Clear Active Directory Trusts Cache and restart/apply Active Directory settings
[6]Exit
```

5 (option from the menu)

You are about to clear the Active Directory Trusts Cache and reset/apply Active Directory settings.

Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y

log4j:WARN No appenders could be found for logger
(com.cisco.cpm.acs.nsf.config.handlers.ad.cli.ADAgentRestart).

log4j:WARN Please initialize the log4j system properly.

You are about to apply recent settings changes. This will require AD client to be restarted which may take several minutes. Continue y/n [n]: y

Active Directory settings were applied

Selection ISE configuration option

[1]Reset Active Directory settings to defaults

[2]Display Active Directory settings

[3]Configure Active Directory settings

[4]Restart/Apply Active Directory settings

[5]Clear Active Directory Trusts Cache and restart/apply Active Directory settings

[6]Exit

6 (option from the menu)

ise/admin#

関連コマンド

コマンド	説明
application install	アプリケーションバンドルをインストールします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-config	アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
application reset-passwd	指定したユーザのアプリケーション パスワードをリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーションバンドルをアップグレードします。
show application	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application install



(注)

Cisco ISE アプリケーションは、すべてのサポート対象のアプライアンスおよび VMware に Cisco IOS イメージとともにあらかじめインストールされるため、通常の操作では CLI から **application install** コマンドを実行できません。

Cisco ISE 以外の特定のアプリケーションをインストールするには、EXEC モードで **application install** コマンドを使用します。この機能を削除するには、**application remove** コマンドを使用します。

application install *application-bundle remote-repository-name*

構文の説明

application	アプリケーションのインストールおよび管理のためのアプリケーション コマンド。
install	特定のアプリケーションをインストールします。

<i>application-bundle</i>	アプリケーションバンドルのファイル名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>remote-repository-name</i>	リモートリポジトリ名。最大 255 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

指定したアプリケーションバンドルをアプライアンスにインストールします。アプリケーションバンドルファイルは、指定したリポジトリから取得されます。

アプリケーションをインストールまたは削除している間に、**application install** コマンドや **application remove** コマンドを別途実行すると、次の警告メッセージが表示されます。

An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.

例**例 1**

```
ise/admin# application install ise-appbundle-1.1.0.362.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? y
Please enter yes or no
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application installation...
Extracting ISE database content...
Starting ISE database processes...
Restarting ISE database processes...
Creating ISE M&T session directory...
Performing ISE database priming...

Application successfully installed
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# application install ise-appbundle-1.1.0.362.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? no
Initiating Application installation...
Extracting ISE database content...
Starting ISE database processes...
Restarting ISE database processes...
Creating ISE M&T session directory...
Performing ISE database priming...

Application successfully installed
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application configure	アプリケーションを設定します。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-config	アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。

コマンド	説明
<code>application reset-passwd</code>	指定したユーザのアプリケーション パスワードをリセットします。
<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<code>application stop</code>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
<code>application upgrade</code>	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application remove



(注)

アップグレードに関する明示的な指示のない限り、Cisco ISE アプリケーションを削除するために、CLI から **application remove** コマンドを実行できません。

Cisco ISE 以外の特定のアプリケーションを削除するには、EXEC モードで **application remove** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

application remove *application-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールおよび管理のためのアプリケーション コマンド。
<code>remove</code>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<i>application-name</i>	アプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションを削除またはアンインストールします。

例

```
ise/admin# application remove ise
Continue with application removal? [y/n] y

Application successfully uninstalled
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>application configure</code>	アプリケーションを設定します。
<code>application install</code>	アプリケーション バンドルをインストールします。
<code>application reset-config</code>	アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
<code>application reset-passwd</code>	指定したユーザのアプリケーション パスワードをリセットします。

コマンド	説明
<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<code>application stop</code>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
<code>application upgrade</code>	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application reset-config

Cisco ISE アプリケーション コンフィギュレーションをリセットして、Cisco ISE データベースをクリアするには、EXEC モードで **application reset-config** コマンドを使用します。(このコマンドは、IP アドレス、ネット マスク、管理者ユーザ インターフェイス パスワードなどの最初のシャースの設定などをリセットしません)。このリセット機能の部分では、新しい Cisco ISE データベース管理者およびユーザ パスワードの入力が必要です。

application reset-config *application-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールおよび管理のためのアプリケーション コマンド。
<code>reset-config</code>	Cisco ISE アプリケーション コンフィギュレーションをリセットし、Cisco ISE データベースをクリアします。
<i>application-name</i>	リセットするアプリケーション コンフィギュレーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

application reset-config コマンドを使用して Cisco ISE コンフィギュレーションをリセットし、Cisco ISE アプライアンスまたは VMware のイメージを再作成せずに Cisco ISE データベースをクリアして、Cisco ISE データベース管理者パスワードとユーザ パスワードをリセットできます。



(注) **application reset-config** コマンドを使用すると、Cisco ISE コンフィギュレーションは出荷時の初期状態にリセットされますが、オペレーティング システム (Cisco ADE-OS) コンフィギュレーションはそのまま変更されません。Cisco ADE-OS コンフィギュレーションには、ネットワーク設定、CLI パスワード ポリシー、およびバックアップ履歴などの項目が含まれています。

例

例 1

```
ise/admin# application reset-config ise
Initialize your identity policy database to factory defaults? (y/n): y
Reinitializing local policy database to factory default state...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
```

```
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE Database processes...
Please follow the prompts below to create the database administrator password.
```

```
Enter new database admin password:
Confirm new database admin password:
Successfully created database administrator password.
```

```
Please follow the prompts below to create the database user password.
```

```
Enter new database user password:
Confirm new database user password:
Successfully created database user password.
Extracting ISE database content...
Starting ISE database processes...
Restarting ISE database processes...
Creating ISE M&T session directory...
Performing ISE database priming...
```

```
Application successfully reset configuration
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# application reset-config ise
Initialize your identity policy database to factory defaults? (y/n): n
Existing policy database will be retained.
```

```
Application successfully reset configuration
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application configure	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーション バンドルをインストールします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-passwd	指定したユーザのアプリケーション パスワードをリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
show application	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application reset-passwd



(注)

このコマンドは Cisco ISE メンテナンス リリース 1.0.4 で導入され、通常の Cisco ISE (リリース 1.0) には適用されません。管理者ユーザ インターフェイス パスワードをリセットするには、このコマンドを使用します。また、指定された管理者 ID のコマンドライン インターフェイス パスワードは変更されません。

不正なパスワードが入力されたために管理者アカウントが無効になった後、Cisco ISE で指定されたユーザ アカウント (通常は既存の管理者アカウント) の管理者ユーザ インターフェイス ログイン パスワードをリセットするには、EXEC モードで **application reset-passwd** コマンドを使用します。また、このコマンドを使用して、Cisco ISE データベース管理者パスワードとユーザ パスワードをリセットすることもできます。

application reset-passwd *application-name administrator-ID* | **internal-database-admin** | **internal-database-user**

構文の説明

application	アプリケーションのインストールおよび管理のためのアプリケーション コマンド。
reset-passwd	管理者アカウント パスワードをリセットします。
<i>application-name</i>	アプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>administrator-ID</i>	無効に設定されたため、パスワードをリセットする既存の管理者アカウントの名前。
internal-database-admin	Cisco ISE データベースのシステム レベルのパスワードを指定します。このパスワードは作成する必要があります (デフォルトはありません)。このパスワードは 11 文字以上の長さにする必要があります、少なくとも 1 つの小文字 (a-z)、少なくとも 1 つの大文字 (A-Z)、および少なくとも 1 つの数字 (0-9) を入れる必要があります。
internal-database-user	Cisco ISE データベースのアクセス レベルのパスワードを指定します。このパスワードは作成する必要があります (デフォルトはありません)。このパスワードは 11 文字以上の長さにする必要があります、少なくとも 1 つの小文字 (a-z)、少なくとも 1 つの大文字 (A-Z)、および少なくとも 1 つの数字 (0-9) を入れる必要があります。 (注) 内部データベースのユーザ パスワードをリセットすると、Cisco ISE によってアプリケーションを再起動するように求められます。内部データベースのユーザ パスワードは Cisco ISE アプリケーションを再起動した後にリセットされます。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

管理者のユーザ ID に対して、指定された回数を超えて間違ったパスワードを入力すると、Cisco ISE でその管理者アカウントは無効になり、ユーザ インターフェイスによってシステムからロックアウトされます。Cisco ISE は、その管理者 ID に関連付けられたパスワードがリセットされるまで、管理者 ID のクレデンシャルを一時的に停止します。Administration ISE ノードでは、パスワードは CLI からのみリセットされます。

通常、Cisco ISE データベース管理者とユーザのパスワードは、初期設定またはアップグレード中に一度しか指定する必要はありません。これらのパスワードのいずれかを後で変更する必要がある場合は、**application reset-passwd** コマンド ライン機能を使用して実行できます。

UTF-8 管理者ユーザは、Cisco ISE 管理者ユーザ インターフェイスからのみパスワードを変更できません。

例

例 1

```
ise/admin# application reset-passwd ise admin
Enter new password: *****
Confirm new password: *****
```

```
Password reset successfully.
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# application reset-passwd ise internal-database-admin
Enter new database admin password: *****
Confirm new database admin password: *****
```

```
Password reset successfully.
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application configure	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーション バンドルをインストールします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-config	アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
show application	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application start

特定のアプリケーションをイネーブルにするには、EXEC モードで **application start** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
application start application-name
```

```
application start application-name safe
```

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールおよび管理のためのアプリケーション コマンド。
<code>start</code>	アプリケーション バンドルをイネーブルにします。
<code>application-name</code>	イネーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<code>safe</code>	セーフ モードでアプリケーションを起動します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションをイネーブルにします。

このコマンドを使用して、Cisco ISE アプリケーションを起動することはできません。このコマンドを使用してアプリケーションを起動すると、Cisco ISE がすでに稼働していることが示されます。

application start コマンドを使用して、Cisco ISE をセーフ モードで起動できます。このモードでは、管理ユーザ インターフェイスに対するアクセス コントロールを一時的に無効にして、必要な変更を行った後に、アプリケーションを再起動できます。

例

```
ise/admin# application start ise
ISE Database processes is already running, PID: 7585
ISE M&T Session Database is already running, PID: 7851
ISE Application Server process is already running, PID: 7935
ISE M&T Log Collector is already running, PID: 7955
ISE M&T Log Processor is already running, PID: 8005
ISE M&T Alert Processor is already running, PID: 8046
ise/admin#
ise/admin# application start ise safe

Starting ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application configure	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーション バンドルをインストールします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-config	アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
application reset-passwd	指定したユーザのアプリケーション パスワードをリセットします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。

コマンド	説明
<code>application upgrade</code>	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application stop

特定のアプリケーションをディセーブルにするには、EXEC モードで **application stop** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

application stop application-name

構文の説明		
<code>application</code>		アプリケーションのインストールおよび管理のためのアプリケーション コマンドです。
<code>stop</code>		アプリケーションをディセーブルにします。
<code>application-name</code>		ディセーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションをディセーブルにします。

例

```
ise/admin# application stop ise

Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE Database processes...

ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>application configure</code>	アプリケーションを設定します。
<code>application install</code>	アプリケーション バンドルをインストールします。
<code>application remove</code>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<code>application reset-config</code>	アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
<code>application reset-passwd</code>	指定したユーザのアプリケーション パスワードをリセットします。
<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。

コマンド	説明
<code>application upgrade</code>	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application upgrade

特定のアプリケーション バンドルをアップグレードするには、EXEC モードで **application upgrade** コマンドを使用します。

application upgrade *application-bundle remote-repository-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールおよび管理のためのアプリケーション コマンドです。
<code>upgrade</code>	リモート リポジトリ内の特定のアプリケーション バンドルをアップグレードします。
<i>application-bundle</i>	アプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>remote-repository-name</i>	リモート リポジトリ名。最大 255 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーション バンドルをアップグレードし、アプリケーション コンフィギュレーション データを保存します。

アプリケーションを別途アップグレードしている間に、**application upgrade** コマンドを実行すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.
```



注意

アップグレード中は、**backup** または **restore** コマンドを実行しないでください。このアクションを実行すると、データベースが破損する可能性があります。



(注)

この **application upgrade** コマンドを使用して新しいリリースにアップグレードする前に、その新しいリリースで提供されているリリース ノートのアップグレード手順を確認する必要があります。リリース ノートには、準拠する必要がある重要な指示が含まれており、これらは新しいリリースへのアップグレードに応じて更新されます。

例

例 1

```
ise/admin# application upgrade ise-appbundle-1.1.0.362.i386.tar.gz http
Save the current ADE-OS running configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
```

```

Initiating Application Upgrade...
Stopping ISE application before upgrade...
Running ISE Database upgrade...
Upgrading ISE Database schema...
ISE Database schema upgrade completed.
Running ISE Global data upgrade as this node is a STANDALONE...
Running ISE data upgrade for node specific data...

Application upgrade successful
ise/admin#

```

例 2

```

ise/admin# application upgrade ise-appbundle-1.1.0.362.i386.tar.gz http
Save the current ADE-OS running configuration? (yes/no) [yes]? no
Initiating Application Upgrade...
Stopping ISE application before upgrade...
Running ISE Database upgrade...
Upgrading ISE Database schema...
ISE Database schema upgrade completed.
Running ISE Global data upgrade as this node is a STANDALONE...
Running ISE data upgrade for node specific data...

Application upgrade successful
ise/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
application configure	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーションバンドルをインストールします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-config	アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
application reset-passwd	指定したユーザのアプリケーション パスワードをリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
show application	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

backup

バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS データを含む) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存するには、EXEC モードで **backup** コマンドを使用します。Cisco ADE OS データなしで Cisco ISE アプリケーション データだけをバックアップするには、**application** コマンドを使用します。



(注)

EXEC モードでこの **backup** コマンドを使用する前に、ネットワーク サーバなど、安全な場所に実行コンフィギュレーションをコピーするか、Cisco ISE サーバのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存します。バックアップ ログやシステム ログから Cisco ISE アプリケーションの復元またはトラブルシューティングを行う場合、このスタートアップ コンフィギュレーションを使用できます。実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする方法の詳細については、「[copy](#)」(P.A-20) を参照してください。

backup *backup-name* **repository** *repository-name* **application** *application-name* **encryption-key**
hash | **plain** *encryption-key name*

構文の説明

backup	Cisco ISE および Cisco ADE OS にバックアップを実行し、バックアップをリポジトリに保存するコマンド。
<i>backup-name</i>	バックアップ ファイルの名前。最大 100 文字の英数字をサポートします。
repository	リポジトリ コマンド。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。最大 80 文字の英数字をサポートします。
application	アプリケーション コマンド (Cisco ODE OS システム データを除く、アプリケーションのみのバックアップ)。
<i>application-name</i>	アプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
encryption-key	ユーザ定義の暗号キーを指定して、バックアップを保護します。
hash	バックアップを保護するためのハッシュされた暗号キー。 <i>encrypted</i> (ハッシュ対象) 暗号化キーをそれに続けて指定します。最大 40 文字までサポートします。
plain	バックアップを保護するためのプレーン テキスト暗号キー。 <i>unencrypted</i> プレーン テキスト暗号キーをそれに続けて指定します。最大 15 文字までサポートします。
<i>encryption-key name</i>	hash plain の形式でバックアップ用に暗号キーを指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

Cisco ISE および Cisco ADE OS データのバックアップを実行し、暗号化 (ハッシュされた) または非暗号化プレーン テキストのパスワードでバックアップをリポジトリに保存します。

Cisco ADE OS データなしで Cisco ISE アプリケーション データだけをバックアップするには、**application** コマンドを使用します。

ユーザ定義の暗号キーを使用してバックアップを暗号化および復号化できるようになりました。

例

例 1

```
ise/admin# backup mybackup repository myrepository encryption-key plain Lab12345
% Creating backup with timestamped filename: backup-111125-1252.tar.gpg
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# backup mybackup repository myrepository application ise encryption-key plain
Lab12345
% Creating backup with timestamped filename: backup-111125-1235.tar.gpg
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup-logs	システム ログをバックアップします。
delete	Cisco ISE サーバからファイルを削除します。
dir	Cisco ISE サーバ上のファイルを一覧表示します。
reload	システムをリブートします。
repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

backup-logs

システム ログをバックアップするには、EXEC モードで **backup-logs** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注)

EXEC モードでこの **backup-logs** コマンドを使用する前に、ネットワーク サーバなど、安全な場所に実行コンフィギュレーションをコピーするか、Cisco ISE サーバのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存します。バックアップ ログやシステム ログから Cisco ISE アプリケーションの復元またはトラブルシューティングを行う場合、このスタートアップ コンフィギュレーションを使用できます。実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする方法の詳細については、「[copy](#)」(P.A-20) を参照してください。

backup-logs *backup-name* **repository** *repository-name* **encryption-key** *hash* | *plain* *encryption-key name*

構文の説明

<code>backup-logs</code>	リポジトリにシステムおよびアプリケーションのログをバックアップするコマンド。
<i>backup-name</i>	バックアップする 1 つまたは複数のファイルの名前。最大 100 文字の英数字をサポートします。
<code>repository</code>	リポジトリ コマンド。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。最大 80 文字の英数字をサポートします。
<code>encryption-key</code>	暗号キーを指定して、バックアップ ログを保護します。
<code>hash</code>	バックアップ ログを保護するためのハッシュされた暗号キー。 <i>encrypted</i> (ハッシュ対象) 暗号化キーをそれに続けて指定します。最大 40 文字までサポートします。
<code>plain</code>	バックアップ ログを保護するためのプレーン テキスト暗号キー。 <i>unencrypted</i> プレーン テキスト暗号キーをそれに続けて指定します。最大 15 文字までサポートします。
<i>encryption-key name</i>	hash plain 形式の暗号キー。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 暗号化された（ハッシュされた）、または暗号化されていないプレーン テキストのパスワードを使用して、システム ログをバックアップします。

例

```
ise/admin# backup-logs mybackup repository myrepository encryption-key plain Lab12345
% Creating log backup with timestamped filename: mybackup-111125-1117.tar.gpg
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	backup	バックアップ（Cisco ISE と Cisco ADE OS）を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
	repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
	show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。
	show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

clock

システム時計を設定するには、EXEC モードで **clock** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock set [*month day hh:mm:ss yyyy*]

構文の説明	構文	説明
	clock set	システム クロックを設定するコマンド。
	<i>month</i>	現在の月の名前。3 文字までの英字をサポートします。たとえば、January は Jan と指定します。
	<i>day</i>	現在の日（日付）。有効な値は 0 ～ 31 の範囲です。最大 2 桁の数字をサポートします。
	<i>hh:mm:ss</i>	現在の時間、分、および秒（24 時間形式）。
	<i>yyyy</i>	現在の年（省略なし）

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン システム クロックを設定します。変更を有効にするには、クロックをリセット後に Cisco ISE サーバを再起動する必要があります。



警告

Cisco ISE アプライアンスのシステム時刻を変更すると、Cisco ISE アプリケーションを配置で使用できなくなります。

システム時刻を変更することによって及ぼされるさまざまな Cisco ISE ノード タイプの配置への影響と、それらの影響から回復するための手順の詳細は、「[スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノード](#)」(P.A-18) および「[セカンダリ ISE ノード](#)」(P.A-18) を参照してください。

スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノード

インストールの後のシステム時刻の変更は、スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノードでサポートされていません。

誤ってシステム時刻を変更した場合は、次の手順を実行します。

- 元のシステム時刻（変更される前の時刻）に戻します。
- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- そのノードで時刻が変更される前の、正常な既知の最終バックアップから復元します。

セカンダリ ISE ノード

セカンダリ ノードでシステム時刻を変更すると、配置に使用できなくなります。

プライマリ ノードとセカンダリ ノードのシステム時刻を同期するには、次の手順を実行します。

- セカンダリ ノードの登録を解除します。
- プライマリ ノードと同期するシステム時刻を修正します。
- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- プライマリ ノードにセカンダリ ノードとしてノードを再登録します。



(注)

インストール時に設定された正しいシステム時刻に確実に設定されるように、セットアップ ウィザードによって NTP サーバにプロンプトが出され、それと同期するように求められます。特に、電源の障害や CMOS バッテリーの障害によって BIOS 時刻が破損し、それによってリブート中に ADE-OS システムが破損するようなまれな状況においては、セットアップ中に設定された NTP サーバが常に到達可能であり、システム時刻が常に正確さを保つようする必要があります。セットアップ中に NTP サーバを設定しなければ、『[Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide, Release 1.1.1](#)』に記載されているように、UTC と比較して、システムの BIOS 時刻が設定されていることを確認する必要があります。

例

```
ise/admin# clock set May 5 18:07:20 2010
ise/admin# show clock
Thu May 5 18:07:26 UTC 2010
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	システム ソフトウェアの時計に設定されている日付と時刻を表示します。

configure

コンフィギュレーション モードに入るには、EXEC モードで **configure** コマンドを使用します。このコマンドで **replace** オプションを使用する場合、既存のコンフィギュレーションを上書きするシステムにリモート コンフィギュレーションをコピーします。

configure terminal

構文の説明	コマンド	説明
	configure	コンフィギュレーション モードに入れるようにするコマンド。
	terminal	コンフィギュレーション コマンドを端末から実行します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン このコマンドは、コンフィギュレーション モードに入る場合に使用します。このモードのコマンドは、(Enter キーを押して) 入力するとすぐに、実行コンフィギュレーション ファイルへの書き込みを行います。

コンフィギュレーション モードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** または **exit** と入力するか、**Ctrl+z** キーを押します。

コンフィギュレーションに加えた変更内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# configure
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)#
```

例 2

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per lineAug.nd with CNTL/Z.
ise/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。
	show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、EXEC モードで **copy** コマンドを使用します。Cisco ISE で **copy** コマンドを実行すると、コンフィギュレーション（実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーション）がコピーされます。

実行コンフィギュレーション

Cisco ISE のアクティブなコンフィギュレーションでは、そのコンフィギュレーション自体が Cisco ISE RAM に保存されます。入力するすべてのコンフィギュレーション コマンドは、そのコマンド自体が実行コンフィギュレーションに保存されます。Cisco ISE サーバをリブートすると、実行コンフィギュレーションが失われます。加えた変更を保存する場合は、実行コンフィギュレーションをネットワーク サーバなどの安全な場所にコピーするか、Cisco ISE サーバのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。

スタートアップ コンフィギュレーション

スタートアップ コンフィギュレーションは直接編集できません。入力するすべてのコマンドは、実行コンフィギュレーションに保存され、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーすることができます。

つまり、Cisco ISE サーバをブートすると、スタートアップ コンフィギュレーションが最初の実行コンフィギュレーションとなります。コンフィギュレーションを変更すると、実行コンフィギュレーションは更新されますがスタートアップ コンフィギュレーションは変更されないため、2つのコンフィギュレーションに差異が生じます。変更を永続的なものにするには、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする必要があります。

次のコマンドラインは、使用可能な **copy** コマンド シナリオの一部を示しています。

copy running-config startup-config : 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

copy run start : スタートアップ コンフィギュレーションを、実行コンフィギュレーションに置き換えます。



(注) 実行コンフィギュレーションを保存しない場合、次回 Cisco ISE サーバをリブートしたときに、コンフィギュレーションに加えた変更がすべて失われます。現在のコンフィギュレーションが正しいことを確認したら、**copy run start** コマンドを使用して、コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

copy startup-config running-config : スタートアップ コンフィギュレーションを、実行コンフィギュレーションにコピーします。

copy start run : スタートアップ コンフィギュレーションを、実行コンフィギュレーションにマージします。

copy [protocol://hostname/location] startup-config : リモート ファイルをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーしますが、マージはしません。

copy [protocol://hostname/location] running-config : リモート ファイルを実行コンフィギュレーションにコピーしてマージします。

copy startup-config [protocol://hostname/location] : スタートアップ コンフィギュレーションをリモート システムにコピーします。

copy running-config [protocol://hostname/location] : 実行コンフィギュレーションをリモート システムにコピーします。

copy logs [*protocol://hostname/location*] : システムのログ ファイルを別の場所にコピーします。



(注) **copy** コマンドは、ローカル ディスクに対してだけサポートされており、リポジトリに対してはサポートされていません。

構文の説明

copy	項目をコピーするコマンド。
running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルを表します。
startup-config	初期化 (スタートアップ) 時に使用されたコンフィギュレーション ファイルを表します。
<i>protocol</i>	プロトコル キーワードのオプションについては、表 A-2 を参照してください。
<i>hostname</i>	コピー先のホスト名。
<i>location</i>	コピー先の場所。
logs	システムのログ ファイル。
all	すべての Cisco ISE ログ ファイルをシステムから別の場所にコピーします。すべてのログは、 iselogs.tar.gz としてパッケージ化され、リモート ホストの指定されたディレクトリに転送されます。
filename	単一の Cisco ISE ログ ファイルをコピーし、そのファイルをリモート ホストにある指定されたディレクトリに、元の名前で転送できます。
<i>log_filename</i>	show logs コマンドによって表示される Cisco ISE ログ ファイルの名前 (255 文字以内)。
mgmt	Cisco ISE 管理デバッグ ログと Tomcat ログをシステムからコピーし、 mgmtlogs.tar.gz としてバンドルしたうえで、リモート ホスト上の指定されたディレクトリに転送します。
runtime	Cisco ISE ランタイム デバッグ ログをシステムからコピーし、 runtimelogs.tar.gz としてバンドルしたうえで、リモート ホスト上の指定されたディレクトリに転送します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

copy コマンドの基本的な機能として、1 つの場所から別の場所に、ファイル (システム イメージやコンフィギュレーション ファイルなど) をコピーできます。指定したファイルのコピー元およびコピー先には、Cisco ISE ファイル システムを使用して、サポートされているローカルまたはリモート ファイルの場所を指定できます。使用されているファイル システム (ローカル メモリ ソースまたはリモート サーバ) によって、コマンドで使用される構文が決定されます。

必要なすべてのコピー元とコピー先の情報、および使用するユーザ名とパスワードをコマンドラインに入力できます。または、**copy** コマンドを入力して、不足情報がある場合にサーバにプロンプトを表示させることができます。



ワンポイントアドバイス

エイリアスを使用すると、入力を省力化できます。たとえば、**copy run start** (**copy running-config startup-config** コマンドの省略形) と入力することができます。

コピー プロセスが完全に完了するまでには、数分間かかることがあります。これは、使用しているプロトコルやネットワークによって異なります。

ファイル転送には、ディレクトリに対する相対ファイル名を使用します。

その場合、標準の FTP または SCP エラー メッセージが発生することがあります。

表 A-2 プロトコル プレフィックスのキーワード

キーワード	発信元または送信先
ftp	FTP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。このエイリアスの構文： ftp:[[/username [:password]@]location]/directory]/filename
scp	SCP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。このエイリアスの構文： scp:[[/username [:password]@]location]/directory]/filename
sftp	SFTP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。このエイリアスの構文： sftp:[[/location]/directory]/filename
tftp	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文： tftp:[[/location]/directory]/filename

例

例 1

```
ise/admin# copy run start
Generating configuration...
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# copy running-config startup-config
Generating configuration...
ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin# copy start run
ise/admin#
```

例 4

```
ise/admin# copy startup-config running-config
ise/admin#
```

例 5

```
ise/admin# copy logs disk:/
Collecting logs...
ise/admin#
```

例 6

```
ise/admin# copy disk://mybackup-100805-1910.tar.gz ftp://myftpserver/mydir
Username:
Password:
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	application install	Cisco ISE インスタンスを開始または停止します。
	backup	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	delete	Cisco ISE サーバからファイルを削除します。
	dir	Cisco ISE サーバ上のファイルを一覧表示します。
	reload	システムをリブートします。
	restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
	show application	アプリケーション ステータスとバージョン情報を表示します。
	show version	システムのソフトウェア バージョンについての情報を表示します。

debug

コマンドの状況に対するエラーまたはイベントを表示するには、EXEC モードで、**debug** コマンドを使用します。

```
debug {all | application | backup-restore | cdp | config | icmp | copy | locks | logging | snmp |
system | transfer | user | utils}
```

構文の説明	debug	Cisco ISE サーバのさまざまな障害を識別するコマンド。
	all	すべてのデバッグをイネーブルにします。
	application	アプリケーション ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i> : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 <i>install</i> : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 <i>operation</i> : アプリケーション操作のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 <i>uninstall</i> : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。

backup-restore	<p>ファイルをバックアップおよび復元します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>backup</i> : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>backup-logs</i> : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>history</i> : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>restore</i> : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。
cdp	<p>Cisco Discovery Protocol (CDP) コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>config</i> : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>infra</i> : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。

config	<p>設定ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>backup</i> : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>clock</i> : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>infra</i> : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>kron</i> : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>network</i> : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>repository</i> : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>service</i> : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。
icmp	<p>インターネット制御メッセージ プロトコル (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション。</p> <p><i>all</i> : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。</p>
copy	<p>コピー コマンド。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。</p>
locks	<p>リソース ロッキング。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>file</i> : ファイル ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。
logging	<p>ロギング コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : すべてのロギング コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。</p>
snmp	<p>SNMP コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : すべての SNMP コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。</p>

EXEC コマンド

system	<p>システム ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>id</i> : システム ID のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>info</i> : システム情報のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>init</i> : システムの初期化のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。
transfer	<p>ファイル転送。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。</p>
user	<p>ユーザ管理。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。 • <i>password-policy</i> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。
utils	<p>ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。</p>

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

セットアップ エラーやコンフィギュレーション エラーなど、Cisco ISE サーバ内のさまざまなエラーを識別するには、**debug** コマンドを使用します。

例

```
ise/admin# debug all
ise/admin# mkdir disk:/1
ise/admin# 6 [15347]: utils: vsh_root_stubs.c[2742] [admin]: mkdir operation success

ise/admin# rmdir disk:/1
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2601] [admin]: Invoked Remove Directory disk:/1 command
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2663] [admin]: Remove Directory operation success
ise/admin#

ise/admin# undebug all
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	undebug	さまざまなコマンドの状況で、 debug コマンドの出力（エラーまたはイベントの表示）をディセーブルにします。

delete

Cisco ISE サーバからファイルを削除するには、EXEC モードで **delete** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

delete filename [disk:/path]

構文の説明	delete	説明
	<i>filename</i>	ファイル名。最大 80 文字の英数字をサポートします。
	<i>disk:/path</i>	場所。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン コンフィギュレーション ファイルまたはイメージを削除しようとする、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。また、有効な最後のシステム イメージを削除しようとした場合も、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。

例

```
ise/admin# delete disk:/hs_err_pid19962.log
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	Cisco ISE サーバ上のすべてのファイルを一覧表示します。

dir

Cisco ISE サーバからファイルをリストするには、EXEC モードで **dir** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dir [word] [recursive]

構文の説明	dir	説明
	<i>word</i>	ディレクトリ名。最大 80 文字の英数字をサポートします。ディレクトリ名の前には disk:/ を指定する必要があります。
	<i>recursive</i>	ローカル ディレクトリまたはファイル名を再帰的に一覧表示します。

EXEC コマンド

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例**例 1**

```
ise/admin# dir

Directory of disk:/

 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
  16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
     15234142208 bytes available

ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# dir disk:/logs

0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
     15234142208 bytes available

ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin# dir recursive

Directory of disk:/

 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
  16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/

Directory of disk:/logs

   0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log

Directory of disk:/temp

  281 Aug 05 2010 19:12:45 RoleBundles.xml
```

```
6631 Aug 05 2010 19:12:34 PipDetails.xml
 69 Aug 05 2010 19:12:45 GroupRoles.xml
231 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationGroupTypes.xml
544145 Aug 05 2010 19:12:35 ResourceTypes.xml
45231 Aug 05 2010 19:12:45 UserTypes.xml
 715 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationGroups.xml
 261 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationTypes.xml
1010 Aug 05 2010 19:12:34 Pdps.xml
1043657 Aug 05 2010 19:12:44 Groups.xml
281003 Aug 05 2010 19:12:38 Resources.xml
  69 Aug 05 2010 19:12:45 GroupUsers.xml
2662 Aug 05 2010 19:12:44 RoleTypes.xml
  79 Aug 05 2010 19:12:34 UserStores.xml
4032 Aug 05 2010 19:12:38 GroupTypes.xml
1043 Aug 05 2010 19:12:34 Organization.xml
58377 Aug 05 2010 19:12:46 UserRoles.xml
 300 Aug 05 2010 19:12:45 Contexts.xml
  958 Aug 05 2010 19:12:34 Applications.xml
28010 Aug 05 2010 19:12:45 Roles.xml
122761 Aug 05 2010 19:12:45 Users.xml

Directory of disk:/activemq-data

 4096 Jun 10 2010 02:34:03 localhost/

Directory of disk:/activemq-data/localhost

  0 Jun 10 2010 02:34:03 lock
4096 Jun 10 2010 02:34:03 journal/
4096 Jun 10 2010 02:34:03 kr-store/
4096 Jun 10 2010 02:34:03 tmp_storage/

Directory of disk:/activemq-data/localhost/journal

33030144 Aug 06 2010 03:40:26 data-1
2088 Aug 06 2010 03:40:26 data-control

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store

4096 Aug 06 2010 03:40:27 data/
4096 Aug 06 2010 03:40:26 state/

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/data

102 Aug 06 2010 03:40:27 index-container-roots
  0 Aug 06 2010 03:40:27 lock

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/state

3073 Aug 06 2010 03:40:26 hash-index-store-state_state
  51 Jul 20 2010 21:33:33 index-transactions-state
204 Aug 06 2010 03:40:26 index-store-state
306 Jun 10 2010 02:34:03 index-kaha
290 Jun 10 2010 02:34:03 data-kaha-1
71673 Aug 06 2010 03:40:26 data-store-state-1
  0 Jun 10 2010 02:34:03 lock

Directory of disk:/activemq-data/localhost/tmp_storage

No files in directory

Directory of disk:/target

4096 Aug 04 2010 23:15:20 logs/
```

EXEC コマンド

```

Directory of disk:/target/logs

      0 Aug 04 2010 23:15:20 ProfilerPDP.log
    2208 Aug 05 2010 11:54:26 ProfilerSensor.log

Directory of disk:/lost+found

No files in directory

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
    15234142208 bytes available

ise/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
delete	Cisco ISE サーバからファイルを削除します。

exit

Cisco ISE サーバからログアウトさせることで、アクティブな端末セッションを終了するか、コンフィギュレーション モードから 1 つ上のモード レベルに移行するには、EXEC モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

EXEC モードで **exit** コマンドを使用して、(Cisco ISE サーバをログアウトすることで) アクティブなセッションを終了するか、コンフィギュレーション モードから上のモードに移行します。

例

```

ise/admin# exit
ise/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
end	コンフィギュレーション モードを終了します。
exit	コンフィギュレーション モードまたは EXEC モードを終了します。
Ctrl+z	コンフィギュレーション モードを終了します。

forceout

ユーザを ISE サーバからログアウトさせることで、アクティブな端末セッションを強制的に終了させるには、EXEC モードで **forceout** コマンドを使用します。

forceout *username*

構文の説明	forceout	特定のシステム ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトさせるコマンド。
	<i>username</i>	ユーザの名前。最大 31 文字の英数字をサポートします。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン EXEC モードで **forceout** コマンドを使用して、ユーザのアクティブなセッションを強制的に終了させます。

例

```
ise/admin# forceout user1
ise/admin#
```

halt

システムをシャットダウンしてシステムの電源を切るには、EXEC モードで **halt** コマンドを使用します。

halt

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **halt** コマンドを実行する前に、Cisco ISE が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作の実行中ではないことを確認します。Cisco ISE がこれらのいずれかの操作を行っている間に **halt** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with halt?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with halt?
```

EXEC コマンド

これらのいずれかの警告が表示された場合、システムを強制終了するには **Yes** と入力し、強制終了をキャンセルするには **NO** と入力します。

halt コマンドの使用時にプロセスが実行されていない場合、または表示される警告メッセージに応じて **Yes** と入力すると、Cisco ISE によって、次のオプションに対する対応を尋ねられます。

```
Do you want to save the current configuration?
```

Yes と入力して、既存の Cisco ISE コンフィギュレーションを保存します。Cisco ISE には、次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

例

```
ise/admin# halt
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
reload	システムをリブートします。

help

Cisco ISE サーバの対話型のヘルプ システムについての説明を表示するには、EXEC モードで **help** コマンドを使用します。

help

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

すべてのコンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

help コマンドを実行すると、状況依存ヘルプ システムの簡単な説明が表示されます。

- 特定のコマンド モードで使用可能なすべてのコマンドを一覧表示するには、システム プロンプトで疑問符 (?) を入力します。
- 特定の文字列で始まるコマンド リストを取得するには、省略形のコマンド エントリの直後に、疑問符 (?) を入力します。このヘルプの形式は、入力された省略形で始まるキーワードまたは引数だけ一覧表示するので、ワード ヘルプと呼ばれます。
- コマンドに関連付けられているキーワードおよび引数を一覧表示するには、コマンドラインで、キーワードまたは引数の代わりに疑問符 (?) を入力します。このヘルプの形式は、すでに入力したコマンドやキーワード、および引数に基づいて適用されるキーワードまたは引数を一覧表示するので、構文ヘルプと呼ばれます。

例

```
ise/admin# help
Help may be requested at any point in a command by entering
a question mark '?'. If nothing matches, the help list will
be empty and you must backup until entering a '?' shows the
available options.
Two styles of help are provided:
1. Full help is available when you are ready to enter a
   command argument (e.g. 'show?') and describes each possible
   argument.
2. Partial help is provided when an abbreviated argument is entered
   and you want to know what arguments match the input
   (e.g. 'show pr?'.)

ise/admin#
```

mkdir

Cisco ISE サーバに新しいディレクトリを作成するには、EXEC モードで **mkdir** コマンドを使用します。

```
mkdir directory-name [disk:/path]
```

構文の説明

mkdir	ディレクトリを作成するコマンド。
<i>directory-name</i>	作成するディレクトリの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。
<i>disk:/path</i>	ディレクトリ名には <i>disk:/path</i> の形式を使用し、

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

ディレクトリ名には *disk:/path* の形式を使用します。このようにしなければ、*disk:/path* の指定が必要であることを示すエラーが表示されます。

例

```
ise/admin# mkdir disk:/test
ise/admin# dir

Directory of disk:/

 4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
 4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
 4096 May 06 2010 13:42:53 target/
 4096 May 07 2010 12:26:04 test/

Usage for disk: filesystem
    181067776 bytes total used
    19084521472 bytes free
    20314165248 bytes available

ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>dir</code>	ISE サーバ上のファイルを一覧表示します。
<code>rmdir</code>	既存のディレクトリを削除します。

nslookup

Cisco ISE サーバにあるリモート システムのホスト名を検索するには、EXEC モードで **nslookup** コマンドを使用します。

nslookup word

構文の説明

<code>nslookup</code>	リモート システムの IP アドレスまたはホスト名を検索するコマンド。
<code>word</code>	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

例 1

```
ise/admin# nslookup 1.2.3.4
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Host 4.3.2.1.in-addr.arpa. not found: 3(NXDOMAIN)
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms

ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# nslookup 209.165.200.225
Trying "225.200.165.209.in-addr.arpa"
;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 65283
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 2, ADDITIONAL: 0

;; QUESTION SECTION:
;225.200.165.209.in-addr.arpa. IN PTR

;; ANSWER SECTION:
225.200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN PTR 209-165-200-225.got.net.

;; AUTHORITY SECTION:
200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns1.got.net.
200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns2.got.net.

Received 119 bytes from 171.70.168.183#53 in 28 ms
```

```
ise/admin#
```

patch install

patch install コマンドは、CLI から **patch install** コマンドを実行する特定のノードだけにアプリケーションのパッチ バンドルをインストールします。



(注)

Cisco ISE 分散展開環境では、パッチ バンドルがすべてのセカンダリ ノードで自動的にインストールされるように、Cisco ISE 管理ユーザ インターフェイスにプライマリ管理 ISE ノードからアプリケーションのパッチ バンドルをインストールします。

アプリケーションのパッチ バンドルをインストールするには、EXEC モードで **patch** コマンドを使用します。

patch install patch-bundle repository

構文の説明

patch	システムやアプリケーションのパッチをインストールするためのコマンド。
install	アプリケーションの特定のパッチ バンドルをインストールするコマンド。
patch-bundle	パッチ バンドルのファイル名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
repository	リポジトリ名。最大 255 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションの特定のパッチ バンドルをインストールします。

既存のパッチの古いバージョンであるパッチをインストールしようとする、次のエラー メッセージが表示されます。

```
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
```



(注)

この **patch install** コマンドを使用してパッチをインストールする前に、そのパッチで提供されているリリース ノートのパッチ インストールに関する手順を確認する必要があります。リリース ノートには、準拠する必要のある重要な指示が含まれており、パッチのインストールに応じて更新されます。詳細については、パッチのインストールとロールバックに関する『[Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.1.1](#)』の「Managing ISE Backup and Restore Operations」の項を参照してください。

例

例 1

```
ise/admin# patch install ise-patchbundle-1.1.0.362-3.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...

Patch successfully installed
```

EXEC コマンド

```
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# patch install ise-patchbundle-1.1.0.362-3.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? no
Initiating Application Patch installation...
```

```
Patch successfully installed
ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin# patch install ise-patchbundle-1.1.0.362-2.i386.tar.gz disk
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
patch remove	アプリケーションの特定のパッチバンドルのバージョンを削除するコマンド。
show version	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェア、およびデバイス情報を表示します。

patch remove



(注) Cisco ISE 分散展開環境では、パッチ バンドルがすべてのセカンダリ ノードから自動的にアンインストールされるように、Cisco ISE 管理ユーザ インターフェイスでプライマリ ポリシー管理ポイント (ISE) ノードからアプリケーションのパッチ バンドルを削除します。詳細については、パッチのインストールとロールバックに関する『[Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.1.1](#)』の「Managing ISE Backup and Restore Operations」の項を参照してください。

アプリケーションの特定のパッチ バンドルのバージョンを削除するには、EXEC モードで **patch** コマンドを使用します。

patch remove *word word*

構文の説明

patch	システムやアプリケーションのパッチをインストールするためのコマンド。
remove	アプリケーションの特定のパッチ バンドルのバージョンを削除するコマンド。
<i>word</i>	パッチが削除されるアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>word</i>	削除されるパッチ バージョン番号。最大 255 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションの特定のパッチ バンドルを削除します。

インストールされていないパッチを削除しようとすると、次のエラー メッセージが表示されます。

```
% Patch is not installed
```



(注) この **patch remove** コマンドを使用してパッチをロールバックする前に、そのパッチで提供されているリリース ノートのロールバックに関する手順を確認する必要があります。リリース ノートには、準拠する必要のある重要な指示が含まれており、以前にインストールされたパッチのロールバックに応じて更新されます。

例

例 1

```
ise/admin# patch remove ise 3
Continue with application patch uninstall? [y/n] y
Application patch successfully uninstalled
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# patch remove ise 3
Continue with application patch uninstall? [y/n] y
% Patch is not installed
```

EXEC コマンド

ise/admin#

関連コマンド

コマンド	説明
patch install	アプリケーションの特定のパッチバンドルをインストールするコマンド。
show version	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェア、およびデバイス情報を表示します。

pep

pep コマンドを **certificate**、**set**、および **switch** コマンド オプションとともに EXEC モードで使用して、以下を実行します。

- **pep certificate** : Inline Posture ノードの CA とサーバ証明書を処理します
- **pep set** : Cisco ISE Inline Posture ノード情報をログに記録します
- **pep switch into-pep** : Cisco ISE 分散展開で Cisco ISE Inline Posture ノードにセカンダリ ノードを設定します
- **pep switch outof-pep** : Cisco ISE Inline Posture ノードを Cisco ISE スタンドアロン ノードに戻すように設定します

次のコマンドラインは、使用可能な **pep** コマンド シナリオを示しています。

pep certificate {*certauthority*|*server*}—manipulates CA and server certificates for an Inline Posture node.

pep set loglevel {0|1|2|3}—sets the Inline Posture node log information.

pep switch {*into-pep*|*outof-pep*}—configures the Cisco ISE node into Inline Posture node or Inline Posture role to a Cisco ISE standalone node.

構文の説明

pep	Inline Posture ロールへの分散展開で、セカンダリ ノードを設定するコマンド。
certificate	CA およびサーバ証明書の両方を処理するコマンド。
certauthority	CA 証明書を処理するコマンド。
add	Inline Posture ノードの CA のストアに証明書を追加します。
delete	Inline Posture ノードの CA のストアから証明書を削除します。
server	サーバ証明書を処理するコマンド。
add	異なるキーと証明書を使用して、新しいサーバ証明書をサーバストアに追加します。
delete	サーバのストアからサーバ証明書を削除します。
set	Inline Posture の loglevel コンフィギュレーションを設定するコマンド。
loglevel	Inline Posture のログ レベルを設定するコマンド。
0-3	0 情報：情報のみをログに記録します。 1 警告：警告状態です。 2 デバッグ：デバッグ メッセージです。 3 トレース：トラブルシューティング用の情報をログに記録します。
switch	Inline Posture ノードのペルソナの変更を設定するコマンド。

<i>into-pep</i>	Inline Posture ロールにセカンダリ ノードを設定します。
<i>outof-pep</i>	管理、モニタリング、およびポリシー サービスのロールで有効になっているスタンドアロンのロールに Inline Posture ロールを設定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

この **pep** コマンドは VMware のセットアップでは使用できません。

pep certificate コマンド オプションを使用して、Inline Posture ノードの CA とサーバ証明書を処理します。信頼ストア内で証明書を変更すると、Inline Posture アプリケーションが再起動されます。信頼ストア内の証明書リストを表示するには、**show pep certificate certauthority** コマンドを使用します。

Inline Posture ノード情報をログに記録するには、**pep set** コマンド オプションを使用します。

pep switch コマンド オプションを使用して、ISE セカンダリ ノードを ISE Inline Posture ノードに設定するか、ISE Inline Posture ノードを ISE スタンドアロン ノードに設定します。これは、管理、モニタリング、およびポリシー サービス ロールで有効になります。ただし、**pep switch into-pep** コマンドを使用して、登録済みの ISE ポリシー サービス ノードを ISE Inline Posture ノードに変更することはお勧めしません。Cisco ISE 管理ノードのユーザ インターフェイスから Inline Posture ノードとしてセカンダリ ノードを登録する方法が常に推奨されます。変換は自動的に行われます。**pep switch outof-pep** コマンドを使用して、ISE Inline Posture ノードを ISE スタンドアロン ノードに戻すことはお勧めしません。常に ISE の管理ノードのユーザ インターフェイスから Inline Posture ノードを登録解除することをお勧めします。

例**例 1**

次のコマンドは、Inline Posture ノードの信頼ストアに CA 証明書を追加します。証明書ファイルは Inline Posture ノードのローカル ディスク上のリポジトリに存在する必要があります。証明書のコピー用のローカル ディスク リポジトリとサーバの秘密キー ファイルを Inline Posture ノードに作成して、**add** コマンドでこれらのファイルを使用できるようにします。ローカル ディスク上のリポジトリに証明書およびキー ファイルをダウンロードするには、**copy** コマンドを使用します。

信頼ストアの証明書リストを表示するには、**show pep certificate certauthority** コマンドを使用します。エイリアス名を使用して信頼ストアに CA 証明書が追加されていることを確認できます。



(注) CA 証明書がすでに信頼ストアに存在するかどうかを確認するには、**show pep certificate certauthority** コマンドを使用します。すでに信頼ストアに存在する同じ証明書をインポートすると (**add** コマンドを使用)、プロンプトでその証明書に別のエイリアス名を使用した場合、証明書を使用できなくなる可能性があり、再起動後に Inline Posture ノードにアクセスできなくなる場合があります。同じ証明書をインポートするときは同じエイリアスを使用するようにするか、信頼ストアから証明書を削除してから、その証明書用に別のエイリアス名をインポートするようにします。

```
ise/admin# pep certificate certauthority add
CA Certificate change will result in application restart. Proceed? (y/n):
y
Enter the name of the certificate to be added (.pem/.crt):
ise70ciscocom4f061e00d0afb.pem
Enter an alias name for the certificate to be added:
```

```
ca-1
IPEP Application Restarting
ise/admin#
```

次のコマンドは、Inline Posture ノードの信頼ストアから CA 証明書を削除します。信頼ストアの証明書リストを表示するには、**show pep certificate certauthority** コマンドを使用します。CA 証明書が信頼ストアから削除されていることを確認できます。

```
ise/admin# pep certificate certauthority delete
CA Certificate change will result in application restart. Proceed? (y/n):
Y
Enter the alias name of the certificate to be removed:
ca-1
IPEP Application Restarting
ise/admin#
```

例 2

次のコマンドは、Inline Posture ノードのキー ストアにサーバの秘密キーおよびサーバ証明書 (Tomcat など) を追加します。信頼ストアの証明書リストを表示するには、**show pep certificate certauthority** コマンドを使用します。**tomcat** が信頼ストアに追加されていることを確認できます。サーバ証明書の詳細は、**show pep certificate server** コマンドを使用して確認できます。

```
ise/admin# pep certificate server add
Server Certificate change will result in application restart. Proceed? (y/n):
Y
Enter the server key file name:
mykey.pem
Enter the server certificate file name:
mycert.pem
Enter server key pass phrase:
IPEP Application Restarting
ise/admin#
```

次のコマンドは、Inline Posture ノードのキー ストアからサーバ証明書 (Tomcat) を削除します。証明書リストを表示するには、**show pep certificate certauthority** コマンドを使用します。**tomcat** が信頼ストアから削除されていることを確認できます。

```
ise/admin# pep certificate server delete
Server Certificate change will result in application restart. Proceed? (y/n):
Y
IPEP Application Restarting
ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin# pep set loglevel 0
ise/admin#
```

show pep loglevel コマンドは loglevel を表示します。

```
ise/admin# show pep loglevel
INFO
ise/admin#
```

例 4

```
ise/admin# pep switch into-pep
Do you really want to switch into Inline PEP persona? (y/n): y
Switch into IPEP needs restart. Proceed? (y/n): y
Broadcast message from root (pts/2) (Thu Jan 19 09:20:57 2012):
ise/admin#
```

リブート後のセカンダリ ノードの設定を確認するには、**show application status ise** コマンドを実行します。セカンダリ ノードはリブート後に **Inline Posture** サービスを実行するようになります。

```
ise/admin# show application status ise
Inline PEP click kernel module is loaded.
Inline PEP runtime java application is running,PID=25364.
ise/admin#
```

例 5

```
ise/admin# pep switch outof-pep
Broadcast message from root (pts/0) (Wed Oct 13 09:03:10 2010):
The system is going down for reboot NOW!
ise/admin#
```

リブート後の **Inline Posture** ノードの設定を確認するには、**show application status ise** コマンドを実行します。ノードはリブート後に管理、モニタリング、およびポリシー サービス ロールをスタンドアロン ノードとして実行するようになります。

```
ise/admin# show application status ise

ISE Database listener is running, PID: 3057
ISE Database is running, number of processes: 27
ISE Application Server is running, PID: 3357
ISE M&T Session Database is running, PID: 2858
ISE M&T Log Collector is running, PID: 3378
ISE M&T Log Processor is running, PID: 3422
ISE M&T Alert Process is running, PID: 3467

ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show pep	Inline Posture ノードの情報を表示します。

ping

リモートシステムとの基本的な IPv4 ネットワーク接続を診断するには、EXEC モードで **ping** コマンドを使用します。

```
ping {ip-address | hostname} [df df] [packetsize packetsize] [pingcount pingcount]
```

構文の説明

ping	リモート IP アドレスに ping を実行するコマンド。
<i>ip-address</i>	PING を実行するシステムの IP アドレス。最大 32 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	PING を実行するシステムのホスト名。最大 32 文字の英数字をサポートします。
df	パケット フラグメンテーションに関する指定。
<i>df</i>	パケット フラグメンテーションを禁止する場合は、値を 1 に指定し、ローカルにパケットをフラグメントする場合は 2 、DF を設定しない場合は 3 に指定します。
packetsize	PING パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	PING パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲で指定します。

EXEC コマンド

<code>pingcount</code>	PING エコー要求の数。
<code>pingcount</code>	PING エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

ping コマンドは、エコー要求パケットをアドレスに送信して、応答を待ちます。PING 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

例

```
ise/admin# ping 172.16.0.1 df 2 packetsize 10 pingcount 2
PING 172.16.0.1 (172.16.0.1) 10(38) bytes of data.
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=0 ttl=40 time=306 ms
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=1 ttl=40 time=300 ms

--- 172.16.0.1 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1001ms
rtt min/avg/max/mdev = 300.302/303.557/306.812/3.255 ms, pipe 2
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ping6</code>	リモート IPv6 アドレスに <code>ping</code> を実行します。

ping6

IPv4 `ping` と同様に、EXEC モードで IPv6 `ping6` コマンドを使用します。

```
ping6 {ip-address | hostname} [GigabitEthernet 0-3][packetsize packetsize] [pingcount pingcount]
```

構文の説明

<code>ping</code>	リモート IPv6 アドレスに <code>ping</code> を実行するコマンド。
<code>ip-address</code>	PING を実行するシステムの IP アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<code>hostname</code>	PING を実行するシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<code>GigabitEthernet</code>	イーサネット インターフェイス。
<code>0-3</code>	イーサネット インターフェイスを選択します。
<code>packetsize</code>	PING パケットのサイズ。
<code>packetsize</code>	PING パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲で指定します。
<code>pingcount</code>	PING エコー要求の数。
<code>pingcount</code>	PING エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲で指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン IPv6 **ping6** コマンドは、アドレスにエコー要求パケットを送信し、応答を待ちます。PING 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

IPv6 **ping6** コマンドは既存の IPv4 **ping** コマンドと類似しています。ping6 コマンドは、IPv4 ping のフラグメンテーション (IPv4 df) オプションをサポートしていませんが、インターフェイスのオプションの指定は行えます。インターフェイス オプションは、主にインターフェイス固有のリンク ローカル アドレスとピン接続に役立ちます。packetize および pingcount オプションは IPv4 コマンドと同様に機能します。

例 1

```
ise/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 56 data bytes
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.599 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.150 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.070 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.065 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3118ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.065/0.221/0.599/0.220 ms, pipe 2

ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 GigabitEthernet 0 packetize 10
pingcount 2
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 10 data bytes
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.073 ms
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.073 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1040ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.073/0.073/0.073/0.000 ms, pipe 2

ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping	リモート IP アドレスに ping を実行します。

reload

Cisco ISE オペレーティング システムをリロードするには、EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

reload

EXEC コマンド

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

reload コマンドはシステムをリロードします。コンフィギュレーション情報をファイルに入力して、CLI で永続的なスタートアップ コンフィギュレーションに実行コンフィギュレーションを保存し、Web 管理ユーザ インターフェイス セッションに設定を保存した後で、**reload** コマンドを使用します。

reload コマンドを入力する前に、Cisco ISE が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行していないことを確認します。Cisco ISE がこれらのいずれかの操作を行っている間に **reload** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with reload?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with reload?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、システムを強制終了するには **Yes** と入力し、強制終了をキャンセルするには **No** と入力します。

reload コマンドの使用時にプロセスが実行されていない場合、または表示される警告メッセージに応じて **Yes** と入力すると、Cisco ISE によって、次のオプションに対する対応を尋ねられます。

```
Do you want to save the current configuration?
```

Yes と入力して、既存の Cisco ISE コンフィギュレーションを保存します。Cisco ISE には、次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

例

```
ise/admin# reload
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Continue with reboot? [y/n] y
```

```
Broadcast message from root (pts/0) (Fri Aug 7 13:26:46 2010):
```

```
The system is going down for reboot NOW!
```

```
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
halt	システムをディセーブルにします。

restore

前回のバックアップを復元するには、EXEC モードで **restore** コマンドを使用します。復元操作は Cisco ISE だけでなく、Cisco ADE OS に関するデータも復元します。Cisco ISE のみのアプリケーションデータの以前のバックアップを復元するには、EXEC モードで **application** コマンドを **restore** コマンドに追加します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco ISE アプリケーションと Cisco ADE OS に関するデータを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore filename repository repository-name encryption-key hash | plain encryption-key name
```

Cisco ISE アプリケーションのみに関するデータを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore filename repository repository-name application application-name encryption-key hash | plain encryption-key name
```

構文の説明

restore	システムを復元するコマンド。
<i>filename</i>	リポジトリに存在するバックアップ ファイルのファイル名。最大 120 文字の英数字をサポートします。 (注) ファイル名の後に、tar.gpg という拡張子を付ける必要があります (myfile.tar.gpg など)。
repository	repository コマンド。
<i>repository-name</i>	バックアップから復元するリポジトリの名前。
application	application コマンド。
<i>application name</i>	復元するアプリケーション データの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
encryption-key	任意。バックアップを復元するユーザ定義の暗号キーを指定します。
hash	バックアップを復元するためのハッシュされた暗号キー。encrypted (ハッシュ対象) 暗号化キーをそれに続けて指定します。最大 40 文字までサポートします。
plain	バックアップを復元するためのプレーン テキストの暗号キー。unencrypted プレーン テキスト暗号キーをそれに続けて指定します。最大 15 文字までサポートします。
<i>encryption-key name</i>	hash plain 形式で暗号キーを指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

Cisco ISE で restore コマンドを使用すると、Cisco ISE サーバが自動的に再起動します。

データの復元処理で、暗号キーはオプションです。暗号キーを指定しなかった以前のバックアップの復元をサポートするために、暗号化キーなしで **restore** コマンドを使用できます。

例

```
ise/admin# restore mybackup-100818-1502.tar.gpg repository myrepository application ise encryption-key plain Lab12345
```

EXEC コマンド

```

Restore may require a restart of application services. Continue? (yes/no) [yes] ? yes
Initiating restore. Please wait...
ISE application restore is in progress.
This process could take several minutes. Please wait...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
ise/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
backup-logs	システム ログをバックアップします。
repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

rmdir

既存のディレクトリを削除するには、EXEC モードで **rmdir** コマンドを使用します。

```
rmdir word
```

構文の説明

rmdir	既存のディレクトリを削除するコマンド。
<i>word</i>	ディレクトリ名。最大 80 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise/admin# mkdir disk:/test
ise/admin# dir
```

```

Directory of disk:/

   4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
   4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
  16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
   4096 May 06 2010 13:42:53 target/
   4096 May 07 2010 12:26:04 test/

Usage for disk: filesystem
      181067776 bytes total used
      19084521472 bytes free
      20314165248 bytes available

ise/admin#

ise/admin# rmdir disk:/test
ise/admin# dir

Directory of disk:/

   4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
   4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
  16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
   4096 May 06 2010 13:42:53 target/

Usage for disk: filesystem
      181063680 bytes total used
      19084525568 bytes free
      20314165248 bytes available

ise/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	Cisco ISE サーバ上のファイルを一覧表示します。
mkdir	新しいディレクトリを作成します。

show

実行システムの情報を表示するには、EXEC モードで **show** コマンドを使用します。**show** コマンドは、Cisco ISE 設定の表示に使用する、最も便利なコマンドの 1 つです。

表 A-3 のコマンドを使用する場合は、たとえば **show application status** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。

すべての Cisco ISE **show** コマンドの詳細については、「[show コマンド](#)」(P.A-59) を参照してください。

show keyword

構文の説明

表 A-3 では、**show** コマンドの要約を示します。

表 A-3 show コマンドの要約

コマンド ¹	説明
application (キーワードが必要) ²	インストールされているアプリケーションに関する情報（ステータス情報やバージョン情報など）を表示します。
backup (キーワードが必要)	バックアップに関する情報を表示します。
cdp (キーワードが必要)	イネーブルな Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示します。
clock	システム時計の曜日、日付、時刻、時間帯、および年を表示します。
cpu	CPU 情報を表示します。
disks	ディスクのファイルシステム情報を表示します。
interface	Cisco ADE OS で設定されたすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。
logging (キーワードが必要)	システムのロギング情報を表示します。
logins (キーワードが必要)	システムのログイン履歴を表示します。
memory	実行中のすべてのプロセスによるメモリ使用量を表示します。
ntp	ネットワーク タイム プロトコル (NTP) のステータスを表示します。
ports	アクティブなポートを受信するすべてのプロセスを表示します。
process	Cisco ISE サーバのアクティブなプロセスに関する情報を表示します。
repository (キーワードが必要)	特定のリポジトリのファイルの内容を表示します。
restore (キーワードが必要)	Cisco ISE サーバの復元履歴を表示します。
running-config	Cisco ISE サーバの現在の実行コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。
startup-config	Cisco ISE サーバのスタートアップ コンフィギュレーションの内容を表示します。
tech-support	問題を報告するときに、TAC に提供可能なシステム情報およびコンフィギュレーション情報を表示します。
terminal	現在の端末回線の端末コンフィギュレーション パラメータの設定に関する情報を表示します。
timezone	Cisco ISE サーバの時間帯を表示します。
timezones	Cisco ISE サーバで使用可能なすべての時間帯を表示します。
udi	Cisco ISE の Unique Device Identifier (UDI) に関する情報を表示します。
uptime	ログインしているシステムが起動してからの稼働時間を表示します。
users	現在ログインしているユーザの情報を表示します。
version	インストールされているアプリケーションのバージョンに関する情報を表示します。

1. この表にあるコマンドを使用する場合は、たとえば **show application** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。
2. 一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。この **show** コマンドは、システムにインストールされているアプリケーションのバージョンを表示します（「[show application](#)」(P.A-60) を参照）。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン すべての **show** コマンドは、機能するために少なくとも 1 つのキーワードが必要です。

例

```
ise/admin# show application
<name>          <Description>
ise             Cisco Identity Services Engine
ise/admin#
```

ssh

リモート システムと暗号化されたセッションを開始するには、EXEC モードで **ssh** コマンドを使用します。



(注) このコマンドは、Admin でも Operator (ユーザ) でも使用できます (表 1-1 を参照)。

ssh [*ip-address* | *hostname*] *username* **port** [*number*] **version** [1 | 2] **delete hostkey word**

構文の説明	
ssh	リモート システムで暗号化されたセッションを起動するためのコマンド。
<i>ip-address</i>	リモート システムの IP アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	リモート システムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>username</i>	SSH を介してログインしているユーザのユーザ名。
port [<i>number</i>]	(任意) リモート ホストの希望するポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。デフォルトは 22 です。
version [1 2]	(任意) バージョン番号を示します。デフォルトは 2 です。
delete hostkey	特定のホストの SSH フィンガープリントを削除します。
<i>word</i>	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。

デフォルト デイセーブル。

コマンド モード EXEC (Admin または Operator)

使用上のガイドライン

ssh コマンドは、システムから別のリモート システムまたはサーバに、安全な暗号化された接続を確立します。この接続は、接続が暗号化される点を除いて **Telnet** のアウトバウンド接続と同様の機能を提供します。**SSH** クライアントは、認証および暗号化により、非セキュアなネットワーク上でセキュアな通信ができます。

例**例 1**

```
ise/admin# ssh isel admin
admin@isel's password:
Last login: Wed Jul 11 05:53:20 2008 from ise.cisco.com

isel/admin#
```

例 2

```
ise/admin# ssh delete host ise
ise/admin#
```

tech

選択したネットワーク インターフェイスでトラフィックをダンプするには、EXEC モードで **tech** コマンドを使用します。

```
tech dumptcp <0-3> count <package count>
```

構文の説明

tech	TAC コマンド
dumptcp	コンソールに TCP パッケージをダンプするコマンド。
0-3	ギガビット イーサネット インターフェイスの番号 (0~3)。
count	最大パッケージ数を指定します。デフォルトは連続的です (制限なし)。
package count	1~10000 をサポートします。

デフォルト

ディセーブル。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

tech dumptcp の出力で **bad udp cksum** の警告が表示された場合は、問題の原因ではない場合があります。 **tech dumptcp** コマンドは、イーサネット マイクロプロセッサを介して終了する前に、発信パケットを調べます。最新のイーサネット チップは発信パケットのチェックサムを計算しますが、オペレーティング システム ソフトウェアのスタックは実行しません。したがって、発信パケットが **bad udp cksum** として宣言されることは異常ではありません。

例

```
ise-201/admin# tech dumptcp 0 count 30
Invoking tcpdump. Press Control-C to interrupt.
tcpdump: listening on eth0, link-type EN10MB (Ethernet), capture size 96 bytes
10:27:32.923319 IP (tos 0x10, ttl 64, id 1377, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 92) 10.77.122.201.22 > 10.77.204.132.3142: P 165
```

```
9025089:1659025141(52) ack 793752673 win 12144
10:27:32.923613 IP (tos 0x10, ttl 64, id 1378, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 156) 10.77.122.201.22 > 10.77.204.132.3142: P 52
:168(116) ack 1 win 12144
10:27:32.940203 IP (tos 0x0, ttl 55, id 12075, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.43876:
 13150 NXDomain* q: AAAA? ise-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[|domain]
10:27:32.952693 IP (tos 0x0, ttl 119, id 52324, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 40) 10.77.204.132.3142 > 10.77.122.201.22: ., ck
sum 0x4ed3 (correct), 1:1(0) ack 168 win 64192
10:27:33.201646 IP (tos 0x0, ttl 64, id 39209, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.50340 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum b8a2!] 49140+ AAAA? ise-201.cisco.com. (35)
10:27:33.226571 IP (tos 0x0, ttl 55, id 26568, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.50340:
 49140 NXDomain* q: AAAA? ise-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[|domain]
10:27:33.415173 IP (tos 0x0, ttl 64, id 39423, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.56578 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum 8854!] 62918+ AAAA? ise-201.cisco.com. (35)
10:27:33.453429 IP (tos 0x0, ttl 55, id 12076, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.56578:
 62918 NXDomain* q: AAAA? ise-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[|domain]
10:27:33.579551 arp who-has 10.77.122.120 tell 10.77.122.250
10:27:33.741303 IP (tos 0x0, ttl 128, id 21433, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 306) 0.0.0.0.68 > 255.255.255.255.67: BOOTP/DHC
P, Request from e4:1f:13:77:13:34, length: 278, xid:0x1377f72b, flags: [Broadcast]
(0x8000)
  Client Ethernet Address: e4:1f:13:77:13:34 [|bootp]
10:27:33.788119 IP (tos 0x0, ttl 64, id 39796, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.43779 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum 2ffc!] 32798+ AAAA? ise-201.cisco.com. (35)
10:27:33.812961 IP (tos 0x0, ttl 55, id 26569, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.43779:
 32798 NXDomain* q: AAAA? ise-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[|domain]
10:27:34.003769 IP (tos 0x0, ttl 64, id 40011, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.23267 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum 2e85!] 18240+ AAAA? ise-201.cisco.com. (35)
10:27:34.038636 IP (tos 0x0, ttl 55, id 26570, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.23267:
 18240 NXDomain* q: AAAA? ise-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[|domain]
10:27:34.579054 arp who-has 10.77.122.120 tell 10.77.122.250
10:27:34.927369 arp who-has 10.77.122.42 tell 10.77.122.40
10:27:35.727151 IP (tos 0x0, ttl 255, id 64860, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 317) 0.0.0.0.68 > 255.255.255.255.67: BOOTP/D
HCP, Request from 3c:df:1e:58:0f:c0, length: 289, xid:0x161504, flags: [Broadcast]
(0x8000)
  Client Ethernet Address: 3c:df:1e:58:0f:c0 [|bootp]
10:27:36.190658 CDPv2, ttl: 180s, checksum: 692 (unverified), length 384
  Device-ID (0x01), length: 12 bytes: 'hyd04-lab-SW'[|cdp]
30 packets captured
30 packets received by filter
0 packets dropped by kernel
ise-201/admin#
```

telnet

Telnetをサポートしているホストにログインするには、Operator (ユーザ) または EXEC モードで **telnet** コマンドを使用します。

```
telnet [ip-address | hostname] port number
```

EXEC コマンド

構文の説明	<code>telnet</code>	Telnet をサポートするホストにログインするコマンド。
	<code>ip-address</code>	リモート システムの IP アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
	<code>hostname</code>	リモート システムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
	<code>port number</code>	(任意) リモート ホストの希望するポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード Operator
EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin# telnet 172.16.0.11 port 23
ise.cisco.com login: admin
password:
Last login: Mon Jul 2 08:45:24 on ttyS0
ise/admin#
```

terminal length

現在のセッションでの現在の端末画面の行数を設定するには、EXEC モードで **terminal length** コマンドを使用します。

terminal length integer

構文の説明	<code>terminal</code>	端末回線のパラメータを設定するコマンド。
	<code>length</code>	現在のセッションの現在の端末画面の行数を設定するコマンド。
	<code>integer</code>	画面の行数。0 ~ 511 行の範囲で指定します。0 を指定すると、出力画面間での一時停止がディセーブルになります。

デフォルト 24 行

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン システムは `length` の値を使用して、複数画面の出力時に一時停止するタイミングを決定します。

例

```
ise/admin# terminal length 0
ise/admin#
```

terminal session-timeout

すべてのセッションに対する無活動タイムアウトを設定するには、EXEC モードで **terminal session-timeout** コマンドを使用します。

terminal session-timeout *minutes*

構文の説明	terminal	端末回線のパラメータを設定するコマンド。
	session-timeout	すべてのセッションから非アクティブ時間を設定するコマンド。
	minutes	無活動タイムアウトの分数を設定します。有効な範囲は、0 ~ 525,600 です。ゼロ (0) を指定するとタイムアウトがディセーブルになります。

デフォルト 30 分

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **terminal session-timeout** コマンドをゼロに設定すると、タイムアウトが設定されません。

例

```
ise/admin# terminal session-timeout 40
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	terminal session-welcome	システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定します。

terminal session-welcome

システムにログインするすべてのユーザに表示されるウェルカム メッセージをシステムに設定するには、EXEC モードで **terminal session-welcome** コマンドを使用します。

terminal session-welcome *string*

構文の説明	terminal	端末回線のパラメータを設定するコマンド。
	session-welcome	システムにログインするすべてのユーザに表示されるウェルカムメッセージをシステムに設定するコマンド。
	string	初期メッセージ。最大 2,048 文字の英数字をサポートします。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

EXEC コマンド

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン 2,048 文字未満のメッセージを指定します。

例

```
ise/admin# terminal session-welcome Welcome
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	terminal session-timeout	すべてのセッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。

terminal terminal-type

現在のセッションの現在の回線に接続される端末のタイプを指定するには、EXEC モードで **terminal terminal-type** コマンドを使用します。

terminal terminal-type *type*

構文の説明	terminal	terminal-type	type
	端末回線のパラメータを設定するコマンド。	接続されている端末のタイプを指定するコマンド。デフォルトの端末タイプは VT100 です。	端末の名前とタイプを定義し、そのサービスのタイプを提供するホストによる端末ネゴシエーションを許可します。最大 80 文字の英数字をサポートします。

デフォルト VT100

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン デフォルトの VT100 と異なる場合、端末タイプを示します。

例

```
ise/admin# terminal terminal-type vt220
ise/admin#
```

traceroute

パケットが宛先のアドレスに送信されるときに実際に通るルートを検出するには、EXEC モードで **traceroute** コマンドを使用します。

traceroute [*ip-address* | *hostname*]

構文の説明	traceroute	宛先アドレスへのパケットのルートを検出するコマンド。
	ip-address	リモートシステムの IP アドレス。最大 32 文字の英数字をサポートします。
	hostname	リモートシステムのホスト名。最大 32 文字の英数字をサポートします。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin# traceroute 172.16.0.11
traceroute to 172.16.0.11 (172.16.0.11), 30 hops max, 38 byte packets
 1 172.16.0.11 0.067 ms 0.036 ms 0.032 ms

ise/admin#
```

undebug

デバッグ機能をディセーブルにするには、EXEC モードで **undebug** コマンドを使用します。

undebug {all | application | backup-restore | cdp | config | copy | icmp | locks | logging | snmp | system | transfer | user | utils}

構文の説明	undebug	Cisco ISE サーバのさまざまな障害の識別をディセーブルにするコマンド。
	all	すべてのデバッグをディセーブルにします。
	application	アプリケーション ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i> : すべてのデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>install</i> : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>operation</i> : アプリケーション操作のデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>uninstall</i> : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。

backup-restore	<p>ファイルをバックアップおよび復元します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup</i> : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup-logs</i> : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>history</i> : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>restore</i> : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をディセーブルにします。
cdp	<p>Cisco Discovery Protocol (CDP) コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>config</i> : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>infra</i> : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。
config	<p>設定ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup</i> : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>clock</i> : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>infra</i> : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>kron</i> : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>network</i> : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>repository</i> : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>service</i> : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。
copy	コピー コマンド。
icmp	<p>ICMP エコー応答のコンフィギュレーション。</p> <p><i>all</i> : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。</p>
locks	<p>リソース ロッキング。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>file</i> : ファイル ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。

logging	ロギング コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : ロギング コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。
snmp	SNMP コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : SNMP コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。
system	システム ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i> : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>id</i> : システム ID のデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>info</i> : システム情報のデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>init</i> : システムの初期化のデバッグ出力をディセーブルにします。
transfer	ファイル転送。
user	ユーザ管理。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>password-policy</i> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。
utils	ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin# undebug all
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug	コマンド状況のエラーまたはイベントを表示します。

write

Cisco ISE サーバ コンフィギュレーションをコピー、表示、または消去するには、適切な引数を指定して EXEC モードで **write** コマンドを使用します。

```
write {erase | memory | terminal}
```

EXEC コマンド

構文の説明

write	実行中のシステムの情報を書き込むコマンド。
erase	スタートアップ コンフィギュレーションを消去します。このオプションは、Cisco ISE ではディセーブルです。
memory	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
terminal	実行コンフィギュレーションをコンソールにコピーします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

erase オプションとこの write コマンドを共に使用することは、Cisco ISE でディセーブルになっています。

erase オプションと write コマンドを共に使用すると、Cisco ISE は次のエラー メッセージを表示します。

```
% Warning: 'write erase' functionality has been disabled by application: ise
```

例

例 1

```
ise/admin# write memory
Generating configuration...
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# write terminal

Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 10.201.2.121 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
interface GigabitEthernet 1
 shutdown
!
interface GigabitEthernet 2
 shutdown
!
interface GigabitEthernet 3
 shutdown
!
ip name-server 171.68.226.120
!
ip default-gateway 10.201.2.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server clock.cisco.com
```

```

!
username admin password hash $1$6yQQaFXM$UBgpb7ggD1bG3kpExywwZ0 role admin
!
service sshd
!
repository myrepository
  url disk:
  user admin password hash 2b50ca94445f240f491e077b5f49fa0375942f38
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!

ise/admin#

```

show コマンド

ここでは、各 **show** コマンドが表示され、使用、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および出力例の簡単な説明が含まれています。

表 A-4 に、この付録で説明する EXEC モードの Show コマンドの一覧を示します。

表 A-4 EXEC Show コマンドの一覧

• show application	• show logins	• show tech-support
• show backup history	• show memory	• show terminal
• show cdp	• show ntp	• show timezone
• show clock	• show pep	• show timezones
• show cpu	• show ports	• show udi
• show disks	• show process	• show uptime
• show icmp-status	• show repository	• show users
• show interface	• show restore	• show version
• show inventory	• show running-config	
• show logging	• show startup-config	

show application

システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示するには、EXEC モードで **show application** コマンドを使用します。

show application [status | version [app_name]]

構文の説明

show application	Cisco ISE アプリケーション情報を表示するコマンド。
status	インストールされているアプリケーションのステータスを表示します。
version	インストールされているアプリケーション (Cisco ISE) のアプリケーションバージョンが表示されます。
app_name	インストールされているアプリケーションの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数 (表 A-5 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数 (表 A-5 を参照)。

表 A-5 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1

```
ise/admin# show application
<name>          <Description>
ise              Cisco Identity Services Engine
RootPatch       Cisco ADE Root Patch
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show application version ise

Cisco Identity Services Engine
-----
Version          : 1.0.2.051
Build Date       : Mon Aug 2 00:34:25 2010
Install Date    : Thu Aug 5 17:48:49 2010

ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin# show application status ise

ISE Database listener is running, PID: 21096
ISE Database is running, number of processes: 27
ISE Application Server is running, PID: 21432
ISE M&T Session Database is running, PID: 21365
ISE M&T Log Collector is running, PID: 21468
ISE M&T Log Processor is running, PID: 21494
ISE M&T Alert Process is running, PID: 21524
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application configure	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーション バンドルをインストールします。
application reset-config	アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
application reset-passwd	指定したユーザのアプリケーション パスワードをリセットします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーション バンドルをアップグレードします。

show backup history

システムのバックアップ履歴を表示するには、EXEC モードで **show backup history** コマンドを使用します。

show backup history

構文の説明	show backup	Cisco ISE バックアップ情報を表示するコマンド。
	history	システム上のすべてのバックアップに関する履歴情報を表示します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

例 1

```
ise/admin# show backup history
Wed Aug 18 12:55:21 UTC 2010: backup logs logs-0718.tar.gz to repository fileserver007:
success
Wed Aug 18 12:55:53 UTC 2010: backup full-0718.tar.gpg to repository fileserver007:
success
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show backup history
backup history is empty
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	backup	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
	repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
	show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップファイルを表示します。

show cdp

イネーブルになっている Cisco Discovery Protocol インターフェイスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show cdp** コマンドを使用します。

show cdp {all | neighbors}

構文の説明	show cdp	Cisco Discovery Protocol の show コマンドを表示するコマンド。
	all	イネーブルになっているすべての Cisco Discovery Protocol インターフェイスを表示します。
	neighbors	Cisco Discovery Protocol ネイバーを示します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

例 1

```
ise/admin# show cdp all
CDP protocol is enabled...
    broadcasting interval is every 60 seconds.
    time-to-live of cdp packets is 180 seconds.

    CDP is enabled on port GigabitEthernet0.
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show cdp neighbors
CDP Neighbor: 000c297840e5
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type    : ISE-1141VM-K9
    Port           : eth0
    Address        : 172.23.90.114

CDP Neighbor: isexp-esw5
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type    : cisco WS-C3560E-24TD
    Port           : GigabitEthernet0/5
    Address        : 172.23.90.45

CDP Neighbor: 000c29e29926
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type    : ISE-1141VM-K9
    Port           : eth0
    Address        : 172.23.90.115

CDP Neighbor: 000c290fba98
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type    : ISE-1141VM-K9
    Port           : eth0
    Address        : 172.23.90.111

ise/admin#
```

show コマンド

関連コマンド

コマンド	説明
cdp holdtime	受信デバイスがルータから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定します。
cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
cdp timer	Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。

show clock

システム ソフトウェアの時計の曜日、月、日付、時間、時間帯、および年を表示するには、EXEC モードで **show clock** コマンドを使用します。

show clock

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise/admin# show clock
Fri Aug 6 10:46:39 UTC 2010
ise/admin#
```



(注) 上の例の **show clock** の出力には、協定世界時 (UTC) またはグリニッジ標準時 (GMT)、英国時間、ズールー時間が含まれています (サンプルの時間帯については、A-84 および A-85 ページの A-14、A-15、A-16 の各表を参照)。

関連コマンド

コマンド	説明
clock	表示用のシステム時計を設定します。

show cpu

CPU 情報を表示するには、EXEC モードで **show cpu** コマンドを使用します。

show cpu [statistics] [] []

構文の説明

show cpu	CPU 情報を表示するコマンド。
statistics	CPU 統計情報を表示します。

show コマンド

	<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数 (表 A-6 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数 (表 A-6 を参照)。
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

表 A-6 Count または Last の出力修飾子変数

	<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1
ise/admin# `show cpu`

```
processor: 0
model : Intel(R) Xeon(R) CPU           E5320 @ 1.86GHz
speed(MHz): 1861.914
cache size: 4096 KB
```

```
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show cpu statistics
user time:          265175
kernel time:       166835
idle time:         5356204
i/o wait time:     162676
irq time:          4055

ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show disks	すべてのディスクのシステム情報を表示します。
show memory	使用されているシステム メモリの量をシステム プロセス別に表示します。

show disks

ディスクのファイルシステム情報を表示するには、EXEC モードで **show disks** コマンドを使用します。

```
show disks [] []
```

構文の説明

show disks	ディスクおよびファイルシステム情報を表示するコマンド
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数 (表 A-7 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数 (表 A-7 を参照)。

表 A-7 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **show disks** コマンドは、ディスク ファイル システムを備えたプラットフォームでのみサポートされません。

例

```
ise/admin# show disks

temp. space 2% used (17828 of 988116)
disk: 3% used (143280 of 5944440)

Internal filesystems:
  all internal filesystems have sufficient free space

ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cpu	CPU 情報を表示します。
	show memory	使用されているシステム メモリの量をシステム プロセス別に表示します。

show icmp-status

インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、EXEC モードで **show icmp_status** コマンドを使用します。

```
show icmp_status {> file |}
```

構文の説明		
	show icmp_status	Internet Control Message Protocol Echo 応答の設定情報を表示するコマンド。
	>	出力の方向。
	file	標準出力 (stdout) をリダイレクトするファイルの名前。
		出力修飾子コマンド <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> – : 出力修飾子コマンド (表 A-8 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 <ul style="list-style-type: none"> – : 出力修飾子コマンド (表 A-8 を参照)。

表 A-8 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 <ul style="list-style-type: none"> : 出力修飾子変数。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

show コマンド

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例**例 1**

```
ise/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned on
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned off
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
icmp echo	インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー要求を設定します。

show interface

IP に設定されているインターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示するには EXEC モードで **show interface** コマンドを使用します。

```
show interface [GigabitEthernet] |
```

構文の説明

show interface	インターフェイス情報を表示するコマンド。
GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイス <0-3> を入力します。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 count : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 last : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **show interface GigabitEthernet 0** 出力では、3つのIPv6アドレスを持つインターフェイスを検索できます。最初のインターネットアドレス（3ffe以降）は、ステータス自動設定を使用した結果です。有効にするには、そのサブネットでIPv6ルートアドバタイズメントがイネーブルになっている必要があります。次のアドレス（fe80以降）は、ホストの外部にスコープが存在しないリンクローカルアドレスです。IPv6自動設定またはDHCPv6設定に関係なくリンクローカルアドレスが常に表示されます。最後のアドレス（2001以降）は、IPv6DHCPサーバから取得した結果です。

例 1

```
ise/admin# show interface
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:6A:88:C4
          inet addr:172.23.90.113  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:fe6a:88c4/64 Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:48536 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:14152 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:6507290 (6.2 MiB)  TX bytes:12443568 (11.8 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

lo        Link encap:Local Loopback
          inet addr:127.0.0.1  Mask:255.0.0.0
          inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
          UP LOOPBACK RUNNING  MTU:16436  Metric:1
          RX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:649425800 (619.3 MiB)  TX bytes:649425800 (619.3 MiB)

sit0      Link encap:IPv6-in-IPv4
          NOARP  MTU:1480  Metric:1
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:0 (0.0 b)  TX bytes:0 (0.0 b)

ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB)  TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

ise/admin#
```

show コマンド

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイス タイプを設定して、インターフェイス コンフィギュレーション サブモードに入ります。
ipv6 address autoconfig	インターフェイスで IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにします。
ipv6 address dhcp	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。

show inventory

ISE アプライアンス モデルやシリアル番号など、ハードウェア インベントリに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show inventory** コマンドを使用します。

```
show inventory |
```

構文の説明

show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示するコマンド。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise/admin# show inventory

NAME: "ISE-VM-K9      chassis", DESCR: "ISE-VM-K9      chassis"
PID: ISE-VM-K9      , VID: V01 , SN: H8JESGOFHGG
Total RAM Memory: 1035164 kB
CPU Core Count: 1
CPU 0: Model Info: Intel(R) Xeon(R) CPU           E5320  @ 1.86GHz
Hard Disk Count(*): 1
Disk 0: Device Name: /dev/sda
Disk 0: Capacity: 64.40 GB
```

```
Disk 0: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 7832 cylinders
NIC Count: 1
NIC 0: Device Name: eth0
NIC 0: HW Address: 00:0C:29:6A:88:C4
NIC 0: Driver Descr: eth0: registered as PCnet/PCI II 79C970A
```

(*) Hard Disk Count may be Logical.

```
ise/admin#
```

show logging

システム ロギング (syslog) の状態および標準のシステム ロギング バッファの内容を表示するには、EXEC モードで **show logging** コマンドを使用します。

```
show logging {application [application-name]} {internal} {system} |
```

構文の説明

show logging	システム ログ情報を表示するコマンド。
application	アプリケーション ログを表示します。 <i>application-name</i> : アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。 <ul style="list-style-type: none"> - <i>tail</i> : Tail システムの syslog メッセージ。 - <i>count</i> : Tail の最終カウント メッセージ数。0 ~ 4,294,967,295 の範囲で指定します。 : 出力修飾子変数 (下記を参照)。
internal	syslog のコンフィギュレーションを表示します。
system	システムの syslog を表示します。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

このコマンドは、syslog エラーおよびイベント ログの状態を表示します。この状態には、ホストアドレス、ログがイネーブルになっているログの宛先（コンソール、モニタ、バッファ、またはホスト）が含まれます。

例

例 1

```
ise/admin# show logging system
ADEOS Platform log:
-----
```

```
Aug 5 10:44:32 localhost debugd[1943]: [16618]: config:network: main.c[252] [setup]: Setup
is complete
Aug 5 10:45:02 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[242]
[setup]: Install initiated with bundle - ise.tar.gz,
repo - SystemDefaultPkgRepos
Aug 5 10:45:02 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[256]
[setup]: Stage area - /storeddata/Installing/.1281030
302
Aug 5 10:45:02 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[260]
[setup]: Getting bundle to local machine
Aug 5 10:45:03 localhost debugd[1943]: [17291]: transfer: cars_xfer.c[58] [setup]: local
copy in of ise.tar.gz requested
Aug 5 10:45:46 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[269]
[setup]: Got bundle at - /storeddata/Installing/.1281
030302/ise.tar.gz
Aug 5 10:45:46 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[279]
[setup]: Unbundling package ise.tar.gz
Aug 5 10:47:06 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[291]
[setup]: Unbundling done. Verifying input parameters.
..
Aug 5 10:47:06 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[313]
[setup]: Manifest file is at - /storeddata/Installing
/.1281030302/manifest.xml
Aug 5 10:47:07 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[323]
[setup]: Manifest file appname - ise
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[386]
[setup]: Manifest file pkgtype - CARS
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[398]
[setup]: Verify dependency list -
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[410]
[setup]: Verify app license -
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[420]
[setup]: Verify app RPM's
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[428]
[setup]: No of RPM's - 9
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[439]
[setup]: Disk - 50
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[325]
[setup]: Disk requested = 51200 KB
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[345]
[setup]: More disk found Free = 40550400, req_disk = 51200
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[450]
[setup]: Mem requested by app - 100
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[369]
[setup]: Mem requested = 102400
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[384]
[setup]: Found MemFree = MemFree:          13028 kB
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[390]
[setup]: Found MemFree value = 13028
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[393]
[setup]: Found Inactive = Inactive:        948148 kB
```

```

Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[399]
[setup]: Found Inactive MemFree value = 948148
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[409]
[setup]: Sufficient mem found
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[415]
[setup]: Done checking memory...
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[461]
[setup]: Verifying RPM's...
--More--
(press Spacebar to continue)

ise/admin#

```

例 2

```
ise/admin# show logging internal
```

```

log server:          localhost
Global loglevel:    6
Status:             Enabled
ise/admin#

```

例 3

```
ise/admin# show logging internal
```

```

log server:          localhost
Global loglevel:    6
Status:             Disabled
ise/admin#

```

show logins

システム ログインの状態を表示するには、EXEC モードで **show logins** コマンドを使用します。

show logins cli**構文の説明**

show logins	システム ログイン履歴を表示するコマンド。
cli	cli ログイン履歴を一覧表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

cli キーワードを指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

例

```

ise/admin# show logins cli
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 09:45 still logged in
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 08:56 - 09:30 (00:33)
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 07:17 - 08:43 (01:26)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:17 (17:49)
admin tty1 Thu Aug 5 18:15 - down (00:00)

```

show コマンド

```

reboot    system boot  2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:09      (00:06)
setup     tty1           Thu Aug 5 17:43 - 18:07 (00:24)
reboot    system boot  2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 16:05      (02:02)

wtmp begins Thu Aug 5 16:05:36 2010

ise/admin#

```

show memory

すべての実行プロセスのメモリ使用量を表示するには、EXEC モードで **show memory** コマンドを使用します。

show memory

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```

ise/admin# show memory
total memory: 1035164 kB
free memory: 27128 kB
cached: 358888 kB
swap-cached: 142164 kB

ise/admin#

```

show ntp

NTP 関連付けのステータスを表示するには、EXEC モードで **show ntp** コマンドを使用します。

show ntp

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

例 : 1

```
ise/admin# show ntp
Primary NTP   : ntp.esl.cisco.com
Secondary NTP : 171.68.10.150
Tertiary NTP  : 171.68.10.80

synchronised to local net at stratum 11
  time correct to within 11 ms
  polling server every 128 s

      remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
*127.127.1.0        .LOCL.          10 l   9   64 377   0.000   0.000   0.001
 171.68.10.80       .RMOT.          16 u  11   64   0   0.000   0.000   0.000
 171.68.10.150      .INIT.          16 u  11   64   0   0.000   0.000   0.000
Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
ise/admin#
```

例 : 2

```
ise/admin# show ntp
% no NTP servers configured
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	最大 3 台の NTP サーバに、NTP コンフィギュレーションを設定できます。
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアの時計を同期化します。

show pep

Inline Posture ノードの情報を表示するには、EXEC モードで **show pep** のコマンドを使用します。

```
show pep [certificate {certauthority} {server}] [deploymentmode] [log] [Loglevel] [status]
[summary] [table {accesslist(normal | raw)} {arp} {ipfilters} {macfilters}
{managedsubnets} {radius} {route} {session} {vlan}]
```

構文の説明

show pep	Inline Posture ノード情報を表示するコマンド。
certificate	証明書ストレージデバイスを表示します。
certauthority	信頼ストアで Inline Posture ノードの CA 証明書をリスト表示します。
server	独自のサーバ証明書で Inline Posture ノードを表示します。
deploymentmode	Inline Posture ノードの構成モードを表示します。
log	Inline Posture ノードのログ ファイルを表示します。
logLevel	Inline Posture ノードのログ レベルを表示します。
status	Inline Posture ノードのステータスを表示します。
highavailability	Inline Posture ノードのハイ アベイラビリティ ステータスを表示します。
summary	Inline Posture ノードの要約を表示します。

show コマンド

table	Inline Posture ノードのテーブルを表示します。
accesslist	Inline Posture ノードのダウンロード可能アクセス コントロール リスト (dACLs) を表示します。
normal	正常な形式の Inline Posture ノードのダウンロード可能 ACL を表示します。
raw	未加工形式で Inline Posture ノードのダウンロード可能 ACL を表示します。
arp	Inline Posture ノードの ARP テーブルを表示します。
ipfilters	Inline Posture ノード IP のフィルタを表示します。
macfilters	Inline Posture ノード MAC のフィルタを表示します。
managedsubnets	Inline Posture ノードの管理対象サブネットを表示します。
radius	Inline Posture ノードの RADIUS 設定を表示します。
route	Inline Posture ノードのルーティング テーブルを表示します。
session	Inline Posture ノード セッション テーブルが表示されます。
vlan	Inline Posture ノードの VLAN を表示します。
>	出力の方向。
file	標準出力 (stdout) をリダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数 (表 A-9 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数 (表 A-9 を参照)。

表 A-9 Count または Last の出力修飾子変数

	<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1

```
ise/admin# show pep certificate certauthority
Certificate Nickname                               Trust Attributes
cise.cisco.com.pem                                SSL,S/MIME,JAR/XPI
ca-2                                               CT,C,C
www.cisco.com.pem                                 CT,C,C
www.perfigo.com.pem                               CT,C,C
tomcat                                             u,u,u
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show pep certificate server
Certificate:
  Data:
    Version: 3 (0x2)
    Serial Number:
      00:8f:fd:cf:8f:fd:b7:55:c7
    Signature Algorithm: PKCS #1 SHA-1 With RSA Encryption
    Issuer: "E=192.30.30.71@email.com,CN=192.30.30.71,OU=snsbu,O=cisco,L=
      san jose,ST=ca,C=us"
    Validity:
      Not Before: Thu Jan 19 01:35:53 2012
      Not After : Fri Jan 18 01:35:53 2013
```

```

Subject: "E=192.30.30.71@email.com,CN=192.30.30.71,OU=snsbu,O=cisco,L
=san jose,ST=ca,C=us"
Subject Public Key Info:
  Public Key Algorithm: PKCS #1 RSA Encryption
  RSA Public Key:
    Modulus:
      dd:f1:79:b6:2b:2f:66:92:e9:0d:9a:06:1e:53:a4:19:
      38:e0:08:4d:28:83:24:a6:98:99:39:cb:28:d8:9c:e1:
      30:7c:90:a6:ac:e0:e6:d2:75:78:5b:a0:10:a0:fb:dd:
      68:73:04:1d:a6:9e:31:5c:25:d4:bf:b1:8e:8c:a0:79:
      b4:1e:8e:67:07:8d:5d:2a:e7:72:4d:08:88:93:6c:a9:
      35:4f:df:97:6c:8e:f2:2c:d5:a1:84:b5:5b:ca:00:ed:
      1d:cd:09:8a:18:14:b9:21:df:f6:15:1a:05:77:ea:fc:
      20:b8:c3:c1:ca:bc:a8:33:b3:2c:55:70:41:28:3d:6d
    Exponent: 65537 (0x10001)
Signed Extensions:
  Name: Certificate Subject Key ID
  Data:
    50:75:2b:4c:72:54:0c:03:ee:ed:e7:e0:44:f0:71:28:
    10:ab:3f:ef

  Name: Certificate Authority Key Identifier
  Key ID:
    50:75:2b:4c:72:54:0c:03:ee:ed:e7:e0:44:f0:71:28:
    10:ab:3f:ef
  Issuer:
    Directory Name: "E=192.30.30.71@email.com,CN=192.30.30.71,OU=
    snsbu,O=cisco,L=san jose,ST=ca,C=us"
  Serial Number:
    00:8f:fd:cf:8f:fd:b7:55:c7

  Name: Certificate Basic Constraints
  Data: Is a CA with no maximum path length.

Signature Algorithm: PKCS #1 SHA-1 With RSA Encryption
Signature:
  2a:c9:c1:50:fb:2a:9a:ff:65:42:1a:bb:9e:f1:6b:6f:
  92:e4:bb:1f:64:4c:1c:f8:e9:75:3c:de:1e:9b:0a:df:
  76:96:d2:33:9b:06:cd:88:9b:f7:f3:e7:06:e5:cc:94:
  21:8e:70:9f:b1:5a:cf:19:35:2d:a0:9b:a7:ba:bc:ee:
  c0:34:4d:ee:f7:2f:4e:96:d3:39:c9:0d:48:26:ed:1a:
  63:51:fa:31:1a:c4:12:76:46:2d:57:28:8e:72:ff:e7:
  c2:7c:85:87:5d:c6:68:e4:d0:e9:b6:ad:e0:d1:0d:a2:
  23:88:9a:73:39:59:20:ce:7c:fb:61:8d:96:e2:bd:87
Fingerprint (MD5):
  05:19:7D:45:3F:A7:42:9A:69:B5:F0:5A:A6:60:39:6C
Fingerprint (SHA1):
  A0:91:6E:57:81:BA:29:AF:55:DE:58:64:A2:BD:6A:00:2A:56:33:D5

Certificate Trust Flags:
  SSL Flags:
    User
  Email Flags:
    User
  Object Signing Flags:
    User

ise/admin#

```

例 3

```

ise/admin# show pep deploymentmode
Bridge

```

```
ise/admin#
```

例 4

```
ise/admin# show pep log
```

```
IPEP Logs:
Fri Oct 8 13:24:50 UTC 2010
ipep setloglevel 0
Mon Oct 11 12:40:00 UTC 2010
ipep setloglevel 0
Mon Oct 11 12:41:24 UTC 2010
ipep switch-into-ipep
Mon Oct 11 12:44:20 UTC 2010
ipep start

=====
ipep runtime start: Mon Oct 11 12:44:33 UTC 2010
Flushing firewall rules: [ OK ]
Setting chains to policy ACCEPT: filter [ OK ]
Unloading iptables modules: [ OK ]
12:44:39 main INFO Controller - Starting services...
12:44:39 main INFO Controller - Starting System Service...
=====
Mon Oct 11 12:44:40 UTC 2010
ipepconfig ha-config standalone
=====
Mon Oct 11 12:44:40 UTC 2010
ipep sysrestart
12:44:56 main INFO Controller - System Service started
12:44:56 main INFO Controller - Starting Radius Service...
rpm: /opt/CSCOcpm/prrt/lib/libnss3.so: version `NSS_3.10' not found (required by
/usr/lib/librpmio-4.4.so)
Adding URL: file:/opt/CSCOcpm/prrt/lib/rtpolicy.jar
Adding URL: file:/opt/CSCOcpm/prrt/lib/prrt-flowapi.jar
Adding URL: file:/opt/CSCOcpm/prrt/lib/rteventhandlers.jar
Adding URL: file:/opt/CSCOcpm/prrt/lib/rtidstores.jar
Adding URL: file:/opt/CSCOcpm/prrt/lib/prrt-interface.jar
Adding URL: file:/opt/CSCOcpm/prrt/lib/
Loading com.cisco.cpm.prrt.policy.PolicyEngine
IllegalAccessException: The class 'com.cisco.cpm.prrt.policy.PolicyEngine' wasn't loaded
by the EventHandlerClassLoader but by sun.misc.Launc
--More--
ise/admin#
```

例 5

```
ise/admin# show pep loglevel
INFO
ise/admin#
```

例 6

```
ise/admin# show pep status
Inline PEP click kernel module is loaded.
Inline PEP runtime java application is running,PID=3208.
ise/admin#
```

例 7

```
ise/admin# show pep status highavailability
HA Status:
System configured for standalone operation.
ise/admin#
```

例 8:

```
ise/admin# show pep table accesslist ?
  normal  Display PEP Downloadable ACL (dACLs) in normal format
  raw     Display PEP Downloadable ACL (dACLs) in raw format
```

```
ise/admin# show pep table accesslist normal
#ACSACL#-IP-PERMIT_ALL_TRAFFIC-4f0d890d:
permit ip any any

#ACSACL#-IP-PRE-POSTURE-iPEP-4f0f75e5:
deny tcp any any eq 80
deny tcp any any eq 443
permit ip any host 10.35.48.241
permit ip any host 10.35.48.242
permit udp any any eq 53
```

```
ise/admin#
```

例 9

```
ise/admin# show pep table accesslist raw
Current Downloaded ACLs
```

```
3
0
0 all
1
0 tcp and (dst port 80)
0 tcp and (dst port 443)
1 (dst host 10.35.48.241)
1 (dst host 10.35.48.242)
1 udp and (dst port 53)
0 all
2
1 all
0 all
```

```
ACLs in Queue
```

```
3
0
empty
1
empty
2
empty
```

```
ise/admin#
```

例 9

```
ise/admin# show pep table arp
```

```
Untrusted Side ARP Table:
```

ip	ok	mac	vtag	vtci	login	svtag
svtci	subnet	mask	idle(secs)			
10.203.108.37	1	00:25:9C:A3:7D:4F	1	32	1	0
0	0.0.0.0	0.0.0.0	0			

```
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
pep	Inline Posture の設定。

show ports

アクティブなポートを受信するすべてのプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show ports** コマンドを使用します。

show ports [] []

構文の説明

show ports	Cisco ISE のオープン ポートで受信するすべてのプロセスを表示するコマンド。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数 (表 A-10 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数 (表 A-10 を参照)。

表 A-10 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

show ports コマンドを実行する場合、ポートがアクティブなセッションに関連付けられている必要があります。

例

```

ise/admin# show ports
Process : timestensubd (21372)
      tcp: 127.0.0.1:11298
Process : timestenorad (21609)
      tcp: 127.0.0.1:51715
      udp: ::1:28314, ::1:59055, ::1:45113, ::1:49082, ::1:64737, ::1:62570, ::1:19577,
::1:29821
Process : ttcserver (21382)
      tcp: 127.0.0.1:16612, 0.0.0.0:53385
Process : timestenrepd (21579)
      tcp: 127.0.0.1:62504, 0.0.0.0:18047
      udp: ::1:51436
Process : timestend (21365)
      tcp: 0.0.0.0:53384
Process : rpc.statd (2387)
      tcp: 0.0.0.0:873
      udp: 0.0.0.0:867, 0.0.0.0:870
Process : timestensubd (21373)
      tcp: 127.0.0.1:43407
Process : portmap (2350)
      tcp: 0.0.0.0:111
      udp: 0.0.0.0:111
Process : Decap_main (21468)
      tcp: 0.0.0.0:2000
      udp: 0.0.0.0:9993
Process : timestensubd (21369)
      tcp: 127.0.0.1:37648
Process : timestensubd (21374)
      tcp: 127.0.0.1:64211
Process : sshd (2734)
      tcp: 172.23.90.113:22
Process : java (21432)
      tcp: 127.0.0.1:8888, :::2080, :::2020, ::ffff:127.0.0.1:8005, :::8009, :::8905,
:::8010, :::2090, :::1099, :::9999, :::61616, :::8080, ::
:80, :::60628, :::8443, :::443
      udp: 0.0.0.0:1812, 0.0.0.0:1813, 0.0.0.0:1700, 0.0.0.0:10414, 0.0.0.0:3799,
0.0.0.0:1645, 0.0.0.0:1646, :::8905, :::8906
Process : monit (21531)
      tcp: 127.0.0.1:2812
Process : java (21524)
      tcp: :::62627
Process : java (21494)
      tcp: ::ffff:127.0.0.1:20515
      udp: 0.0.0.0:20514
Process : tnslnsr (21096)
      tcp: :::1521
Process : ora_d000_ise1 (21222)
      tcp: :::26456
      udp: ::1:63198
Process : ntpd (2715)
      udp: 172.23.90.113:123, 127.0.0.1:123, 0.0.0.0:123, ::1:123, fe80::20c:29ff:fe6a:123,
:::123
Process : ora_pmon_ise1 (21190)
      udp: ::1:51994
Process : ora_mmon_ise1 (21218)
      udp: :::38941
Process : ora_s000_ise1 (21224)
      udp: ::1:49864
ise/admin#

```

show process

アクティブなプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show process** コマンドを使用します。

show process |

構文の説明

show process	システム プロセスを表示するコマンド。
	(任意) 出力修飾子変数 : <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

フィールドの説明は、[表 A-11](#) を参照してください。

```
ise/admin# show process
USER      PID      TIME TT      COMMAND
root      1 00:00:02 ?      init
root      2 00:00:00 ?      migration/0
root      3 00:00:00 ?      ksoftirqd/0
root      4 00:00:00 ?      watchdog/0
root      5 00:00:00 ?      events/0
root      6 00:00:00 ?      khelper
root      7 00:00:00 ?      kthread
root      10 00:00:01 ?      kblockd/0
root      11 00:00:00 ?      kacpid
root      170 00:00:00 ?      cqueue/0
root      173 00:00:00 ?      khubd
```

show コマンド

```

root      175 00:00:00 ?      kseriod
root      239 00:00:32 ?      kswapd0
root      240 00:00:00 ?      aio/0
root      458 00:00:00 ?      kpsmoused
root      488 00:00:00 ?      mpt_poll_0
root      489 00:00:00 ?      scsi_ah_0
root      492 00:00:00 ?      ata/0
root      493 00:00:00 ?      ata_aux
root      500 00:00:00 ?      kstriped
root      509 00:00:07 ?      kjournald
root      536 00:00:00 ?      kauditd
root      569 00:00:00 ?      udevd
root      1663 00:00:00 ?      kmpathd/0
root      1664 00:00:00 ?      kmpath_handlerd
root      1691 00:00:00 ?      kjournald
root      1693 00:00:00 ?      kjournald
root      1695 00:00:00 ?      kjournald
root      1697 00:00:00 ?      kjournald
root      2284 00:00:00 ?      auditd
root      2286 00:00:00 ?      audispd
root      2318 00:00:10 ?      debugd
rpc       2350 00:00:00 ?      portmap
root      2381 00:00:00 ?      rpciod/0
--More--
ise/admin#

```

表 A-11 show process のフィールドの説明

フィールド	説明
USER	ログインしたユーザ
PID	Process ID
TIME	コマンドが最後に使用された時刻
TT	プロセスを制御する端末
COMMAND	使用されたプロセスまたはコマンドのタイプ

show repository

リポジトリのファイルの内容を表示するには、EXEC モードで **show repository** コマンドを使用します。

show repository repository-name

構文の説明

show repository	リポジトリの内容を表示するコマンド。
repository-name	内容を表示するリポジトリの名前。最大 30 文字の英数字をサポートします。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin# show repository myrepository
back1.tar.gpg
back2.tar.gpg
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	backup	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
	repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
	show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

show restore

復元履歴を表示するには、EXEC モードで **show restore** コマンドを使用します。

show restore {history}

構文の説明	show restore	history
	復元情報を表示するコマンド。	復元履歴を表示します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1

```
ise/admin# show restore history
ise/admin#
```

show コマンド

例 2

```
ise/admin# show restore history
restore history is empty
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

show running-config

現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

show running-config

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

show running-configuration コマンドは、すべてのコンフィギュレーション情報を表示します。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise/admin# show running-config
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
```

```

!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!

ise/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
configure	コンフィギュレーション モードに入ります。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show startup-config** コマンドを使用します。

show startup-config

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

show startup-config コマンドは、すべてのスタートアップ コンフィギュレーション情報を表示します。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```

ise/admin# show startup-config
!
hostname ise

```

show コマンド

```

!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
ise/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
configure	コンフィギュレーション モードに入ります。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

show tech-support

電子メールなどのテクニカル サポート情報を表示するには、EXEC モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

show tech-support file [*word*]

構文の説明

show tech-support	テクニカル サポート情報を表示するコマンド。
file	テクニカル サポート データをファイルとしてローカル ディスクに保存します。
<i>word</i>	保存するファイル名。最大 80 文字の英数字をサポートします。

デフォルト パスワードやその他のセキュリティ情報は、出力には表示されません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **show tech-support** コマンドは、トラブルシューティングの目的で、Cisco ISE サーバに関する大量の情報を収集するのに役立ちます。問題を報告するときに、テクニカル サポートの担当者へ出力を提供します。

例

```
ise/admin# show tech-support
#####
Application Deployment Engine(ADE) - 2.0.0.568
Technical Support Debug Info follows...
#####

*****
Checking dmidecode Serial Number(s)
*****
None
VMware-56 4d 14 cb 54 3d 44 5d-49 ee c4 ad a5 6a 88 c4

*****
Displaying System Uptime...
*****
12:54:34 up 18:37, 1 user, load average: 0.14, 0.13, 0.12

*****
Display Memory Usage(KB)
*****
total used free shared buffers cached
Mem: 1035164 1006180 28984 0 10784 345464
-/+ buffers/cache: 649932 385232
Swap: 2040244 572700 1467544

*****
Displaying Processes(ax --forest)...
*****
PID TTY STAT TIME COMMAND
1 ? Ss 0:02 init [3]
2 ? S< 0:00 [migration/0]
3 ? SN 0:00 [ksoftirqd/0]
4 ? S< 0:00 [watchdog/0]
5 ? S< 0:00 [events/0]
--More--
(press Spacebar to continue)

ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示します。
show process	アクティブなプロセスに関する情報を表示します。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションの内容を表示します。

show terminal

端末設定パラメータの設定に関する情報を取得するには、EXEC モードで **show terminal** コマンドを使用します。

show terminal

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise/admin# show terminal
TTY: /dev/pts/0 Type: "vt100"
Length: 27 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 30 minutes
ise/admin#
```

表 A-12 では、**show terminal** の出力のフィールドについて説明します。

表 A-12 show terminal のフィールドの説明

フィールド	説明
TTY: /dev/pts/0	端末のタイプに対する標準の出力を表示します。
Type:"vt100"	現在使用されている端末のタイプ。
Length: 24 lines	端末ディスプレイの長さ。
Width: 80 columns	端末ディスプレイの文字カラムの幅。
Session Timeout: 30 minutes	セッションで、接続を終了するまでの時間 (単位: 分)。

show timezone

システムに設定されている時間帯を表示するには、EXEC モードで **show timezone** コマンドを使用します。

show timezone

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise/admin# show timezone
UTC
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clock timezone	システムの時間帯を設定します。
show timezones	システムで使用可能な時間帯を表示します。

show timezones

選択可能な時間帯のリストを取得するには、EXEC モードで **show timezones** コマンドを使用します。

show timezones

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

ISE サーバで使用可能な時間帯の例については、「[clock timezone](#)」(P.A-102) を参照してください。

例

```
ise/admin# show timezones
Africa/Blantyre
```

show コマンド

```

Africa/Dar_es_Salaam
Africa/Dakar
Africa/Asmara
Africa/Timbuktu
Africa/Maputo
Africa/Accra
Africa/Kigali
Africa/Tunis
Africa/Nouakchott
Africa/Ouagadougou
Africa/Windhoek
Africa/Douala
Africa/Johannesburg
Africa/Luanda
Africa/Lagos
Africa/Djibouti
Africa/Khartoum
Africa/Monrovia
Africa/Bujumbura
Africa/Porto-Novo
Africa/Malabo
Africa/Ceuta
Africa/Banjul
Africa/Cairo
Africa/Mogadishu
Africa/Brazzaville
Africa/Kampala
Africa/Sao_Tome
Africa/Algiers
Africa/Addis_Ababa
Africa/Ndjamena
Africa/Gaborone
Africa/Bamako
Africa/Freetown
--More--
(press Spacebar to continue)

ise/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show timezone	システムに設定されている時間帯を表示します。
clock timezone	システムの時間帯を設定します。

show udi

Cisco ISE アプライアンスの UDI に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show udi** コマンドを使用します。

show udi

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

例 1

```
ise/admin# show udi
SPID: ISE-3315-K9
VPID: V01
Serial: LAB12345678

ise/admin#
```

次の出力は、VMware サーバで **show udi** コマンドを実行したときに表示されます。

例 2

```
ise/admin# show udi
SPID: ISE-VM-K9
VPID: V01
Serial: 5C79C84ML9H

ise/admin#
```

show uptime

Cisco ISE サーバにログインしてから経過した時間を表示するには、EXEC モードで **show uptime** コマンドを使用します。

show uptime |

show コマンド

構文の説明	show uptime	Cisco ISE サーバに記録される期間を表示するコマンド。
		<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin# show uptime
3 day(s), 18:55:02
ise/admin#
```

show users

Cisco ISE サーバにログインしているユーザの一覧を表示するには、EXEC モードで **show users** コマンドを使用します。

show users

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

```
例
ise/admin# show users
USERNAME          ROLE    HOST          TTY    LOGIN DATETIME

admin             Admin  10.77.137.60  pts/0  Fri Aug  6 09:45:47 2010

ise/admin#
```

show version

システムのソフトウェア バージョンに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

show version

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン このコマンドは、Cisco ISE サーバで動作している Cisco ADE-OS ソフトウェアに関するバージョン情報を表示し、Cisco ISE のバージョンを表示します。

```
例
ise/admin# show version
Cisco Application Deployment Engine OS Release: 2.0
ADE-OS Build Version: 2.0.0.568
ADE-OS System Architecture: i386

Copyright (c) 2005-2010 by Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.
Hostname: pmbudev-vm3

Version information of installed applications
-----

Cisco Identity Services Engine
-----
Version       : 1.0.2.051
Build Date    : Mon Aug  2 00:34:25 2010
Install Date  : Thu Aug  5 17:48:49 2010
ise/admin#
```

コンフィギュレーション コマンド

ここでは、各コンフィギュレーション コマンドが表示され、使用、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および出力例の簡単な説明が含まれています。

コンフィギュレーション コマンドには、**interface** や **repository** などのコマンドがあります。



(注)

一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コマンド コンフィギュレーションを完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードで **acs-config** コマンドを使用する必要があります。

表 A-13 に、この付録で説明するコンフィギュレーション コマンドの一覧を示します。

表 A-13 **コンフィギュレーション コマンドの一覧**

<ul style="list-style-type: none"> • backup-staging-url • cdp holdtime • cdp run • cdp timer • clock timezone • do • end • exit • hostname • icmp echo • interface • ipv6 address autoconfig • ipv6 address dhcp • ip address • ip default-gateway • ip domain-name • ip name-server • ip route 	<ul style="list-style-type: none"> • kron occurrence • kron policy-list • logging • ntp • ntp authenticate • ntp authentication-key • ntp server • ntp trusted-key • password-policy • repository • service • shutdown • snmp-server community • snmp-server contact • snmp-server host • snmp-server location • username
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

backup-staging-url

バックアップ操作および復元操作が、バックアップ ファイルをパッケージ化およびアンパッケージ化するためのステージング領域として使用するネットワーク ファイル システム (NFS) の場所を設定できるようにするには、コンフィギュレーション モードで **backup-staging-url** コマンドを使用します。

backup-staging-url *word*

構文の説明

backup-staging-url	バックアップおよび復元操作で使用するステージング領域として Network File System (NFS) の位置を設定するコマンド。
<i>word</i>	ステージング領域の NFS URL。最大 2048 文字の英数字をサポートします。 nfs://server:path¹ という形式を使用します。

- server はサーバ名です。path は /subdir/subsubdir を指します。server の後にコロン (:) が必要です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

URL は NFS のみです。コマンドの形式は、**backup-staging-url nfs://server:path** です。



警告

使用している NFS サーバのセキュリティを設定して、Cisco ISE サーバの IP アドレスからのみディレクトリにアクセスできるようにしてください。

例

```
ise/admin(config)# backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
ise/admin(config)#
```

cdp holdtime

受信デバイスが Cisco ISE サーバからの Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定するには、コンフィギュレーション モードで **cdp holdtime** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp holdtime *seconds*

構文の説明

cdp	Cisco Discovery Protocol パラメータを設定するコマンド。
holdtime	指定された Cisco Discovery Protocol の保留時間。
<i>seconds</i>	ホールド タイムを秒数で指定します。値は 10 ~ 255 秒です。

デフォルト

180 秒

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。

cdp holdtime コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

例

```
ise/admin(config)# cdp holdtime 60
ise/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
cdp timer	Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。
cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

cdp run

Cisco Discovery Protocol をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **cdp run** コマンドを使用します。Cisco Discovery Protocol をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp run [*GigabitEthernet*]

構文の説明

cdp	Cisco Discovery Protocol パラメータを設定するコマンド。
run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルまたはディセーブルにするコマンド。
GigabitEthernet	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにする GigabitEthernet インターフェイスを指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

このコマンドでは、1 つのオプションの引数（インターフェイス名）を指定します。オプションのインターフェイス名を指定しない場合、このコマンドは、すべてのインターフェイス上で Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。



(注) デフォルトでは、CDP が実行されているインターフェイスで動作します。インターフェイスの起動時に、最初に Cisco Discovery Protocol を停止します。次に、Cisco Discovery Protocol を起動します。

例

```
ise/admin(config)# cdp run GigabitEthernet 0
ise/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cdp holdtime	受信デバイスがパケットを廃棄する前に Cisco ISE サーバから Cisco Discovery Protocol パケットを保持する時間を指定します。
	cdp timer	Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。

cdp timer

Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol 更新を送信する頻度を指定するには、コンフィギュレーションモードで **cdp timer** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp timer *seconds*

構文の説明	コマンド	説明
	<code>cdp</code>	Cisco Discovery Protocol パラメータを設定するコマンド。
	<code>timer</code>	Cisco Discovery Protocol の間隔をリフレッシュするコマンド。
	<code>seconds</code>	Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol 更新を送信する頻度を秒単位で指定します。値は 5 ~ 254 秒です。

デフォルト 60 秒

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。

cdp timer コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

例

```
ise/admin(config)# cdp timer 60
ise/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cdp holdtime	受信デバイスがパケットを廃棄する前に Cisco ISE サーバから Cisco Discovery Protocol パケットを保持する時間を指定します。
	cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

clock timezone

時間帯を設定するには、コンフィギュレーション モードで **clock timezone** コマンドを実行します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *timezone*

構文の説明

clock	時間帯を設定するコマンド。
timezone	システムの時間帯を設定するコマンド。
<i>timezone</i>	標準時に表示する時間帯の名前。最大 64 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

UTC

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

システムの内部的には、UTC での時刻が保持されます。具体的な時間帯がわからない場合、地域、国、および都市を入力できます（システムに入力するサンプルの時間帯については、[A-14](#)、[A-15](#)、[A-16](#) の各表を参照）。

表 A-14 共通の時間帯

略語または名前	時間帯名
欧州	
GMT、GMT0、GMT-0、GMT+0、UTC、Greenwich、Universal、Zulu	グリニッジ標準時（UTC）
GB	英国
GB-Eire、Eire	アイルランド
WET	西ヨーロッパ時間（UTC）
CET	中央ヨーロッパ標準時（UTC + 1 時間）
EET	東ヨーロッパ時間（UTC + 2 時間）
米国およびカナダ	
EST、EST5EDT	東部標準時、UTC - 5 時間
CST、CST6CDT	中央標準時、UTC - 6 時間
MST、MST7MDT	山岳部標準時、UTC - 7 時間
PST、PST8PDT	太平洋標準時、UTC - 8 時間
HST	ハワイ標準時、UTC - 10 時間

表 A-15 オーストラリアの時間帯

Australia ¹			
ACT ²	Adelaide	Brisbane	Broken_Hill
Canberra	Currie	Darwin	Hobart
Lord_Howe	Lindeman	LHI ³	Melbourne
North	NSW ⁴	Perth	Queensland
South	Sydney	Tasmania	Victoria
West	Yancowinna		

1. 国と都市をスラッシュ (/) で区切って入力します (例: Australia/Currie)。
2. ACT = Australian Capital Territory (オーストラリア首都特別地域)
3. LHI = Lord Howe Island (ロード・ハウ諸島)
4. NSW = New South Wales (ニュー サウス ウェールズ)

表 A-16 アジアの時間帯

Asia ¹			
Aden ²	Almaty	Amman	Anadyr
Aqtau	Aqtobe	Ashgabat	Ashkhabad
Baghdad	Bahrain	Baku	Bangkok
Beirut	Bishkek	Brunei	Calcutta
Choibalsan	Chongqing	Columbo	Damascus
Dhakar	Dili	Dubai	Dushanbe
Gaza	Harbin	Hong_Kong	Hovd
Irkutsk	Istanbul	Jakarta	Jayapura
Jerusalem	Kabul	Kamchatka	Karachi
Kashgar	Katmandu	Kuala_Lumpur	Kuching
Kuwait	Krasnoyarsk		

1. アジアの時間帯には、東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア、および中央アジアがあります。
2. 地域と都市または国をスラッシュ (/) で区切って入力します。たとえば、Asia/Aden。



(注)

これ以外にも使用可能な時間帯がいくつかあります。Cisco ISE サーバで、**show timezones** を入力します。Cisco ISE サーバで使用可能なすべての時間帯のリストが表示されます。該当地域の時間帯に最も適した時間帯を選択します。



警告

Cisco ISE アプライアンスの時間帯を変更すると、そのノード上の Cisco ISE アプリケーションを使用できなくなります。ただし、初期設定ウィザードで時間帯の設定を求めると表示されたら、優先する時間帯 (デフォルト UTC) をインストール中に設定できます。

時間帯を変更することによって及ぼされるさまざまな Cisco ISE ノードタイプの配置への影響と、それらの影響から回復するための手順の詳細は、「スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノード」(P.A-104) および「セカンダリ ISE ノード」(P.A-104) を参照してください。

スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノード

インストールの後の時間帯の変更は、スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノードでサポートされていません。

誤って時間帯を変更した場合は、次の手順を実行します。

- 時間帯に戻ります。(変更される前の時間帯)。
- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- そのノードで時間帯が変更される前の、正常な既知の最終バックアップから復元します。

セカンダリ ISE ノード

セカンダリ ノードで時間帯を変更すると、配置に使用できなくなります。

プライマリ ノードの時間帯と同じになるようにセカンダリ ノードの時間帯を変更する場合、次の手順を実行します。

- セカンダリ ノードの登録を解除します。
- プライマリ ノードと同じになるように時間帯を修正します。
- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- プライマリ ノードにセカンダリ ノードとしてノードを再登録します。

例

```
ise/admin(config)# clock timezone EST
ise/admin(config)# exit
ise/admin# show timezone
EST
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show timezones	システムで使用可能な時間帯を一覧表示します。
show timezone	システムに現在設定されている時間帯を表示します。

do

コンフィギュレーション モードまたはコンフィギュレーション サブモードから EXEC レベルのコマンドを実行するには、コンフィギュレーション モードで **do** コマンドを使用します。

do arguments

構文の説明

do	コンフィギュレーション モードまたはコンフィギュレーション サブモードから EXEC レベルのコマンドを実行する EXEC コマンド
arguments	EXEC レベルのコマンドを実行する EXEC コマンド (表 A-17 を参照)。

表 A-17 Do コマンドのコマンド オプション

コマンド	説明
application configure	特定のアプリケーションを設定します。

表 A-17 Do コマンドのコマンド オプション (続き)

コマンド	説明
application install	特定のアプリケーションをインストールします。
application remove	特定のアプリケーションを削除します。
application start	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	特定のアプリケーションをアップグレードします。
backup	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
backup-logs	Cisco ISE サーバに記録されているすべてのログをリモートの場所にバックアップします。
clock	Cisco ISE サーバのシステム クロックを設定します。
configure	コンフィギュレーション モードに入ります。
copy	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
debug	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、エラーまたはイベントを表示します。
delete	Cisco ISE サーバ上のファイルを削除します。
dir	Cisco ISE サーバ上のファイルを一覧表示します。
forceout	特定の Cisco ISE ノード ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
halt	Cisco ISE サーバをディセーブルにするか、シャットダウンします。
mkdir	新しいディレクトリを作成します。
nslookup	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名を照会します。
patch	システムやアプリケーションのパッチをインストールします。
pep	Inline Posture ノードを設定します。
ping	リモート システムの IPv4 ネットワーク アクティビティを判断します。
ping6	IPv6 リモート システムの IPv6 ネットワーク アクティビティを判断します。
reload	Cisco ISE サーバを再起動します。
restore	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
rmdir	既存のディレクトリを削除します。
show	Cisco ISE サーバに関する情報を提供します。
ssh	リモート システムとの暗号化されたセッションを開始します。
tech	Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
telnet	リモート システムへの Telnet 接続を確立します。
terminal length	端末回線のパラメータを設定します。
terminal session-timeout	すべてのターミナル セッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。
terminal session-welcome	すべてのターミナル セッションで表示される初期メッセージをシステムに設定します。

表 A-17 Do コマンドのコマンド オプション (続き)

コマンド	説明
terminal terminal-type	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
traceroute	リモート IP アドレスのルートを追跡します。
undebug	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、 debug コマンドの出力 (エラーまたはイベントの表示) をディセーブルにします。
write	強制的にセットアップユーティリティを実行してネットワーク コンフィギュレーションをプロンプトするスタートアップ コンフィギュレーションを消去し、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーし、コンソールに実行コンフィギュレーションを表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション モードまたはコンフィギュレーション サブモード

使用上のガイドライン

このコマンドは、サーバの設定中に、EXEC コマンド (**show**、**clear**、**debug** などの各コマンド) を実行する場合に使用します。EXEC コマンドの実行後、システムは使用していたコンフィギュレーション モードに戻ります。

例

```
ise/admin(config)# do show run
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone EST
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
!
password-policy
 lower-case-required
```

```

    upper-case-required
    digit-required
    no-username
    disable-cisco-passwords
    min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
--More--

ise/admin(config)#

```

end

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **end** コマンドを使用します。

```
end
```

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

このコマンドは、現在のコンフィギュレーションモードやサブモードにかかわらず、EXEC モードに移行します。

このコマンドは、システム設定を終了し、EXEC モードに戻って、検証手順を実行する場合に使用します。

例

```
ise/admin(config)# end
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
exit	コンフィギュレーションモードを終了します。
exit (EXEC)	Cisco ISE サーバからログアウトすることで、アクティブなターミナルセッションを閉じます。

exit

コンフィギュレーションモードを終了して、CLI モード階層で次に高いモードに移行するには、コンフィギュレーションモードで **exit** コマンドを使用します。

```
exit
```

■ コンフィギュレーション コマンド

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

exit コマンドは、Cisco ISE サーバで、現在のコマンド モードを終了して、CLI モード階層で次に高いコマンド モードに移行する場合に使用します。

たとえば、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。コンフィギュレーション サブモードで **exit** コマンドを使用すると、コンフィギュレーション モードに戻ります。最上位の EXEC モードで **exit** コマンドを使用すると、EXEC モードを終了して、Cisco ISE サーバから接続解除されます (**exit** (EXEC) コマンドの説明については、「[exit](#)」(P.A-30) を参照してください)。

例

```
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
end	コンフィギュレーション モードを終了します。
exit (EXEC)	Cisco ISE サーバからログアウトすることで、アクティブなターミナルセッションを閉じます。

hostname

システムのホスト名を設定するには、コンフィギュレーション モードで **hostname** コマンドを使用します。システムからホスト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。これで、システムのホスト名が **localhost** にリセットされます。

hostname word

構文の説明

hostname	ホスト名を設定するコマンド。
<i>word</i>	ホストの名前。2 ~ 64 文字の英数字と下線 (_) で指定します。ホスト名はスペース以外の文字で始める必要があります。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

シングル インスタンス タイプのコマンドである **hostname** は、システムの設定時に一度だけ実行します。ホスト名には 1 つの引数を含める必要があります。引数がない場合、エラーが発生します。

例

```

ise/admin(config)# hostname ise-1
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
Are you sure you want to proceed? [y/n] y
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.

ise-1/admin(config)#

ise-1/admin# show application status ise

ISE Database listener is running, PID: 11142
ISE Database is running, number of processes: 29
ISE Application Server is still initializing.
ISE M&T Session Database is running, PID: 11410
ISE M&T Log Collector is running, PID: 11532
ISE M&T Log Processor is running, PID: 11555
ISE M&T Alert Process is running, PID: 11623

ise-1/admin#

```

icmp echo

インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー応答を設定するには、コンフィギュレーションモードで **icmp echo** コマンドを使用します。

```
icmp echo {off | on}
```

構文の説明

icmp	インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー要求を設定するコマンド。
echo	ICMP エコー応答を設定します。
off	ICMP エコー応答をディセーブルにします。
on	ICMP エコー応答をイネーブルにします。

デフォルト

システムは ICMP エコー応答がオン (イネーブル) の場合と同様に動作します。

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

なし。

■ コンフィギュレーション コマンド

例

```
ise/admin(config)# icmp echo off
ise/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show icmp-status	ICMP エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示します。

interface

インターフェイスのタイプを設定してインターフェイス コンフィギュレーション モードに入るには、コンフィギュレーション モードで **interface** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。



(注)

VMware 仮想マシンで使用可能なインターフェイスの数は、仮想マシンに追加されるネットワーク インターフェイス (NIC) の数によって異なることがあります。

```
interface GigabitEthernet [0 | 1 | 2 | 3]
```

構文の説明

interface	インターフェイスを設定するコマンド。
GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
0 ~ 3	設定するギガビット イーサネット ポートの数。



(注)

interface コマンドでギガビット インターネット ポートを入力すると、**config-GigabitEthernet** コンフィギュレーション サブモードに入ります (この「構文の説明」を参照)。

do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できます (「 do 」 (P.A-104) を参照)。
end	config-GigabitEthernet サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	config-GigabitEthernet コンフィギュレーション サブモードを終了します。
ip	イーサネット インターフェイスに対して、IP アドレスとネットマスクを設定します (「 ip address 」 (P.A-114) を参照)。
ipv6	DHCPv6 サーバから IPv6 アドレス自動設定および IPv6 アドレスを設定します。 (「 ipv6 address autoconfig 」 (P.A-111) および 「 ipv6 address dhcp 」 (P.A-113) を参照してください)。
no	このモードのコマンドを否定します。2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ip : インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。 shutdown : インターフェイスをシャットダウンします。
shutdown	インターフェイスをシャットダウンします (「 shutdown 」 (P.A-133) を参照)。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン **interface** コマンドは、さまざまな要件をサポートするサブインターフェイスを設定するために使用できます。

例

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「shutdown」 (P.A-133) を参照)。

ipv6 address autoconfig

IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

IPv6 アドレス自動設定は、Linux ではデフォルトでイネーブルです。Cisco ADE 2.0 は、イネーブルになっている任意のインターフェイスの実行コンフィギュレーションで IPv6 アドレス自動設定を示します。

```
interface GigabitEthernet 0
```

構文の説明	
interface	インターフェイスを設定するコマンド。
GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
<0 - 3>	設定するギガビット イーサネット ポートの数。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン IPv6 ステートレス自動設定には、予測可能な IP アドレスを持つというセキュリティ面の落とし穴があります。この落とし穴は、プライベートの拡張によって解決されます。**show** コマンドを使用して、プライベート機能拡張がイネーブルになっていることを確認できます。

例 1

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# ipv6 address autoconfig
ise/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# end
ise/admin#
```

IPv6 自動設定がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
```

インターフェイス設定を表示するには、**show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用できます。例 2 では、インターフェイスには 3 個の IPv6 アドレスが設定されていることがわかります。最初のアドレス (3ffe 以降) は、ステートレス自動設定を使用して取得されます。ステートレス自動設定が機能するには、そのサブネットで IPv6 ルート アドバタイズメントがイネーブルになっている必要があります。次のアドレス (fe80 以降) は、ホストの外部にスコープが存在しないリンクローカルアドレスです。IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なくリンクローカルアドレスが常に表示されます。最後のアドレス (2001 以降) は、IPv6 DHCP サーバから取得されます。

例 2

```
ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64  Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB)  TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
```

```
ise/admin#
```

次の RFC で、IPv6 ステートレス自動設定のプライバシー拡張が提供されます。

<http://www.ietf.org/rfc/rfc3041.txt>

プライバシーの拡張機能がイネーブルであることを確認するには、**show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用できます。2 つの自動設定アドレスが表示されます。1 つのアドレスはプライバシー拡張なしで、もう 1 つはプライバシー拡張ありです。

次の例 3 では MAC は 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 で非 RFC3041 アドレスには MAC が含まれています。プライバシー拡張アドレスは 302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 です。

出力は次のように表示されます。

例 3

```
ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64  Scope:Global
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:60606 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:2771 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:9430102 (8.9 MiB)  TX bytes:466204 (455.2 KiB)
```

```
Interrupt:59 Base address:0x2000
```

```
ise/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>show interface</code>	システム インターフェイスに関する情報を表示します
	<code>ip address</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
	<code>shutdown</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「 <code>shutdown</code> 」 (P.A-133) を参照)。
	<code>ipv6 address dhcp</code>	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。
	<code>show running-config</code>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

ipv6 address dhcp

IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

```
interface GigabitEthernet 0
```

構文の説明	interface	説明
	GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
	0	設定するギガ ビット イーサネット ポート番号。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address dhcp
ise/admin(config-GigabitEthernet)# end
ise/admin#
```

DHCPv6 IPv6 がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
```

```
ipv6 address dhcp
!
```



(注)

IPv6 ステートレス自動設定および IPv6 アドレス DHCP は相互に排他的ではありません。同じインターフェイスに IPv6 ステートレス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方を指定できます。どの IPv6 アドレスが特定のインターフェイスで使用されているかを表示するには、**show interface** を使用できます。

IPv6 ステートレス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address dhcp
!
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「shutdown」 (P.A-133) を参照)。
ipv6 address autoconfig	インターフェイスで IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにします。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

ip address

イーサネット インターフェイスに対し、IP アドレスとネットマスクを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip address** コマンドを使用します。IP アドレスを削除するか、IP プロセッシングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip address ip-address network mask



(注)

複数のインターフェイスで、同じ IP アドレスを設定できます。この設定により、2 つのインターフェイス間の切り替えに必要なコンフィギュレーション手順を制限できます。

構文の説明

<code>ip address</code>	GigabitEthernet インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定するコマンド。
<code>ip-address</code>	IPv4 バージョンの IP アドレス。
<code>network mask</code>	関連付けられた IP サブネットのマスク。

デフォルト

イネーブル。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

確にアドレスとネットマスクを 1 つずつ指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

例

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 209.165.200.227 255.255.255.224
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
.....
To verify that ISE processes are running, use the
'show application status ise' command.
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをディセーブルにします (「shutdown」 (P.A-133) を参照)。
ip default-gateway	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。
show interface interface	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
interface	インターフェイス タイプを設定してインターフェイス モードに入ります。

ip default-gateway

IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義または設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip default-gateway** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip default-gateway ip-address

構文の説明

ip default-gateway	IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義するコマンド。
ip-address	デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。

デフォルト

ディセーブル。

コマンド モード

コンフィギュレーション

■ コンフィギュレーション コマンド

使用上のガイドライン 複数の引数を指定した場合、または引数を指定していない場合はエラーが発生します。

例

```
ise/admin(config)# ip default-gateway 209.165.202.129
ise/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。

ip domain-name

Cisco ISE サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義するには、コンフィギュレーション モードで **ip domain-name** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip domain-name *word*

構文の説明

ip domain-name	デフォルトのドメイン名を定義するコマンド。
<i>word</i>	ホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名。2 ~ 64 文字の英数字で指定します。

デフォルト

イネーブル。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

入力した引数が多すぎるまたは不足している場合、エラーが発生します。

例

```
ise/admin(config)# ip domain-name cisco.com
ise/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip name-server	DNS クエリー時に使用する DNS サーバを設定します。

ip name-server

DNS クエリー実行時に使用するドメイン ネーム サーバ (DNS) のサーバを設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip name-server** コマンドを使用します。1 ~ 3 台の DNS サーバを設定できます。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注)

このコマンドの **no** 形式を使用すると、設定からすべてのネーム サーバが削除されます。このコマンドの **no** 形式と IP 名の 1 つを使用すると、その IP ネーム サーバだけが削除されます。

ip name-server ip-address [ip-address*]

構文の説明

ip name-server	使用するネーム サーバの IP アドレスを設定するコマンド。
<i>ip-address</i>	ネーム サーバのアドレス。
<i>ip-address*</i>	(任意) 追加のネーム サーバの IP アドレス。 (注) ネーム サーバは、最大 3 台まで設定できます。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

ip name-server コマンドを使用して追加された最初のネーム サーバは最初の位置に配置されます。システムはそのサーバを最初に使用して、IP アドレスを解決します。

ネーム サーバは、最大数 (3 台) に達するまで、一度に 1 台またはすべてを追加できます。システムにすでに 3 台のネーム サーバが設定されている場合、少なくとも 1 台を削除するまでネーム サーバを追加できません。

1 台のネーム サーバを最初の位置に配置して、サブシステムがまずそのサーバを使用するようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用してすべてのネーム サーバを削除してから処理を進める必要があります。

例

```
ise/admin(config)# ip name-server 209.165.201.1
```

```
To verify that ISE processes are running, use the
'show application status ise' command.
ise/admin(config)#
```

Cisco ISE サーバを再起動しないように選択できますが、それでも変更は有効になります。

関連コマンド

コマンド	説明
ip domain-name	サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義します。

ip route

スタティック ルートを設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip route** コマンドを使用します。スタティック ルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

■ コンフィギュレーション コマンド

スタティック ルートは手動で設定されます。これによって、柔軟性が低くなります（ネットワーク ポロジの変更に動的に適応できません）が、安定性は非常に高くなります。スタティック ルートでは、維持するためにルーティングの更新を送信される必要がないため、帯域幅使用率が最適化されます。また、ルーティング ポリシーを実施することが容易になります。

ip route prefix mask gateway ip-address

no ip route prefix mask

構文の説明

ip route	IP ルートを設定するコマンド。
prefix	宛先の IP ルート プレフィックス。
mask	宛先のプレフィックス マスク
ip-address	そのネットワークに到達するために使用できるネクスト ホップの IP アドレス。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

例

```
ise/admin(config)# ip route 192.168.0.0 255.255.0.0 gateway 172.23.90.2
ise/admin(config)#
```

kron occurrence

1 つまたは複数のコマンド スケジューラ コマンドが、特定の日に、または繰り返して実行されるようにスケジューリングするには、コンフィギュレーション モードで **kron occurrence** コマンドを使用します。このスケジュールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

kron {occurrence} occurrence-name

構文の説明

kron	コマンド スケジューラ コマンドをスケジュールするコマンド。
occurrence	コマンド スケジューラ コマンドをスケジューリングします。
occurrence-name	オカレンスの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。(次の「注」と「構文の説明」を参照)。



(注)

kron occurrence コマンドで *occurrence-name* キーワードを入力すると、*config-occurrence* コンフィギュレーション サブモードに入ります (この「構文の説明」を参照)。

at	指定した日にオカレンスが実行されるように指定します。使用方法 : at [hh:mm] [day-of-week day-of-month month day-of-month]
do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できます (「do」(P.A-104) を参照)。

end	kron-occurrence コンフィギュレーション サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	kron-occurrence コンフィギュレーション モードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 3 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> at : 使用方法 : at [hh:mm] [day-of-week day-of-month month day-of-month] policy-list : オカレンスによって実行されるポリシー リストを指定します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 recurring : ポリシー リストの実行を繰り返します。
policy-list	オカレンスによって実行されるコマンド スケジューラ ポリシー リストを指定します。
recurring	繰り返して実行するオカレンスを指定します。  (注) kron オカレンスが繰り返されない場合、スケジュール バックアップの kron オカレンスの設定が実行後に削除されます。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

同じ時間または間隔で実行する 1 つ以上のポリシー リストをスケジューリングするには、**kron occurrence** コマンドと **policy-list** コマンドを使用します。

EXEC CLI コマンドを含むコマンド スケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に Cisco ISE サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。「[kron policy-list](#)」(P.A-120) を参照してください。

**例**

(注) **kron** コマンドを実行すると、一意の名前 (タイム スタンプの追加により) でバックアップ バンドルが作成されるため、ファイルが互いに上書きされることはありません。

例 1 : 週次バックアップ

```
ise/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
ise/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
ise/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
ise/admin(config-Occurrence)# recurring
ise/admin(config-Occurrence)# exit
ise/admin(config)#
```

例 2 : 日次バックアップ

```
ise/admin(config)# kron occurrence DailyBackup
ise/admin(config-Occurrence)# at 02:00
ise/admin(config-Occurrence)# exit
ise/admin(config)#
```

例 3 : 週次バックアップ

```
ise/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
ise/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
ise/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
ise/admin(config-Occurrence)# no recurring
ise/admin(config-Occurrence)# exit
ise/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
kron policy-list	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。

kron policy-list

コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定し、**kron-Policy List** コンフィギュレーション サブモードに入るには、コンフィギュレーション モードで **kron policy-list** コマンドを使用します。コマンド スケジューラ ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

kron {policy-list} list-name

構文の説明

kron	コマンド スケジューラ コマンドをスケジュールするコマンド。
policy-list	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。
list-name	ポリシー リストの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。

**(注)**

policy-list コマンドで **list-name** を入力すると、**config-Policy List** コンフィギュレーション サブモードに入ります (この「構文の説明」を参照)。

cli	スケジューラによって実行されるコマンド。最大 80 文字の英数字をサポートします。
do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドが実行できます (「do」(P.A-104) を参照)。
end	config-Policy List コンフィギュレーション サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	このサブモードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。次の 1 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> cli : スケジューラによって実行されるコマンド。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

EXEC CLI コマンドを含むコマンド スケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に ISE サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。同じ時間または間隔で実行する 1 つ以上のポリシー リストをスケジューリングするには、**kron occurrence** コマンドと **policy list** コマンドを使用します。「[ip route](#)」(P.A-117) を参照してください。

例

```
ise/admin(config)# kron policy-list SchedBackupMonday
ise/admin(config-Policy List)# cli backup SchedBackupMonday repository SchedBackupRepo
ise/admin(config-Policy List)# exit
ise/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip route	コマンド スケジューラ オカレンスのスケジュール パラメータを指定して、 config-Occurrence コンフィギュレーション モードに入ります。

logging

システムによるリモート システムへのログの転送や、ログ レベルのコンフィギュレーションをイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **logging** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging {ip-address | hostname} {loglevel level}
```

■ コンフィギュレーション コマンド

構文の説明

<code>logging</code>	システム ロギングを設定するコマンド。
<code>ip-address</code>	ログを転送するリモートシステムの IP アドレス。最大 32 文字の英数字をサポートします。
<code>hostname</code>	ログを転送するリモートシステムのホスト名。最大 32 文字の英数字をサポートします。
<code>loglevel</code>	logging コマンドのログ レベルを設定するコマンド。
<code>level</code>	ログ メッセージを設定する希望のプライオリティ レベルの番号。プライオリティ レベルは以下のとおりです (キーワードの番号を入力)。 <ul style="list-style-type: none"> 0-emerg : システムが使用不可。 1-alert : ただちに処置が必要。 2-crit : クリティカルな状態。 3-err : エラー状態。 4-warn : 警告状態。 5-notif : 正常であるが、重要な状態。 6-inform : (デフォルト) 情報メッセージ。 7-debug : デバッグ メッセージ。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

このコマンドでは、IP アドレス、ホスト名、または **loglevel** キーワードのいずれかを指定する必要があります。これらの引数を複数指定するとエラーが発生します。

例

例 1

```
ise/admin(config)# logging 209.165.200.225
ise/admin(config)#
```

例 2

```
ise/admin(config)# logging loglevel 0
ise/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	システムのログ リストを表示します。

ntp

NTP コンフィギュレーションを指定するには、コンフィギュレーション モードで **ntp** コマンドを **authenticate**、**authentication-key**、**server**、および **trusted-key** コマンドとともに使用します。

```
ntp authenticate
```

```
ntp authentication-key <key id> md5 hash | plain <key value>
```

```
ntp server {ip-address | hostname} key <peer key number>
```

```
ntp trusted-key <key>
```

構文の説明	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
-------	-----	---------------------------

デフォルト なし。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン NTP コンフィギュレーションを指定するには、**ntp** コマンドを使用します。

NTP サービスをデバイスで停止するには、**no ntp** コマンドをキーワードまたは **authenticate**、**authentication-key**、**server**、および **trusted-key** などの引数とともに入力する必要があります。たとえば、以前に **ntp server** コマンドを実行した場合、**no ntp** コマンドを **server** とともに使用します。

NTP サーバを設定する方法の詳細については、「[ntp server](#)」(P.A-126) を参照してください。

例

```
ise/admin(config)# ntp ?
  authenticate      Authenticate time sources
  authentication-key Authentication key for trusted time sources
  server            Specify NTP server to use
  trusted-key       Key numbers for trusted time sources
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# no ntp server
ise/admin(config)# do show ntp
% no NTP servers configured
ise/admin(config)#
```

コマンド	説明
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp authentication-key	信頼できる時刻源の認証キーを設定します。
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアの時計を同期化します。
ntp trusted-key	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。これは、NTP 認証キーとして定義する必要があります。
show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp authenticate

すべての時刻源の認証をイネーブルにするには、**ntp authenticate** コマンドを使用します。NTP 認証キーのない時刻源は同期されません。

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ntp authenticate
```

■ コンフィギュレーション コマンド

構文の説明	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。

デフォルト なし。

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン すべての時刻源の認証をイネーブルにするには、**ntp authenticate** コマンドを使用します。このコマンドは任意であり、このコマンドを指定しなくても認証は機能します。

一部のサーバのみが認証を必要とする混在モードで認証する場合、つまり一部のサーバのみ認証用に設定されているキーが必要な場合は、このコマンドを実行してはなりません。

例

```
ise/admin(config)# ntp ?
  authenticate      Authenticate time sources
  authentication-key Authentication key for trusted time sources
  server            Specify NTP server to use
  trusted-key       Key numbers for trusted time sources
ise/admin(config)#

ise/admin(config)# ntp authenticate
ise/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	ntp authentication-key	信頼できる時刻源の認証キーを設定します。
	ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアの時計を同期化します。
	ntp trusted-key	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。これは、NTP 認証キーとして定義する必要があります。
	show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp authentication-key

時刻源に認証キーを指定するには、固有識別子およびキー値を指定して、**ntp authentication-key** コマンドをコンフィギュレーション コマンドで使用します。

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ntp authentication-key <key id> md5 hash | plain <key value>
```

構文の説明	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	authentication-key	信頼できる時刻源の認証キーを設定します。
	key id	このキーに割り当てる ID。1 から 65535 までの数値がサポートされません。

md5	認証キーの暗号化タイプ。
hash <word>	認証のハッシュされたキー。暗号化タイプに続けて、 <i>encrypted</i> (ハッシュされた) キーを指定します。最大 40 文字までサポートします。
plain <word>	認証用のプレーン テキストのキー。暗号化タイプに続けて、 <i>unencrypted</i> プレーンテキスト キーを指定します。最大 15 文字までサポートします。
<key value>	上記の matching either md5 plain hash フォーマットのキー値。

デフォルト

なし。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

ntp authentication-key コマンドを使用して、NTP 認証の認証キーとともに時刻源を設定し、それに関連するキー ID、キー暗号化タイプ、およびキー値設定を指定します。このキーを **ntp server** コマンドに追加する前に、このキーを信頼リストに追加します。

信頼リストに追加されている NTP 認証キーのない時刻源は同期されません。

例

```
ise/admin# configure
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
ise/admin(config)# ntp authentication-key 2 md5 plain SharedWithServ
ise/admin(config)# ntp authentication-key 3 md5 plain SharedWithSer
```



(注) **show running-config** コマンドはセキュリティのためにハッシュ形式に変換される Message Digest 5 (MD5) Plain 形式に入力されたキーを常に示します。たとえば、**ntp authentication-key 1 md5 hash ee18afc7608ac7ecdbefc5351ad118bc9ce1ef3** です。

```
ise/admin(config)# no ntp authentication-key 3
```

(認証キー 3 が削除されます)。

```
ise/admin(config)# no ntp authentication-key
```

(すべての認証キーが削除されます)。

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアの時計を同期化します。
ntp trusted-key	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。これは、NTP 認証キーとして定義する必要があります。
show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp server

NTP サーバによるシステムのソフトウェア クロックの同期を許可するには、コンフィギュレーション モードで **ntp server** コマンドを使用します。それぞれ別個の行にキーを指定した最大 3 台のサーバを許可します。キーはオプション パラメータですが、NTP 認証にはキーが必要です。Cisco ISE には、常に有効で到達可能な NTP サーバが必要です。

キーはオプション パラメータですが、NTP サーバを認証する必要がある場合は、キーを設定する必要があります。

NTP サーバを削除し、別の 1 台を追加する場合にのみ、このコマンドの **no** 形式を使用して、この機能をディセーブルにします。

```
ntp server {ip-address | hostname} key <peer key number>
```

構文の説明

ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
server	システムによって、指定されたサーバと同期されます。
ip-address hostname	時計の同期を提供するサーバの IP アドレスまたはホスト名。引数は 255 文字までの英数字で指定します。
key	(任意) ピアのキー番号。最大 65535 桁までサポートします。このキーは、 ntp authentication-key コマンドを使用してキー値指定して定義する必要があります。また、 ntp trusted-key コマンドを使用して信頼キーとして追加される必要もあります。認証を実行するために、キーとキーの値は実際の NTP サーバに定義されているキーと同じ値にする必要があります。

デフォルト

デフォルトで設定されているサーバはありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

システムによって指定されたサーバと同期できるようにするには、この **ntp server** コマンドを信頼キーとともに使用します。

キーはオプションですが、NTP 認証には必要です。このキーを最初に **ntp authentication-key** コマンドに定義して、このキーを **ntp trusted-key** コマンドに追加すると、それを **ntp server** コマンドに追加できるようになります。

show ntp コマンドは同期化のステータスを表示します。設定されたいずれの NTP サーバも到達可能ではなく、認証されていない場合 (NTP 認証が設定されている場合)、このコマンドによって最小のストラムを持つローカルへの同期が表示されます。NTP サーバが到達可能ではないか、適切に認証されていない場合、このコマンド統計についての到達度はゼロになります。

Cisco ISE 管理ユーザ インターフェイスに NTP サーバコンフィギュレーションと認証を定義するには、『[Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.1.1](#)』の「System Time and NTP Server Settings」の項を参照してください。



(注)

このコマンドは、同期プロセス時に矛盾した情報を表示します。同期プロセスは、完了までに最大 20 分かかることがあります。

例

例 1

```

ise/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp trusted-key.
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp trusted-key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp authentication-key.
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
ise/admin(config)#

ise/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com 1
ise/admin(config)# ntp server 171.68.10.80 2
ise/admin(config)# ntp server 171.68.10.150 3
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# do show running-config
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.21.79.246 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.21.79.1
!
clock timezone UTC
!
ntp authentication-key 1 md5 hash ee18afc7608ac7ecdbefc5351ad118bc9ce1ef3
ntp authentication-key 2 md5 hash f1ef7b05c0d1cd4c18c8b70e8c76f37f33c33b59
ntp authentication-key 3 md5 hash ee18afc7608ac7ec2d7ac6d09226111dce07da37
ntp trusted-key 1
ntp trusted-key 2
ntp trusted-key 3
ntp authenticate
ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
ntp server 171.68.10.80 key 2
ntp server 171.68.10.150 key 3
!
--More--
ise/admin# show ntp
Primary NTP   : ntp.esl.cisco.com
Secondary NTP : 171.68.10.80
Tertiary NTP  : 171.68.10.150

synchronised to local net at stratum 11
  time correct to within 448 ms
  polling server every 64 s

      remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
*127.127.1.0        .LOCL.          10 l  46  64  37  0.000  0.000  0.001
 171.68.10.80       .RMOT.          16 u  46  64  0   0.000  0.000  0.000
 171.68.10.150     .INIT.          16 u  47  64  0   0.000  0.000  0.000

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.

ise/admin#

```

例 2

```

ise/admin# show ntp
Primary NTP : ntp.esl.cisco.com
Secondary NTP : 171.68.10.150
Tertiary NTP : 171.68.10.80

synchronised to NTP server (171.68.10.150) at stratum 3
time correct to within 16 ms
polling server every 64 s

remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
127.127.1.0     .LOCL.         10 l 35 64 377  0.000  0.000  0.001
+171.68.10.80   144.254.15.122 2 u 36 64 377  1.474  7.381  2.095
*171.68.10.150 144.254.15.122 2 u 33 64 377  0.922 10.485  2.198

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
ise/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp authentication-key	信頼できる時刻源の認証キーを設定します。
ntp trusted-key	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。これは、NTP 認証キーとして定義する必要があります。
show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp trusted-key

信頼リストに時刻源を追加するには、固有識別子とともに **ntp trusted-key** コマンドを使用します。この機能をディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ntp trusted-key <key>
```

構文の説明

<code>ntp</code>	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
<code>trusted-key</code>	このキーに割り当てる ID。
<code>key</code>	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。これは、NTP 認証キーとして定義する必要があります。最大 65535 桁までサポートします。

デフォルト

なし。

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

このキーを NTP サーバに追加する前に、このキーを NTP 認証キーとして定義し、信頼リストにこのキーを追加します。信頼リストに追加されたキーは、システムで NTP サーバによって同期できるもののみ使用できます。

例

```
ise/admin# configure
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp trusted-key 1
ise/admin(config)# ntp trusted-key 2
ise/admin(config)# ntp trusted-key 3

ise/admin(config)# no ntp trusted-key 2
(信頼リストからキー 2 が削除されます)。

ise/admin(config)# no ntp trusted-key
(信頼リストからすべてのキーが削除されます)。
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp authentication-key	信頼できる時刻源の認証キーを設定します。
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアの時計を同期化します。
show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

password-policy

システムに対するパスワードをイネーブル化または設定するには、コンフィギュレーション モードで **password-policy** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

password-policy option

(注) **password-policy** コマンドには、ポリシー オプションが必要です（「構文の説明」を参照）。**password-expiration-enabled** は、他の **password-expiration** コマンドの前に入力する必要があります。

構文の説明

password-policy	パスワード ポリシーを設定するコマンド。
-----------------	----------------------



(注) **password-policy** コマンドを入力すると、**config-password-policy** コンフィギュレーション サブモードに入ります。

digit-required	パスワードには数字が含まれている必要があります。
disable-repeat-characters	同じ文字が 5 つ以上含まれているパスワードをディセーブルにします。
disable-cisco-password	パスワードに、「Cisco」や「Cisco」を含む語を使用できないようにします。
do	EXEC コマンド。
end	コンフィギュレーション モードを終了します。
exit	このサブモードを終了します。

■ コンフィギュレーション コマンド

lower-case-required	パスワードに小文字が含まれている必要があります。
min-password-length	有効なパスワードの最小文字数を指定します。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
no	コマンドを無効にするか、またはデフォルト値を設定します。
no-previous-password	前回のパスワードの一部を再使用できないようにします。
no-username	パスワードにユーザ名を含めることを禁止します。
password-expiration-days	パスワードの有効日数。0 ~ 80 の整数で指定します。
password-expiration-enabled	パスワードの有効期限をイネーブルにします。 (注) <code>password-expiration-enabled</code> は、他の <code>password-expiration</code> コマンドの前に入力する必要があります。
password-expiration-warning	パスワードの期限が迫っていることを通知する警告を開始するまでの日数。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
password-lock-enabled	指定した回数の試行が失敗したら、パスワードをロックします。
password-lock-retry-count	試行回数を指定します。この回数の試行が失敗するとパスワードがロックされます。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
upper-case-required	パスワードに大文字が含まれている必要があります。
special-required	パスワードに特殊文字が含まれている必要があります。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin(config)# password-policy
ise/admin(config-password-policy)# password-expiration-days 30
ise/admin(config-password-policy)# exit
ise/admin(config)#
```

repository

バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入るには、コンフィギュレーション モードで **repository** コマンドを使用します。

repository *repository-name*

構文の説明

repository	リポジトリを設定するコマンド。
<i>repository-name</i>	リポジトリの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。



(注) **repository** コマンドでリポジトリの名前を入力すると、config-Repository コンフィギュレーション サブモードに入ります (この「構文の説明」を参照)。

do	EXEC コマンド。このモードですべての EXEC コマンドを実行できます (「do」 (P.A-104) を参照)。
end	config-Repository サブモードを終了して EXEC モードに戻ります。
exit	このモードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> url : リポジトリの URL。 user : リポジトリにアクセスするためのユーザ名とパスワード。
url	リポジトリの URL。最大 80 文字の英数字をサポートします (表 A-18 を参照)。
user	アクセスするためのユーザ名とパスワードを設定します。最大 30 文字の英数字をサポートします。

表 A-18 URL のキーワード

キーワード	発信元または送信先
<i>word</i>	サーバおよびパス情報を含む、リポジトリの URL を入力します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
cdrom:	ローカルの CD-ROM ドライブ (読み取り専用)。
disk:	ローカルストレージ。 ローカルリポジトリのすべてのファイルを表示するには、 show repository repository_name を実行します。 (注) すべてのローカルリポジトリは、/localdisk パーティションに作成されます。リポジトリの URL で disk:// を指定すると、システムは、/localdisk に対する相対パスでディレクトリを作成します。たとえば、 disk://backup と指定すると、ディレクトリは /localdisk/backup に作成されます。
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。ftp://server/path ¹ という URL を使用します。
nfs:	NFS ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。nfs://server:path ¹ という URL を使用します。
sftp:	SFTP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。sftp://server/path ¹ という URL を使用します。
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。tftp://server/path ¹ という URL を使用します。  (注) Cisco ISE アップグレードの実行に、TFTP リポジトリは使用できません。

1. server はサーバ名です。path は /subdir/subsubdir を指します。NFS ネットワーク サーバのサーバ名の後には、コロン (:) が必要です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション**使用上のガイドライン**

url sftp: をサブモードで設定する場合、CLI を介してリポジトリ コンフィギュレーションの下にホスト キーを指定して、RSA フィンガープリントが SSH 既知ホストのリストに追加されるようにする必要があります。

この機能をディセーブルにするには、サブモードで **host-key host** コマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco ISE は、[管理 (Administration)] > [システム (System)] > [メンテナンス (Maintenance)] > [リポジトリ (Repository)] > [リポジトリの追加 (Add Repository)] と移動して管理ユーザ インターフェイスでセキュアな FTP リポジトリを設定すると常に次の警告を表示します。

このリポジトリを使用できるようにするには、SFTP サーバのホスト キーをホスト キー オプションを使用して CLI を介して追加する必要があります。

ホスト キーを設定せずに、セキュアな FTP リポジトリにバックアップしようとする、対応するエラーが Cisco ADE のログにスローされます。

例 1

```
ise/admin# configure terminal
ise/admin(config)# repository myrepository
ise/admin(config-Repository)# url sftp://ise-pap
ise/admin(config-Repository)# host-key host ise-pap
host key fingerprint added
# Host ise-pap found: line 1 type RSA
2048 f2:e0:95:d7:58:f2:02:ba:d0:b8:cf:d5:42:76:1f:c6 ise-pap (RSA)

ise/admin(config-Repository)# exit
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# configure terminal
ise/admin(config)# repository myrepository
ise/admin(config-Repository)# url sftp://ise-pap
ise/admin(config-Repository)# no host-key host ise-pap
ise/admin(config-Repository)# exit
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

service

管理するサービスを指定するには、コンフィギュレーション モードで **service** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

service sshd

構文の説明	service	管理するサービスを指定するコマンド。
	sshd	Secure Shell Daemon。SSH のデーモン プログラムです。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin(config)# service sshd
ise/admin(config)#
```

shutdown

インターフェイスをシャットダウンするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **shutdown** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション

使用上のガイドライン このコマンドを使用してインターフェイスをシャットダウンすると、そのインターフェイスを経由した Cisco ISE アプライアンスへの接続性が失われます。これは、アプライアンスの電源が投入されていても変わりません。ただし、アプライアンス上に別の IP を使用して 2 番目のインターフェイスを設定し、そのインターフェイスがシャットダウンされていなければ、その 2 番目のインターフェイス経由でアプライアンスに接続できます。

インターフェイスをシャットダウンする別の方法として、ONBOOT パラメータを使用して、`/etc/sysconfig/network-scripts` にある `ifcfg-eth[0,1]` ファイルを変更することもできます。

- インターフェイスをディセーブルにするには、ONBOOT="no" と設定します。
- インターフェイスをイネーブルにするには、ONBOOT="yes" と設定します。

no shutdown コマンドを使用して、インターフェイスをイネーブルにすることもできます。

例

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
```

■ コンフィギュレーション コマンド

```
ise/admin(config-GigabitEthernet)# shutdown
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>interface</code>	インターフェイス タイプを設定してインターフェイス モードに入ります。
	<code>ip address</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
	<code>show interface</code>	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
	<code>ip default-gateway</code>	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

snmp-server community

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server community** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server community word ro
```

構文の説明	構文	説明
	<code>snmp-server community</code>	SNMP サーバを設定するコマンド。
	<code>word</code>	パスワードのように機能するアクセス文字列。これによって SNMP へのアクセスが許可されます。空白は使用できません。最大 255 文字の英数字をサポートします。
	<code>ro</code>	読み取り専用アクセスを指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン **snmp-server community** コマンドでは、コミュニティ ストリングと引数 **ro** を指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

Cisco ISE の SNMP エージェントは、読み取り専用の SNMP v1 アクセスと SNMP v2c アクセスを次の MIB に提供します。

- SNMPv2-MIB
- RFC1213-MIB
- IF-MIB
- IP-MIB
- IP-FORWARD-MIB
- TCP-MIB
- UDP-MIB
- HOST-RESOURCES-MIB
- ENTITY-MIB : 3 つの MIB 変数のみが ENTITY-MIB でサポートされます。

- 製品 ID: entPhysicalModelName
- バージョン ID: entPhysicalHardwareRev
- シリアル番号: entPhysicalSerialNumber
- DISMAN-EVENT-MIB
- NOTIFICATION-LOG-MIB
- CISCO-CDP-MIB

例

```
ise/admin(config)# snmp-server community new ro
ise/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server host	トラップをリモート システムに送信します。
snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
snmp-server contact	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

snmp-server contact

SNMP 接続の管理情報ベース (MIB) 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server contact** コマンドを使用します。システム接続情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server contact *word*

構文の説明

snmp-server contact	この管理対象ノードの担当者を指定するコマンド。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>word</i>	ノードのシステム接続情報を表す文字列。最大 255 文字の英数字をサポートします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise/admin(config)# snmp-server contact Luke
ise/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>snmp-server host</code>	トラップをリモートシステムに送信します。
	<code>snmp-server community</code>	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定します。
	<code>snmp-server location</code>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

snmp-server host

SNMP トラップをリモートユーザに送信するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server host** コマンドを使用します。トラップ転送を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server host {*ip-address* | *hostname*} **version** {*1* | *2c*} *community*

構文の説明	コマンド	説明
	<code>snmp-server host</code>	SNMP 通知を受信するホストを設定するコマンド。
	<i>ip-address</i>	SNMP 通知ホストの IP アドレス。最大 32 文字の英数字をサポートします。
	<i>hostname</i>	SNMP 通知ホストの名前。最大 32 文字の英数字をサポートします。
	<code>version</code> { <i>1</i> <i>2c</i> }	(任意) トラップの送信に使用する SNMP のバージョンです。デフォルトは 1 です。 <code>version</code> キーワードを使用する場合は、次のキーワードのいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 : SNMPv1 • 2c : SNMPv2C
	<i>community</i>	通知処理で送信されるパスワードに類似のコミュニティ ストリング。

デフォルト ディセーブル。

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン 一覧のに記載されている引数を指定します。指定しない場合、エラーが発生します。SNMP トラップはサポートされません。

例

```
ise/admin(config)# snmp-server community new ro
ise/admin(config)# snmp-server host 209.165.202.129 version 1 password
ise/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>snmp-server community</code>	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定します。
	<code>snmp-server location</code>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
	<code>snmp-server contact</code>	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

snmp-server location

SNMP ロケーションの MIB 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server location** コマンドを使用します。システム ロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server location word

構文の説明	snmp-server location	この管理対象ノードの物理的な場所を設定するコマンド。最大 255 文字の英数字をサポートします。
	word	システムの物理ロケーション情報を表す文字列。最大 255 文字の英数字をサポートします。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン word の文字列では、単語の間にアンダスコア (_) またはハイフン (-) を使用することをお勧めします。word 文字列内で単語の間に空白を使用する場合、文字列を二重引用符 (") で囲む必要があります。

例 **例 1**

```
ise/admin(config)# snmp-server location Building_3/Room_214
ise/admin(config)#
```

例 2

```
ise/admin(config)# snmp-server location "Building 3/Room 214"
ise/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	snmp-server host	トラップをリモート システムに送信します。
	snmp-server community	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス スtring を設定します。
	snmp-server contact	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

username

SSH を使用して Cisco ISE にアクセスできるユーザを追加するには、コンフィギュレーション モードで **username** コマンドを使用します。ユーザがすでに存在する場合は、このコマンドを使用してパスワード、特権レベル、または両方を変更します。システムからユーザを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

username username password {hash | plain} password role {admin | user} [disabled [email email-address]] [email email-address]

■ コンフィギュレーション コマンド

既存のユーザに対しては、次のコマンド オプションを使用します。

username *username* **password** **role** {**admin** | **user**} *password*

■ 構文の説明

username	SSH を使用して Cisco ISE アプライアンスにアクセスするためのユーザを作成するコマンド。
<i>username</i>	引数 username には 1 つの単語のみを指定できます。空白や引用符 (") は使用できません。最大 31 文字の英数字をサポートします。
password	使用するコマンドは、パスワードおよびユーザ ロールを指定します。
<i>password</i>	パスワード。40 文字までの英数字で指定します。パスワードは、すべての新規ユーザに指定する必要があります。
hash plain	パスワードのタイプ。最大 34 文字の英数字をサポートします。
role admin user	ユーザの権限レベルを設定します。
disabled	ユーザの電子メールアドレスに従って、ユーザをディセーブルにします。
email <i>email-address</i>	ユーザの電子メールアドレス。たとえば、 <i>user1@mydomain.com</i> のように指定します。

■ デフォルト

設定時の初期ユーザです。

■ コマンド モード

コンフィギュレーション

■ 使用上のガイドライン

username コマンドでは、**username** および **password** キーワードの後に、**hash** | **plain** および **admin** | **user** オプションを指定する必要があります。

■ 例

■ 例 1

```
ise/admin(config)# username admin password hash ##### role admin
ise/admin(config)#
```

■ 例 2

```
ise/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin
ise/admin(config)#
```

■ 例 3

```
ise/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin email
admin123@mydomain.com
ise/admin(config)#
```

■ 関連コマンド

コマンド	説明
password-policy	パスワード ポリシーをイネーブルにして設定します。
show users	ユーザとそれぞれの権限レベルの一覧を表示します。これにはまた、ログイン ユーザの一覧も表示されます。



GLOSSARY

A

ADE Application Deployment Engine

C

CDP Cisco Discovery Protocol。コマンドを開始するデバイスに直接接続されている他のデバイスについて、ネットワーク管理者が、プロトコル情報とアドレス情報の要約にアクセスできる独自仕様のツール。

Cisco Discovery Protocol は、上位層プロトコルに物理メディアを接続するデータ リンク層で動作します。Cisco Discovery Protocol はデータ リンク層で動作するため、異なるネットワーク層プロトコルをサポートする複数の Cisco Discovery Protocol デバイス（たとえば、IP と Novell IPX）がお互いに関する情報を取得できます。

Subnetwork Access Protocol (SNAP) カプセル化をサポートする物理メディアは、Cisco Discovery Protocol デバイスを接続します。このような CDP デバイスには、すべての LAN、フレームリレー、WAN、および ATM ネットワークを含めることができます。

Cisco Discovery Protocol 「CDP」を参照してください。

CLI コマンドライン インターフェイス。ユーザがコマンドとオプションの引数を入力することによって、ソフトウェア オペレーティング システムを対話的に操作できるインターフェイス。

D

DNS ドメイン ネーム システム (Domain Name System)。DNS は、さまざまな種類の情報と、いわゆるドメイン名を関連付けます。最も重要な機能としては、人間に解読可能なコンピュータ ホスト名（たとえば、*en.wikipedia.org*）を、ネットワーク機器による情報配信に必要な IP アドレスに変換することによって、インターネット上の「電話帳」として動作します。また、特定のドメイン宛ての電子メールを受け入れるメール交換サーバのリストなど、他の情報も保存します。DNS は、世界的なキーワードベースのリダイレクション サービスを提供するうえで、現在のインターネット利用における基本的なコンポーネントです。

DNS 名 ノードの初期名。

F

FTP File Transfer Protocol (ファイル転送プロトコル)。ネットワーク ノード間でファイルを転送するために使用され、TCP/IP プロトコル スタックの一部であるアプリケーションプロトコル。FTP は、RFC 959 で定義されています。

I

IP インターネット プロトコル。TCP/IP スタックにおいてコネクションレス型のネットワーク間サービスを提供するネットワーク層プロトコル。IP では、アドレッシング、タイプ オブ サービス指定、フラグメンテーションと再編成、セキュリティなどの機能が提供されます。IP は、RFC 791 に定義されています。

IP アドレス TCP/IP を使用するホストに割り当てられる 32 ビットのアドレス。IP アドレスは、5 つのクラス (A、B、C、D、E) のいずれかに属し、ピリオドで区切られた 4 つのオクテット (ドット区切り 10 進形式) で記述されます。各アドレスはネットワーク番号、オプションのサブネットワーク番号、およびホスト番号で構成されます。ネットワーク番号とサブネットワーク番号は、ともにルーティングに使用され、ホスト番号はネットワークまたはサブネットワーク内の個々のホストのアドレス指定に使用されます。サブネット マスクは、IP アドレスからネットワーク情報やサブネットワーク情報を抽出するために使用されます。

M

MIB 管理情報ベース。SNMP などのネットワークのネットワーク管理プロトコルによって使用および保守される直接リストされた情報。

N

NTP Network Time Protocol (ネットワーク タイム プロトコル)。遅延変動のあるパケット交換データ ネットワーク全体で、コンピュータ システムの時計を同期するためのプロトコル。NTP は、トランスポート層として、ユーザ データグラム プロトコル (UDP) ポート 123 を使用します。NTP は、遅延変動 (ジッター) の影響を抑制するために特に設計されています。

NTP は、現在使用されている最も古いインターネット プロトコルの 1 つです (1985 よりも前から使用されています)。NTP は、元来、デラウェア大学の Dave Mills 氏が設計したプロトコルであり、現在も同氏が、ボランティアのチームとともに開発を進めています。

このプロトコルは、はるかに単純な DAYTIME (RFC 867) や TIME (RFC 868) プロトコルとは関連がありません。

S

server クライアントサーバアーキテクチャの構成要素として、接続されたクライアントに対してサービスを実行するアプリケーションまたはデバイス。RFC 2616 (HTTP/1.1) では、サーバアプリケーションとは、「要求に対して応答を返すことでサービスを提供する目的で、接続を受け入れるアプリケーションプログラム」と定義されています。サーバコンピュータは、このような 1 つ以上のアプリケーションを、多くの場合長時間にわたり、人間による最小限の操作により実行するよう設計されたデバイスです。サーバの例としては、Web サーバ、電子メール サーバ、ファイル サーバがあります。

[クライアント](#) も参照してください。

SNMP 簡易ネットワーク管理プロトコル。TCP/IP ネットワークでほぼ独占的に使用されているネットワーク管理プロトコル。SNMP を使用すると、ネットワーク デバイスのモニタリングと制御、および設定、統計情報収集、パフォーマンス、セキュリティの管理が可能になります。

SNMPv1 SNMPv1 は、簡易な要求および応答プロトコルです。SNMPv1 フレームワークでは、ネットワーク管理システムが要求を実行し、管理対象デバイスが応答を返します。

SNMPv2C RFC 1902 に規定される SNMP の 2 番目のリリースです。データ タイプ、カウンタ サイズ、およびプロトコル動作に追加があります。SNMPv2C は、一括検索メカニズムと、管理ステーションへのより詳細なエラー メッセージ報告機能をサポートします。バルク取得メカニズムによって、テーブルおよび大量の情報を取得することがサポートされます。この処理によって、必要となるラウンドトリップ送信数が最小化されます。SNMPv2C の改良エラー処理機能は、エラー コードの拡張によりエラー状況の種類を区別します。SNMPv1 では、これらの状況が 1 つのエラー コードで報告されますが、エラー リターン コードでエラー タイプが報告されるようになりました。また、No such object、No such instance、および End of MIB view の 3 種類の例外も報告されます。

SNMPv3 SNMPv3 は、ネットワーク経由のパケットの認証と暗号化を組み合わせることによって、デバイスへのセキュア アクセスを提供するネットワーク管理のための相互運用可能な標準ベースのプロトコルです。これは主に、セキュリティやリモート設定の拡張機能を SNMP に追加します。SNMPv3 は、送信中にパケットが改ざんされないようにするためのメッセージ完全性、メッセージが有効なソースから取得されてことを検証する認証、および許可されていないソースによるスヌーピングを回避するためのパケット暗号化などの重要なセキュリティ機能を提供します。

SSH Secure Shell (セキュア シェル)。2 つのコンピュータ間で、セキュアなチャネルを介してデータを交換するネットワーク プロトコルです。暗号化によって、データの機密性と完全性が確保されます。SSH では、公開キーを使用した暗号法によって、リモート コンピュータの認証と、リモート コンピュータによるユーザ認証が行われます。

SSH は、通常、リモート マシンにログインしてコマンドを実行するために使用されますが、トンネリングや、任意の TCP ポートへのフォワーディング、X Window システム (X11) 接続もサポートします。ファイル転送は、関連付けられた SSH File Transfer Protocol (SFTP; SSH ファイル転送プロトコル) または Secure Copy Protocol (SCP; セキュア コピー プロトコル) を使用して実行されます。

デフォルトで、SSH サーバは、標準の TCP ポート 22 で受信します。SSH クライアントは、通常、リモート接続を受け入れる sshd デーモンに対して接続を確立するために使用されます。これらはいずれも、現在使用されているほとんどのオペレーティング システムに搭載されています。独自仕様、フリーウェア、およびオープンソースの各バージョンが存在し、複雑さの度合や完成度はさまざまです。

T

TCP 伝送制御プロトコル。信頼性の高い全二重データ伝送を実現する接続指向のトランスポートレイヤプロトコルです。TCP/IP プロトコル スタックに含まれています。

Telnet Telnet (TELEtype NETwork)。インターネット接続または LAN 接続で使用されるネットワーク プロトコルです。当初、RFC 0015 として 1969 年に開発され、IETF STD 8 として標準化されました。初期のインターネット標準の 1 つです。

Telnet という用語はまた、このプロトコルのクライアント部分を実装したソフトウェアも指します。Telnet クライアントは、長年の間、ほとんどの UNIX システムに搭載されてきましたが、今ではほとんどすべてのプラットフォームで使用可能です。TCP/IP スタックが搭載されたほとんどのネットワーク機器およびオペレーティング システムは、リモート コンフィギュレーションのために、何らかの Telnet サービス サーバ (Windows NT ベースのサーバを含む) をサポートしています。近年、UNIX マシンへのリモート アクセスには、セキュア シェルの使用が支配的になりつつあります。

大部分の場合、ユーザは UNIX のようなサーバシステム、またはスイッチのような単純なネットワーク デバイスへの Telnet 接続を構築します。たとえば、「自宅から職場に Telnet でログインして電子メールをチェックする」ことができます。これには、Telnet クライアントを使用して、コンピュータから職場のサーバのいずれかに接続します。接続が確立されると、アカウント情報を使用してログインし、コンピュータ上で、`ls` や `cd` などのオペレーティング システム コマンドをリモートで実行できるようになります。

TFTP Trivial File Transfer Protocol。簡易バージョンの FTP です。これにより、ネットワークを介して 2 つのコンピュータ間でファイルを転送することができます。

U

UDI Unique Device Identifier。識別可能な各製品は、Entity MIB (RFC 2737) およびそのサポート ドキュメントで定義されたエンティティです。シャーシなどの一部のエンティティには、スロットのようなサブエンティティがあります。イーサネット スwitch は、スタックなどのスーパー エンティティのメンバである場合があります。注文可能なシスコ製品のエンティティは、そのほとんどが UDI を割り当てられて出荷されます。UDI 情報は、ラベルに印字され、ハードウェア デバイスに物理的に貼付されます。また、簡単にリモート検索できるよう、デバイス内に電子的に保存されます。

UDI は、製品識別子 (PID)、バージョン識別子 (VID)、およびシリアル番号 (SN) で構成されます。

PID は製品を発注するための名前です。従来は「製品名」または「部品番号」と呼ばれていました。この ID は、正しい交換部品を発注するために使用します。

VID は製品のバージョンです。製品が改訂されると、VID が 1 つ大きくなります。VID は、製品変更の通知を管理する産業ガイドラインである Telcordia GR-209-CORE の厳密な手順に従って増加します。

SN はベンダー固有の製品の通し番号です。それぞれの製品には工場ですべての独自のシリアル番号があり、現場は変更できません。これにより、個別の具体的な製品が識別されます。

UDI 「UDI」を参照してください。

か

簡易ネットワーク管理プロトコル 「SNMP」を参照してください。

簡易ファイル転送プロトコル 「TFTP」を参照してください。

く

クライアント サーバに対しサービスを要求するノードまたはソフトウェア プログラム。たとえば、セキュア シェル (SSH) クライアントがこれに該当します。 [server](#) も参照してください。

こ

コマンドライン インターフェイス 「CLI」を参照してください。

コミュニティ ストリング パスワードとして機能するテキスト文字列。管理ステーションと SNMP エージェントを持つ IP 転送ポイント (ITP) との間で送信され、メッセージの認証に使用されます。コミュニティ ストリングによって、マネージャとエージェントの間のすべてのパケットが通過できるようになります。

せ

セキュア シェル 「SSH」を参照してください。

て

伝送制御プロトコル (TCP) 「TCP」を参照してください。

と

ドメイン ネーム システム 「DNS」を参照してください。

ドメイン名 インターネット DNS (R1034) のサブツリーに対して定義され、ホスト名、メールボックス名、URL など、他のインターネット識別子で 사용되는識別子のスタイル。大文字と小文字を区別せず、ドット (.) で区切られた ASCII ラベルのシーケンス (たとえば *bn.com.*) が使用されます。

ね

ネーム サーバ ネームサービス プロトコルを実装するコンピュータ サーバ。通常の機能として、コンピュータが使用可能なホスト識別子を、人間が使用可能なホスト識別子にマッピングします。たとえば、ドメイン名 *en.wikipedia.org* を IP address 145.97.39.155 に変換します。

ネットワーク タイム プロトコル 「NTP」を参照してください。

ほ

- ポート** IP 用語では、下位レイヤから情報を受信する上位層プロセス。番号付きの各ポートは、特定のプロセスに関連付けられています。たとえば、SMTP は、ポート 25 に関連付けられています。
- ホスト** ネットワーク上のコンピュータ システム。ノードという用語とほとんど同じ意味で使用されますが、「ホスト」が通常、コンピュータ システムを意味するのに対し、「ノード」は一般にアクセス サーバや ITP など、任意のネットワーク システムに適用されます。
- ホスト名** オペレーティング システムのサーバまたは主要なプログラム ファイルがあるコンピュータの名前。



INDEX

A

admin ユーザ [1-1](#)

C

CLI

アクセス [2-1](#)

コマンド、使用方法 [2-10](#)

CLI 監査ログ [1-9](#)

E

EXEC コマンド [1-5, A-2](#)

O

Operator (ユーザ) [1-1](#)

S

show コマンド [1-6, A-47, A-59](#)

SSH [1-1, 2-4](#)

あ

アカウント、ユーザ [1-1](#)

アクセス、CLI

SSH [2-4](#)

概要 [2-3](#)

コンソール ポート [2-4](#)

サポートされるプラットフォーム [2-3](#)

前提条件

セットアップ コンフィギュレーション [2-1](#)

ハードウェアのインストール [2-1](#)

か

関連資料 [ix](#)

こ

コマンド

EXEC

application configure [A-2](#)

application install [A-4](#)

application remove [A-6](#)

application reset-config [A-7](#)

application reset-passwd [A-9](#)

application start [A-10](#)

application stop [A-12](#)

application upgrade [A-13](#)

backup [A-14](#)

backup-logs [A-16](#)

clock [A-17](#)

configure [A-19](#)

copy [A-20](#)

debug [A-23](#)

delete [A-27](#)

dir [A-27](#)

exit [A-30](#)

forceout [A-31](#)

halt [A-31](#)

help [A-32](#)

mkdir [A-33](#)

nslookup [A-34](#)

- patch install [A-35](#)
- patch remove [A-37](#)
- pep [A-38](#)
- ping [A-41](#)
- ping6 [A-42](#)
- reload [A-43](#)
- restore [A-45](#)
- rmdir [A-46](#)
- show [A-47, A-59](#)
- ssh [A-49](#)
- tech [A-50](#)
- telnet [A-51](#)
- terminal length [A-52](#)
- terminal session-timeout [A-53](#)
- terminal session-welcome [A-53](#)
- terminal terminal-type [A-54](#)
- traceroute [A-54](#)
- undebug [A-55](#)
- write [A-57](#)
- show [1-6](#)
 - show application [A-60](#)
 - show backup history [A-62](#)
 - show cdp [A-62](#)
 - show clock [A-65](#)
 - show cpu [A-65](#)
 - show disks [A-67](#)
 - show icmp-status [A-69](#)
 - show interface [A-70](#)
 - show inventory [A-72](#)
 - show logging [A-73](#)
 - show logins [A-75](#)
 - show memory [A-76](#)
 - show ntp [A-76](#)
 - show pep [A-77](#)
 - show ports [A-83](#)
 - show process [A-85](#)
 - show repository [A-86](#)
 - show restore [A-87](#)
 - show running-configuration [A-88](#)
 - show startup-configuration [A-89](#)
 - show tech-support [A-90](#)
 - show terminal [A-92](#)
 - show timezone [A-93](#)
 - show timezones [A-93](#)
 - show udi [A-95](#)
 - show uptime [A-95](#)
 - show users [A-96](#)
 - show version [A-97](#)
- コンフィギュレーション
 - backup-staging-url [A-99](#)
 - cdp holdtime [A-99](#)
 - cdp run [A-100](#)
 - cdp timer [A-101](#)
 - clock timezone [A-102](#)
 - do [A-104](#)
 - end [A-107](#)
 - exit [A-107](#)
 - hostname [A-108](#)
 - icmp echo [A-109](#)
 - interface [A-110](#)
 - ip address [A-114](#)
 - ip default-gateway [A-115](#)
 - ip domain-name [A-116](#)
 - ip name-server [A-116](#)
 - ip route [A-117](#)
 - ipv6 autoconfig [A-111](#)
 - ipv6 dhcp [A-113](#)
 - kron occurrence [A-118](#)
 - kron policy-list [A-120](#)
 - logging [A-121](#)
 - ntp authenticate [A-123](#)
 - ntp authentication [A-122](#)
 - ntp authentication-key [A-124](#)
 - ntp server [A-126](#)
 - ntp trusted-key [A-128](#)
 - password-policy [A-129](#)
 - repository [A-130](#)
 - service [A-132](#)

shutdown [A-133](#)
 snmp-server community [A-134](#)
 snmp-server contact [A-135](#)
 snmp-server host [A-136](#)
 snmp-server location [A-137](#)
 username [A-137](#)

種類 [1-4](#)

モード

EXEC [1-5, 1-6](#)

コンフィギュレーション [1-8](#)

理解 [2-5](#)

コマンドの default 形式、使用 [2-10](#)

コマンドの no 形式、使用 [2-10](#)

コマンドの種類 [1-4](#)

コマンドライン

More プロンプト [2-12](#)

編集、キー [2-11](#)

コンソール ポート [1-1](#)

コンフィギュレーション コマンド [1-8, 2-7, A-97](#)

さ

サブモード、コンフィギュレーション [2-8](#)

サポートされるプラットフォーム

ソフトウェア [2-3](#)

ハードウェア [2-3](#)

し

使用

PC のローカルな [2-4](#)

SSH [2-4](#)

使用方法、コマンド [2-10](#)

せ

セットアップ ユーティリティ [1-2, 2-1](#)

た

対象読者 [vii](#)

ひ

表記法

More プロンプト [2-12](#)

コマンドライン、コンプリート機能 [2-11](#)

コマンドライン、編集 [2-11](#)

マニュアル [viii](#)

へ

ヘルプ、利用方法 [2-10](#)

ま

マニュアル

関連 [ix](#)

構成 [viii](#)

使用 [vii](#)

対象読者 [vii](#)

表記法 [viii](#)

も

モード

EXEC [2-5](#)

概要 [1-4](#)

コンフィギュレーション [2-7](#)

コンフィギュレーション、サブモード [2-8](#)

ゆ

ユーザ

アカウント [1-1](#)

コマンド権限 (表) [1-2](#)

モード [1-4](#)
ユーティリティ、セットアップ [2-1](#)